

令和8年度 令和健康科学大学大学院 シラバス 目次

No.

<基盤科目>

1 健康科学特論	1 頁
2 健康科学研究方法特論	3 頁
3 専門職連携特論	5 頁
4 保健医療倫理学特論	7 頁
5 保健医療管理学特論	9 頁
6 保健医療福祉システム特論	11 頁
7 生体情報科学特論	13 頁
8 臨床免疫学特論	15 頁
9 保健医療統計学特論	17 頁
10 保健医療社会学特論	19 頁
11 保健医療福祉とリハビリテーション	21 頁
12 英語文献講読	23 頁

<分野共通科目>

13 コンサルテーション特論	25 頁
14 ヘルスプロモーション論	27 頁
15 医療安全学特論	29 頁
16 専門職連携演習	31 頁
17 看護実践理論特論	33 頁
18 看護研究方法論	35 頁
19 看護政策論	37 頁
20 看護教育学	39 頁
21 リハビリテーション研究方法論	41 頁
22 リハビリテーション管理学特論	43 頁
23 心身機能計測技術論	45 頁
24 生活機能計測技術論	47 頁
25 福祉住環境特論	49 頁

<コース専門科目> 看護学教育・人材育成コース

26 看護管理学特論	51 頁
27 看護管理学演習	53 頁
28 看護教育学特論	55 頁
29 看護教育学演習	57 頁
30 精神看護学特論	59 頁
31 精神看護学演習	61 頁
32 地域・在宅看護学特論	63 頁
33 地域・在宅看護学演習	65 頁
34 看護学特別研究（看護管理学領域）	67 頁
35 看護学特別研究（看護教育学領域）	73 頁
36 看護学特別研究（地域包括ケア領域）	91 頁

No.

<コース専門科目> 実践看護学コース

37 高度実践看護特論	121 頁
38 臨床推論	122 頁
39 病態生理学特論	124 頁
40 疾病特論	126 頁
41 フィジカルアセスメント演習	129 頁
42 看護学特別研究（実践看護学）	131 頁

<コース専門科目> 心身機能支援コース

43 運動機能支援特論	149 頁
44 運動機能支援演習	151 頁
45 脳機能支援特論	153 頁
46 脳機能支援演習	155 頁
47 摂食嚥下機能支援特論	157 頁
48 摂食嚥下機能支援演習	159 頁
49 リハビリテーション学特別研究（心身機能支援）	161 頁

<コース専門科目> 生活支援コース

50 生活機能支援特論	191 頁
51 生活機能支援演習	193 頁
52 生活環境支援特論	195 頁
53 生活環境支援演習	197 頁
54 福祉工学支援特論	199 頁
55 福祉工学支援演習	201 頁
56 リハビリテーション学特別研究（生活支援）	203 頁

<自由科目> NP養成科目

57 人体構造機能論	239 頁
58 臨床薬理学特論	240 頁
59 呼吸器・循環器治療のための実践演習	242 頁
60 ドレーン管理のための実践演習	246 頁
61 疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	248 頁
62 疾病と治療 薬物治療Ⅰ	252 頁
63 疾病と治療 薬物治療Ⅱ	256 頁
64 NP実習	260 頁
65 クリティカルケア特論	263 頁
66 プライマリケア特論	265 頁

<自由科目> 教育関係科目

67 教育原論	267 頁
68 教育方法論	269 頁

科目名	令和8年度 健康科学特論				ナンバリング		
担当者	西村泰治・古後晴基・辻 慶子・田中悟郎・白石裕子						
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	専攻共通科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 令和健康科学大学では「健康科学」を、「生涯にわたる健康の維持、増進と心身の健康な発達や長寿社会における生活の質の向上について、人々の健康に関する課題を科学的に探究する学問」と定義している。日本は急速に高齢化社会へと移行しつつあり、健康長寿は国民の念願である。本科目では、国民のより良い健康を支援する職業に携わるものとして、看護、理学療法、作業療法の各々の視点より健康を深く理解し、人間の「健康」を支える「科学」とは何かについて思考する。また健康科学を支える学問は多岐にわたっているが、その科学的かつ実践的な取り組みにより、国民の健康を実現する手立てについて学ぶ。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) 本学における健康科学のとらえ方について説明できる。2) 健康科学の観点に基づき幅広い視野より、看護学とリハビリテーション学のあり方について考える能力を身に着ける。3) 健康科学の観点より看護学とリハビリテーション学における新しい分野の開拓について考える能力を身に着ける。4) 健康科学の実践による保健・医療・福祉の問題解決について考える能力を身に着ける。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 授業の視聴ならびに授業中の双方向性の質疑応答により理解を深めるとともに、理解したことをまとめる習慣を身に付ける。特に授業で理解できなかった点や、学ぶことにより新たに生じた疑問点を大切に、これらの点について講師との交流を通じて、その理解や解決に努める。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 講義に使用するスライドのPDF等を学習資料として、授業の事前にWeb上に掲載する。テキストや参考書については、受講生が知りたい内容が記載された図書等を個別に紹介する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率	20	20			40	20			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等					○	○			5
宿題・授業外レポート	◎	◎			◎	◎			60
授業態度	○	○			○	○			10
受講者の発表									
授業への参加度	○	○			○	○			25
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村泰治
	授業	大学院学生ならびに教員の自己紹介 大学院健康科学研究科の設置理念と健康科学と言う学問が目指すもの	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
2	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	古後晴基
	授業	健康科学の観点より捕らえたリハビリテーション学ー1	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
3	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	古後晴基
	授業	健康科学の観点より捕らえたリハビリテーション学ー2	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
4	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村泰治
	授業	人体に備わる健康の維持機構ー1	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
5	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	辻 慶子
	授業	健康科学の観点より捕らえた看護学ー1	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	

6	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	辻 慶子
	授業	健康科学の観点より捕らえた看護学―2	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
7	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村泰治
	授業	人体に備わる健康の維持機構―2	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
8	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村泰治
	授業	免疫系と医療：疾病の予防、診断、治療における免疫学の貢献	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
9	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	白石裕子
	授業	健康科学の観点よりとらえた心理学的アセスメント	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
10	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	白石裕子
	授業	健康科学の観点よりとらえた社会的アセスメント	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
11	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	白石裕子
	授業	健康科学の観点からとらえたストレスとリカバリーとは何かについて臨床事例を基にディスカッションし、その人らしく生きることの意味について考える。	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
12	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、各自臨床での事例を準備する。	白石裕子
	授業	各自の臨床事例についてストレスとリカバリーの視点で検討する① ピアレビューとスーパーバイズを行う。	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
13	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	田中悟郎
	授業	各自の臨床事例についてストレスとリカバリーの視点で検討する② ピアレビューとスーパーバイズを行う。	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
14	事前学習 (予習)	授業でのディスカッションを基に事例検討を深める。	白石裕子 田中悟郎 西村泰治
	授業	ストレスとリカバリーの視点で検討した事例の発表	
	事後学習 (復習)	各自の発表を聞いて自己の課題を明らかにする。	
15	事前学習 (予習)	下記のテーマについて、自分なりにまとめて10分程度で発表する準備をする。	白石裕子 田中悟郎 西村泰治
	授業	発表会：「健康科学の観点」を自身の大学院教育や臨床実践にどのように生かすのか？	
	事後学習 (復習)	他の大学院学生の発表や教員のコメントを参考にして、自身の考えをさらに磨き上げる。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまでも予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・受講に際しては、自らの実践経験により得た疑問点や問題点などの解決を意識して能動的に学ぶこと。 ・オフィスアワー：eメールによる質問や問い合わせには、随時対応します。面談については、eメールや電話でアポイントメントを取ってください。 Eメール: y.nishimura@kyoju.ac.jp 電話: 092-607-6701 (代表) ⇒ PHS: 7308 呼び出し	

科目名	健康科学研究方法特論				ナンバリング		
担当者	西村泰治・正野逸子・白石裕子・川原田淳						
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学研究の意義や目的、種類を理解し、高度専門職業人としての実践に貢献するための研究方法論を学ぶことで、コース専門科目の演習や特別研究を実施するための基礎を築く。具体的には、健康科学の観点から保健や医療領域における研究を学ぶことを通して、リサーチクエッションと研究プロセス、系統的文献検索、クリティーク、多様な研究方法、研究における倫理、研究計画の立案、データ収集と分析、研究成果のまとめ方などに関する知識と技術を養う。一連のプロセスから研究の基本的なプロセスと方法論を学修し、研究活動を行うために必要な基礎的な研究能力の向上を図る。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)健康科学研究の意義と目的、方法を説明できる。 2)研究のプロセスを説明できる。 3)系統的文献検索ができ、キーワードを基に文献リストを作成できる。 4)研究論文のクリティークができる。 5)研究の倫理的配慮について説明できる。 6)研究計画書を作成できる。 7)論文の書き方を説明できる。 8)学会発表の方法を説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 研究における知識については講義で学び、系統的文献検索やクリティーク、研究計画書の作成などは、演習で学ぶ。特にクリティーク、研究計画書については、事前の学習課題とし、授業ではディスカッションを行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	80			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート					○	◎	◎		30
授業態度		○			○	○	○		10
受講者の発表						○	○		40
授業への参加度									20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール) +A31:Z78			担当教員
1	事前学習 (予習)	これまでの研究経験とその経験を通しての気づきや疑問を整理しておく	西村泰治 正野逸子
	授業	ガイダンス 健康科学研究の意義と動向、方法、展望と課題	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自己の学修計画を立案しておく	
2	事前学習 (予習)	興味ある研究テーマのkeywordを準備しておく	正野逸子 (図書館司書)
	授業	系統的文献検索(演習:医学中央雑誌、最新看護検索など)	
	事後学習 (復習)	系統的文献検索方法についてまとめておく。文献リストの作成を行う	
3	事前学習 (予習)	興味ある研究テーマのkeywordを準備しておく	正野逸子 (図書館司書)
	授業	系統的文献検索(演習:医書JP、MedLine、CINAHL、Google Scholarなど)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに系統的文献検索方法についてまとめておく。文献リストの作成を行う	
4	事前学習 (予習)	参考文献をもとに研究のプロセスをまとめておく	西村泰治
	授業	リサーチ・クエッションと研究のプロセス	
	事後学習 (復習)	授業をもとに研究のプロセスを整理する	
5	事前学習 (予習)	論文クリティークの意義と方法についてまとめておく	正野逸子
	授業	論文クリティークの方法	
	事後学習 (復習)	授業をもとに論文クリティークの方法を整理する	

6	事前学習 (予習)	課題論文のクリティークをまとめておく	正野逸子
	授業	論文のクリティーク(質的研究)	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークを修正する	
7	事前学習 (予習)	研究課題と研究デザインの関係について整理しておく	正野逸子
	授業	研究課題と研究デザイン、研究計画書	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自分の課題について、研究計画書を作成する	
8	事前学習 (予習)	課題論文のクリティークをまとめておく	川原田淳
	授業	論文のクリティーク(量的研究)	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークを修正する	
9	事前学習 (予習)	研究計画書の意義と内容について整理しておく	正野逸子 白石裕子 川原田淳
	授業	研究計画書をグループディスカッションで検討	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自分の課題について研究計画書を修正する	
10	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	川原田淳
	授業	実験研究の基礎と実際について	
	事後学習 (復習)	授業をもとに実験研究について整理する	
11	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	馬場みちえ
	授業	研究における倫理的配慮について	
	事後学習 (復習)	授業をもとに研究の倫理的配慮について整理する	
12	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	白石裕子
	授業	システマティックレビュー研究について	
	事後学習 (復習)	授業をもとにシステマティックレビュー研究について整理する	
13	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	白石裕子
	授業	介入研究について	
	事後学習 (復習)	授業をもとに介入研究について整理する	
14	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	白石裕子
	授業	尺度開発の理論と実際について	
	事後学習 (復習)	授業をもとに尺度開発研究について整理する	
15	事前学習 (予習)	論文の書き方と発表の仕方および自己の課題について、まとめる	正野逸子
	授業	論文の書き方と発表の仕方	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自己の課題の改善点を整理する	
備考		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。、院生の積極的・主体的な参加を求める。 ・評価は各教員の課題レポートの提出と内容の総合点を平均したものとする ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 随時担当教員研究室	

科目名	専門職連携特論				ナンバリング		
担当者	白石裕子・永崎孝之・田中悟郎						
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 医療専門職におけるチーム医療の目的と実際、チームびるでいにくのプロセスを理解し、専門職連携における課題を明らかにする。さらに、地域包括ケアが推進されている中で、地域において自職種と多職種の理解と連携を促進するコミュニケーションの重要性について理解する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)専門職連携の目的、内容、意義を説明できる。 2)対象者の倫理について説明できる。 3)専門職連携の重要性と基盤となる理論について説明できる。 4)チームビルディングのプロセスを説明できる。 5)専門職連携を促進するコミュニケーションの方法論について、他職種と対話やディスカッションを通して理解できる。 6)自己の事例を通して専門職連携についての課題と展望を説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーション。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 『保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント』柴咲智美/米岡裕美/古谷牧子 [編著] ミネルヴァ書房, 2019。 『これからのIPEガイドブック』酒井郁子/井出成美/朝比奈真由美編, 南江堂, 2023。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10		10			40	40	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○		○			○	○	20
授業態度							○	○	20
受講者の発表		○		○			○	○	40
授業への参加度							○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを熟読し、授業の概要や到達目標を把握しておく	白石裕子
	授業	・ガイダンス ・大学院で専門職連携を学ぶ意義 ・専門職連携が求められる背景	
	事後学習 (復習)	提示された著作や学習資料へのアクセスを確認する	
2	事前学習 (予習)	チームビルディングに関する文献を読む	白石裕子
	授業	専門職連携の重要性と基盤となる理論 ・タックマンのチームビルディングモデル ・専門職連携におけるコンピテンシー	
	事後学習 (復習)	講義内容をまとめる	
3	事前学習 (予習)	「福祉と医療の連携を考える会」の演題を読んでおく	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	「福祉と医療の連携を考える会」参加	
	事後学習 (復習)	担当事例の内容をまとめる	
4	事前学習 (予習)	発表事例における多職種連携の実際を知る	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	「福祉と医療の連携を考える会」参加	
	事後学習 (復習)	担当事例についての学び、考察、疑問点などを明確にする	

5	事前学習 (予習)	担当事例についての学び、考察、疑問点などを明確にする	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	「福祉と医療の連携を考える会」参加	
	事後学習 (復習)	担当事例についての学び、考察、疑問点などを各自でまとめる	
6	事前学習 (予習)	担当事例についての各自の学び、考察、疑問点などを持ち寄る	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	「福祉と医療の連携を考える会」発表事例についての検討	
	事後学習 (復習)	各自の内容をグループでまとめる	
7	事前学習 (予習)	グループでプレゼンテーションの準備をする	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	「福祉と医療の連携を考える会」発表事例検討発表会	
	事後学習 (復習)	各グループの発表内容を統合し整理する。	
8	事前学習 (予習)	提示する資料を読んでおく	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	専門職連携を促進するコミュニケーション	
	事後学習 (復習)	授業の内容を統合し整理する	
9	事前学習 (予習)	演習でコミュニケーションスキルを用いることが出来るよう準備する	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	専門職連携を促進するコミュニケーション演習	
	事後学習 (復習)	発表内容についてディスカッションする	
10	事前学習 (予習)	自己の臨床における多職種連携の場面に関する課題を考える	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	事例を用いたチームビルディングの講義と演習①	
	事後学習 (復習)	プレゼンテーションの統合と整理	
11	事前学習 (予習)	プレゼンテーションの準備	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	事例を用いたチームビルディングの講義と演習②	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
12	事前学習 (予習)	地域における専門職にはどのような職種があるか確認する	永崎孝之
	授業	地域における専門職との連携	
	事後学習 (復習)	地域における専門職との連携について整理する	
13	事前学習 (予習)	地域における非専門職の範囲について確認する	永崎孝之
	授業	地域における非専門職との連携	
	事後学習 (復習)	地域における専門職・非専門職との連携について整理する	
14	事前学習 (予習)	自己の臨床における多職種連携の場面に関する課題を考える	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	医療における専門職連携の実際と課題	
	事後学習 (復習)	ディスカッションを統合し整理する	
15	事前学習 (予習)	本科目での学びと自己の臨床への拡大についてまとめる	白石裕子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	講義のまとめ	
	事後学習 (復習)	本科目の内容を統合し整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 白石・齋藤2707室で行う。予約はメールでアポイントを取ること。	

科目名	保健医療倫理学特論				ナンバリング		
担当者	辻慶子・児玉裕美						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	必修
開講コース					分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 医療倫理学の歴史的発展、基本概念や倫理原則、法律について学ぶ。医療現場における倫理的な問題に対する事例検討を通して、問題解決能力を修得する。また研究者として、責任ある研究行為について理解を深める。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)医療倫理の歴史的発展について説明できる。 2)医療倫理の基本原則を学習し、患者の権利と医療者の義務を説明できる。 3)医療のあらゆる場面で遭遇する倫理的問題に対しての対処方法を説明できる。 4)研究者としての立場や役割、責務について説明できる。 5)講義や討議を通して医療倫理について考え、自分の意見を述べるができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 医療倫理学の歴史的発展、基本概念や倫理原則、法律については講義で学ぶ。経験した倫理的問題・ジレンマについて各自プレゼンテーションを行い、その後に参加者とディスカッションする。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 授業に関連した資料を配布、または適宜、参考書籍を紹介する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率	10	60				20		10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート	○	◎				○		○	30
授業態度	○	○				○		○	10
受講者の発表	○	○				○		○	40
授業への参加度	○	○				○		○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	臨床経験を振り返り、倫理的な問題と考える事象を列挙する	児玉 (辻)
	授業	ガイダンス医療倫理とは：医療倫理学の歴史や基本的な考え方について	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理する	
2	事前学習 (予習)	事前に配布した資料や参考図書や目を通して、ディスカッションを行う準備をする	児玉 (辻)
	授業	臨床における倫理原則：倫理原則と臨床での実践上で重要となる概念 (自律、患者の権利、ケアリング、アドボカシー、インフォームドコンセントなど)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
3	事前学習 (予習)	ヘルシンギ宣言, informed consent, informed assentについて学習する	児玉 (辻)
	授業	研究倫理：看護・医療における研究者の倫理、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針	
	事後学習 (復習)	研究者としての立場や役割、責務についてまとめる	
4	事前学習 (予習)	研究倫理の授業資料や報道された事件について確認する	児玉 (辻)
	授業	研究倫理に関する事例検討	
	事後学習 (復習)	グループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
5	事前学習 (予習)	本学の倫理審査申請書を確認する	児玉 (辻)
	授業	倫理審査：研究計画書、倫理審査申請書、利益相反について	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
6	事前学習 (予習)	自らのジレンマとなっている事例を整理する	辻 (児玉)
	授業	倫理的意思決定のための検討①：倫理問題検討ツール・概念の理解 (Jonsenの症例検討モデル、Fryの倫理的意思決定モデルなど)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	

7	事前学習 (予習)	自らのジレンマとなっている事例を整理する	辻 (児玉)
	授業	倫理的意思決定のための検討①: 倫理問題検討ツール・概念の理解 (臨床倫理検討シートなど)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識・対する理解を深め、定着させるように努める	
8	事前学習 (予習)	事前・配布した資料や参考図書に目を通して、ディスカッションを行う準備をする	辻 (児玉)
	授業	倫理的意思決定: Advance directive(AD), Advance Care Planning(ACP), Shared Decision Making(SDM) について	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
9	事前学習 (予習)	小児の医療倫理 関わる報道された事件 *について調べる	菊原美緒
	授業	医療職の倫理 *について事例検討: 「小児の事例」	
	事後学習 (復習)	グループディスカッションを通して得た知識・対する理解を深め、定着させるように努める	
10	事前学習 (予習)	医療倫理 関わる報道された事件について調べる	外部講師 (柴田弘子) (辻、児玉)
	授業	臨床での実践における倫理的課題① (ディベート概論)	
	事後学習 (復習)	グループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
11	事前学習 (予習)	医療職の倫理綱領 (各専門職) についてクリティークの準備をする	辻 (児玉)
	授業	医療専門職組織の倫理的役割、倫理綱領のクリティーク	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
12	事前学習 (予習)	プレゼンテーションの準備を行う	外部講師 (柴田弘子) (辻、児玉)
	授業	臨床での実践における倫理的課題② (模擬ディベート)	
	事後学習 (復習)	グループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
13	事前学習 (予習)	精神患者の医療倫理に関わる報道された事件について調べる	齋藤嘉宏
	授業	医療職の倫理について事例検討: 「精神患者の事例」	
	事後学習 (復習)	グループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
14	事前学習 (予習)	プレゼンテーションの準備を行う	外部講師 (柴田弘子) (辻、児玉)
	授業	臨床での実践における倫理的課題③ (本ディベート)	
	事後学習 (復習)	グループディスカッションを通して得た知識・対する理解を深め、定着させるように努める	
15	事前学習 (予習)	生命倫理に関する論文や書籍を読む	辻 (児玉)
	授業	生命倫理 (性と生殖の生命倫理、死の生命倫理、先端医療と制度をめぐる生命倫理)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・受講に際しては、自らの実践経験により得た疑問点や問題点などの解決を意識して能動的に学ぶこと。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 辻;水曜日 15～19時 2721室、児玉;火曜日 15～17時 2711室	

科目名	保健医療管理学特論				ナンバリング		
担当者	倉岡有美子・近藤敏						
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 管理の視点で保健・医療・福祉の現状と課題を明らかにし、多様なヘルスケアサービスを必要とする対象に対して、質の高いサービスを提供するために組織を発展させる方法を学ぶ。						
授業の 到達目標	1) 組織運営に関する代表的な理論、方法論について説明できる。 2) 組織運営に関する代表的な理論、方法論を臨床現場に応用し、組織を発展させるための方策を説明できる。 3) 医療機関の経営の特徴について説明できる。 4) 自己の所属する医療機関/施設の内部環境 (強みと弱み) と外部環境 (機会と脅威) を可視化できる。 5) 管理者の視点で職員の安心・安全に必要な教育や取るべき対策をあげることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 教員による講義と演習、学生によるプレゼンテーションで学習を進める。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) テキスト: 1) 倉岡有美子 (2018) 看護現場を変える0～8段階のプロセス, 医学書院。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			10	70			10	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	◎			○	○	40
授業態度			○	○			○	○	10
受講者の発表			○	◎			○	○	30
授業への参加度			○	○			○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく。	倉岡有美子
	授業	組織論 リーダーシップとマネジメント	
	事後学習 (復習)	授業をもとに組織論、リーダーシップとマネジメントについて整理する。	
2	事前学習 (予習)	テキスト1) を読む。	倉岡有美子
	授業	変革理論①	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自身の変革計画を洗練させる。	
3	事前学習 (予習)	テキスト1) を読む。	倉岡有美子
	授業	変革理論②	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自身の変革計画を洗練させる。	
4	事前学習 (予習)	自身の変革計画を完成させる。	倉岡有美子
	授業	変革理論の臨床への応用① 学生のプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自身の変革計画を洗練させる。	
5	事前学習 (予習)	自身の変革計画を完成させる。	倉岡有美子
	授業	変革理論の臨床への応用② 学生のプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自身の変革計画を洗練させる。	
6	事前学習 (予習)	配布資料を読む。	倉岡有美子 ゲスト講師 (松岡泰裕)
	授業	医療機関の経営	
	事後学習 (復習)	授業をもとに医療機関の経営について整理する。	

7	事前学習 (予習)	SWOT分析について調べておく。	近藤敏
	授業	企業の事業戦略を策定する際のフレームワークであるSWOT分析を通じて、医療機関/施設の内部環境(強みと弱み)・外部環境(機会と脅威)について具体例をあげて討議する。	
	事後学習 (復習)	所属する施設のSWOT分析を行い今後の事業戦略を立てる。	
8	事前学習 (予習)	業務継続計画BCPについて調べておく。	近藤敏
	授業	医療機関/施設において安心・安全に不可欠な職員教育(守秘義務、ハラスメント、高齢者虐待防止等)および業務継続計画BCPを踏まえた防災、インフラ、資金・助成金、関係機関との連携等について討議する。	
	事後学習 (復習)	所属する職場のBCPと自己の役割を確認する。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・1週間あたり90分の事前・事後学習時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 倉岡2713号室で行う、または近藤までメールでアポイントを取る。	

科目名	保健医療福祉システム特論				ナンバリング			
担当者	正野逸子・田中悟郎・池田敏子							
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	選択	
開講コース	全コース				分類		専攻共通科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)							
	保健医療福祉に係る法制度および政策についての基礎的な知識や保健医療福祉分野におけるシステムの現状と課題をふまえた上で、地域で潜在的な健康問題を抱えて生活する人々や疾患や障害を抱えながら生活する人々に必要な保健医療福祉サービスを提案できる知識を修得する。また、様々な保健医療福祉システムの取り組み事例をもとに地域におけるネットワーク構築について学ぶ							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)							
	1) 保健医療福祉に係る法律や政策についての最新の知識を深めることができる。 2) 保健医療福祉システムやネットワークの現状と課題について説明できる 3) 地域で潜在的な健康問題を抱えて生活する人々や疾患や障がいを抱えながら生活する人々に必要な保健医療福祉サービスを説明できる。 4) 保健医療福祉分野におけるシステムの探求ができる。 5) 課題についてのプレゼンテーションができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)							
	ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)							
	厚生労働統計協会：「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」 その他、適宜紹介する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率	10	10			10	10	30	30	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート	◎				○		◎	◎	30
授業態度	○				○		○	○	10
受講者の発表	○	○			○		○	◎	40
授業への参加度	○	○					○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく。	正野逸子
	授業	ガイダンス 地域保健を支える法制度と施策、地域保健の立場からとらえる保健医療福祉システムの現状と課題	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	地域の組織化についてまとめておく	池田敏子
	授業	地域の組織化、ネットワーク構築	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域の組織化、ネットワーク構築において看護職に求められる役割・機能、課題を整理する	
3	事前学習 (予習)	地域包括ケアシステムについてまとめておく	正野逸子
	授業	地域包括ケアシステムの概要	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域包括ケアシステムの課題について整理する	
4	事前学習 (予習)	精神障がい者の地域支援についてまとめておく	田中悟郎
	授業	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築Ⅰ	
	事後学習 (復習)	授業をもとに精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を整理する	
5	事前学習 (予習)	在宅ケア、在宅医療、訪問看護をまとめておく	正野逸子
	授業	在宅ケアにおける連携 (在宅ケア、在宅医療、訪問看護)、協働、ネットワークの現状と課題	
	事後学習 (復習)	在宅ケアの在宅ケアの連携と協働について整理する	
6	事前学習 (予習)	精神障がい者の地域支援についてまとめておく	田中悟郎
	授業	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築Ⅱ	
	事後学習 (復習)	授業をもとに精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を整理する	

7	事前学習 (予習)	地域包括ケアシステムの取り組み事例をまとめておく	正野逸子 田中悟郎
	授業	事例をもとにした保健医療福祉システムの検討と討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域包括ケアシステムの課題と解決方法についてを整理する	
8	事前学習 (予習)	保健医療福祉システム課題と発展についてまとめておく	正野逸子 田中悟郎 池田敏子
	授業	よりよい保健医療福祉システムの検討と展望	
	事後学習 (復習)	保健医療福祉の発展の具体的な方策を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーション等、院生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり90分の事前・事後学習時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 木曜 15～18時2906室	

科目名	生体情報科学特論				ナンバリング		
担当者	田中裕二・古後晴基						
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学である看護学やリハビリテーション学ではケアの対象者から得られた生体情報を健康状態のアセスメントの1つの指標として捉えている。講義では脳波 (誘発脳波、事象関連電位、BISモニタ)、筋電図 (誘発筋電図)、画像診断 (CT、MRI、エコー) などの記録法について概説し、記録方法の基本的な原則、データの解釈や臨床での活用方法などについて学修する。また、臨床において生理学的なデータを活用するための基礎的な技術について講義および演習を通して学修する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)生体情報を記録するための方法について説明できる。 2)記録された生体情報のデータについて理解できる。 3)生体情報の臨床での活用方法について説明できる。 4)臨床での生体情報の活用における課題について明確にできる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義、演習、発表						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 講義に使用するパワーポイント資料のPDFファイルを事前に提示する。参考図書等については適宜紹介する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率	20	20			10	40	10		100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート	◎					◎			60
授業態度		○							10
受講者の発表					○		○		20
授業への参加度		○							10
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを事前に確認し、本科目の概要と到達目標を理解する	田中裕二 古後晴基
	授業	ガイダンス; 講義および演習内容、成績評価について説明する	
	事後学習 (復習)	今後の学修計画を考え、整理する	
2	事前学習 (予習)	講義資料を確認し、質問内容を考える	田中裕二 古後晴基
	授業	脳波 (誘発脳波、事象関連電位、BISモニタ) のメカニズム、生理学的意義および記録方法について概説する	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
3	事前学習 (予習)	講義資料を確認し、質問内容を考える	田中裕二 古後晴基
	授業	筋電図 (誘発筋電図) のメカニズム、生理学的意義および記録方法について概説する	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
4	事前学習 (予習)	講義資料を確認し、実習内容を理解する	田中裕二 古後晴基
	授業	学修した内容の脳波について、実際に機器を用いて記録手順を学び、記録されたデータについて理解する (演習)	
	事後学習 (復習)	実習内容を整理し、参考資料で確認する	

5	事前学習 (予習)	講義資料を確認し、質問内容を考える	田中裕二 古後晴基
	授業	画像診断 (コンピュータ断層撮影 (CT)、核磁気共鳴画像法 (MRI)、超音波検査 (エコー)) のメカニズム、生理学的意義および記録方法について概説する	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
6	事前学習 (予習)	講義資料を確認し、質問内容を考える	田中裕二 古後晴基
	授業	末梢血流動態の生理学的意義および記録方法について概説する	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
7	事前学習 (予習)	講義資料を確認し、実習内容を理解する	田中裕二 古後晴基
	授業	学修した内容のエコーについて、実際に機器を用いて記録手順を学び、記録されたデータについて理解する (演習)	
	事後学習 (復習)	実習内容を整理し、参考資料で確認する	
8	事前学習 (予習)	発表資料および発表の準備をする	田中裕二 古後晴基
	授業	講義および演習内容を整理し、今後の展望について各自発表を行う	
	事後学習 (復習)	発表内容および討論内容について整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまでも予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・講義が中心であるが、授業内の発言を重視する。受講に際しては、自らの実践経験により得た疑問点や問題点などを解決するために積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー: 各担当教員に事前にメールなどでアポイントメントを取ること。	

科目名	令和8年度 臨床免疫学特論				ナンバリング			
担当者	西村 泰治							
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	選択	
開講コース	全コース				分類	専攻共通科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 免疫学は比較的に新しい学問領域であり、従来理解できなかった多くの人体の生理現象や疾病の病態と発症機序が、免疫学の発展により解明された。本科目では、体内に侵入してくる細菌、ウイルス、寄生虫などを排除するために、脊椎動物が進化させた免疫系の機能について理解することにより、免疫系が生体の防御と恒常性の維持に果たす重要な役割について学ぶ。さらに免疫異常症としてのアレルギー性疾患や自己免疫疾患について学び、ワクチンによる感染症の予防や、がん細胞に対する免疫反応とそのがん治療への応用などの、医療に関連する免疫反応について理解することにより、将来の高度医療の実践に資する知識を学んで身に着ける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) 免疫系の生体防御機能における役割について説明できる。 2) 自然免疫系と獲得免疫系の違いと連携について説明できる。 3) 抗体の構造と機能ならびに産生機構について説明できる。 4) T細胞の種類と機能について説明できる。 5) 免疫系の異常により発症するアレルギー性疾患や自己免疫疾患などについて、その病態を説明できる。 6) ワクチンを用いた感染症の予防や、がんに対する免疫療法の作用機序について説明できる。 7) 臨床検査における免疫 (特に抗体) の役割について説明できる。 8) 対象者の病状の観察に際して、免疫学の観点による見方を身に着ける。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 授業の視聴ならびに授業中の双方向性の質疑応答により理解を深めるとともに、自分なりに理解した内容をまとめる習慣を身に付ける。特に授業で理解できなかった点や、学ぶことにより新たに生じた疑問点を大切に、これらの点について講師との交流を通じて、その理解や解決に努める。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 講義に使用するスライドのPDF等を学習資料として、授業の事前にWeb上に掲載する。テキストや参考書については、受講生が知りたい内容が記載された図書等を個別に紹介する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1		D2		D3		D4	
	健康支援に必要な対象の理解	医療人としての倫理観	高度な知識と技術	マネジメント能力	健康状態の科学的かつ包括的な評価	実践的な研究能力	現場や地域へのニーズと課題の明確化	専門職連携に基づいた協働的方法
学修比率	5	35			35	25		100
評価基準・方法								
定期試験								5
小テスト等								60
宿題・授業外レポート								10
授業態度								25
受講者の発表								
授業への参加度								
その他								
合計								100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	免疫系発見の歴史	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
2	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	免疫系を構成する臓器、組織と細胞	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
3	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	自然免疫系の働き	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
4	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	獲得免疫系の働きー1 B細胞と抗体産生	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
5	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	獲得免疫系の働きー2 T細胞の種類と機能	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
6	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	臨床免疫学ー1 感染免疫とワクチン	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
7	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	臨床免疫学ー2 アレルギー性疾患と自己免疫疾患	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	

8	事前学習 (予習)	授業の参考資料に目を通して、この授業では何を学ぶのか、あらかじめ概要を理解しておく。	西村 泰治
	授業	臨床免疫学ー3　腫瘍免疫とがん免疫療法	
	事後学習 (復習)	授業で理解できたことをまとめ、理解できていない点を洗い出して講師に尋ねる。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまでも予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・受講に際しては、自らの実践経験により得た疑問点や問題点などの解決を意識して能動的に学ぶこと。 ・オフィスアワー: eメールによる質問や、問い合わせには随時対応します。面談については、eメールや電話で アポイントメントを取ること。E メール: y.nishimura@kyoju.ac.jp　電話: 092-607-6701 (代表) ⇒ PHS: 7308 呼び出し	

科目名	保健医療統計学特論				ナソハ'リング'		
担当者	馬場みちえ・玉利誠						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 医療における量的研究の内容理解と研究計画に求められる知識の修得をはかる。自己の研究課題について解析するために必要な統計学の基礎を学び、研究の妥当性や信頼性、健康科学への効果、疫学研究から因果関係を調査するための考え方を探求する。 本講義では、医療統計学に関連する体系的知識はもとより、簡単な基本統計、パソコンによる表計算ソフトを利用した統計ソフト、演習を通して保健分野で用いられる統計解析技法、自己の研究課題に必要な推測統計・結果の解釈について学ぶ。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 研究で多用される統計学の基本的コンセプトを理解し、研究デザインやデータの形に添って正しい統計検定手法の選択ができ、自身で統計解析を行う基礎能力を身につけることができる。 1)医療における研究のデザインを理解する。 2)基本的な統計処理方法を理解する。 3)研究目的に応じた適切な研究デザインを選択できる。 4)尺度の信頼性・妥当性、データ分析方法を理解する。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義を聴講するのみでは統計は身につけにくいことから、対馬の本を事前学習いただき、学生が講義中にプレゼンテーションする。それに対して質疑応答、ディスカッションを実施する。基本的な本的な知識や考え方について学ぶ。研究テーマに応用できるようにディスカッションしながら、学習をすすめる。見慣れない用語が多いので、事前学習をして講義に望む。練習問題も解きましょう。 なお、プレゼンテーションは、各項目学生担当し、約30分程度でプレゼンをお願いします。 学生のこれまでの統計解析の経験、論文抄読において統計で困っていること、統計を学習することへの期待などをお尋ねします。研究に関することでもかまいません。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) ①対馬栄輝.医療統計解析-使いこなし実践ガイド 臨床研究で迷わないQ & A.羊土社.2020 ISBN 978-4-7581-0248-3 ②小塩真司、SPSSとAmosによる心理調査データ解析第6版 東京書籍 ISBN978-4489021008						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題	専門職連携に 基づく	
学修比率			40		20	40			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎		○	◎			40
授業態度			○		○	◎			20
受講者の発表			○		○	○			20
授業への参加度			○		○	○			20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	これまでの統計を用いた研究経験とその経験を通しての気づきや疑問を整理しておく	馬場みちえ 玉利誠
	授業	ガイダンス 統計解析のすすめ 基礎編1.臨床統計と統計解析-なぜ統計解析が必要か 基礎編2.統計解析の基礎、(3.統計解析のための準備①)	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自己の学修計画を立案しておく	
2	事前学習 (予習)	統計に関して気づきや疑問を整理しておく	玉利誠 馬場みちえ
	授業	基礎編4.統計解析のための準備② 基礎編5.統計解析のための準備③	
	事後学習 (復習)	授業をもとに統計学について整理する	
3	事前学習 (予習)	記述統計、正規分布について自己学習しておく	玉利誠 馬場みちえ
	授業	実践編1. 2つの変数の関係をみたい 実践編2. 2つのグループ間に差があるか知りたい 差の検定 t検定等	
	事後学習 (復習)	授業をもとに記述統計、正規分布について整理する	

4	事前学習 (予習)	推測統計、仮説検定について自己学習しておく	馬場みちえ
	授業	3.3つ以上のグループ間に差があるか知りたい一元配置分析と多重比較表 4.3つ以上の測定条件間に差があるか知りたい反復測定による分散分析と多重比較法	
	事後学習 (復習)	授業をもとに推測統計、仮説検定について整理する	
5	事前学習 (予習)	観察、介入から得られる治療やケアの効果、曝露効果について学習しておく	馬場みちえ 玉利誠
	授業	5. 変数同士の因果関係を知りたい 回帰分析・重回帰分析 6. グループ分けされた2つの変数の関連を知りたい 分割表の検定 χ^2 検定等	
	事後学習 (復習)	授業で学修した効果について整理する	
6	事前学習 (予習)	2群間比較、検定、相関および多群間比較について学習しておく	玉利誠 馬場みちえ
	授業	7. グループ間の差に影響を与える複数の因子を知りたい 多重ロジスティック分析 8. 検査値の指標	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自己の研究テーマから得られる群間での考え方を整理する	
7	事前学習 (予習)	これまで経験した研究デザイン、自身の研究テーマのkeywordを準備しておく	馬場みちえ 玉利誠
	授業	エクセル (SPSS) 統計解析を用いた基本的使用方法①	
	事後学習 (復習)	学修したことをもとに研究デザイン、自己の研究について整理する	
8	事前学習 (予習)	課題論文のクリティークをまとめておく	馬場みちえ 玉利誠
	授業	エクセル (SPSS) 統計解析を用いた基本的使用方法②	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークを修正する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーション、実際の演習を重視する。、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 水曜 13～17時室 先にアポイントメントをとる。	

科目名	保健医療社会学特論				ナンバリング		
担当者	中川輝彦						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 社会学的観点から、自らの仕事を、他職種との関係で、組織や制度的な文脈で、地域社会のなかで、また自職種が依拠する学問分野との関係で捉え直し、実践に役立てる力を養う。そのために必要な社会学の知識・技術を講義と演習を通じて修得する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 社会学的観点から自らの経験・状況を把握できる。 1)社会学の術語・命題の内容について平易な表現で叙述できる。 2)社会学の術語や命題を用いて、自らの職務上の経験や自らの置かれている状況を記述・説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 上記「到達目標」を達成するためには、講義で学んだことを用いて思考できなければならない。そうした力を身に付けるためには、学んだ術語・命題を用いて、自らの経験や状況を記述・説明する訓練を繰り返す必要がある。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) ・中川輝彦・黒田浩一郎編、*2010、『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房。 ・中川輝彦・黒田浩一郎編、*2015、『〔新版〕現代医療の社会学』世界思想社。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	○					20
授業態度			○	○					20
受講者の発表			○	○					20
授業への参加度			◎	◎					40
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	行為と予期	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	
2	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	予期と想像力	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	
3	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	想像力と社会システム	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	
4	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	社会システムと物語	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	
5	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	専門家システムとしての保健医療	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	

6	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	組織としての保健医療	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	
7	事前学習 (予習)	指定のテキストを読む。	中川輝彦
	授業	実践としての保健医療	
	事後学習 (復習)	自らの経験を授業で提示した概念装置を用いて記述・説明する。	
8	事前学習 (予習)	授業内容を振り返り、疑問点を整理する。	中川輝彦
	授業	保健医療と社会学	
	事後学習 (復習)	授業内容を振り返り、到達点を整理する。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、変更の可能性がある。 ・1コマあたり、2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワーについては、メールか、事前に予約し授業の後に対応する。	

科目名	保健医療福祉とリハビリテーション				ナンバリング		
担当者	永崎孝之・正野逸子・田中悟郎・山根伸吾						
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 保健医療福祉分野において、リハビリテーションは対象者（障がい児・者や高齢者）の健康で自立した社会参加を実現するために重要な概念である。本講義では保健医療福祉分野におけるリハビリテーションについてその概念および意義を理解すると共に、特にリハビリテーション医学に焦点をあて、リハビリテーション医学に関与する各専門職の専門性や役割について理解を深める。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) 保健医療福祉分野におけるリハビリテーションの概念および意義を説明できる。 2) リハビリテーション医学に関与する各専門職の役割を理解する。 3) 各自のフィールドにおけるリハビリテーションおよびリハビリテーション医学の展望と課題を理解し説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義、グループディスカッション（アクティブラーニング）。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法		
学修比率	60				10		10	20	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート	◎						○	○	40
授業態度	○				○		○	○	10
受講者の発表	◎						○	○	30
授業への参加度	◎				○		○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを読んで、本科目の概要と到達目的を確認する	永崎孝之
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	リハビリテーションについて各自調べておく	永崎孝之
	授業	保健医療福祉分野におけるリハビリテーションとは：リハビリテーションとリハビリテーション医学	
	事後学習 (復習)	講義内容をもとに保健医療福祉分野におけるリハビリテーションについて整理する	
3	事前学習 (予習)	理学療法について事前に学修する	永崎孝之
	授業	理学療法とリハビリテーション医学	
	事後学習 (復習)	講義内容をもとにリハビリテーション医学における理学療法の専門性についてまとめる	
4	事前学習 (予習)	作業療法について事前に学修する	山根伸吾
	授業	作業療法とリハビリテーション医学1：身体領域に対する作業療法	
	事後学習 (復習)	講義内容をもとにリハビリテーション医学における作業療法の専門性についてまとめる	
5	事前学習 (予習)	作業療法について事前に学修する	田中悟郎
	授業	作業療法とリハビリテーション医学2：精神領域に対する作業療法	
	事後学習 (復習)	講義内容をもとにリハビリテーション医学における作業療法の専門性についてまとめる	
6	事前学習 (予習)	リハビリテーション看護について事前に学修する	正野逸子
	授業	看護とリハビリテーション医学	
	事後学習 (復習)	講義内容をもとにリハビリテーション医学における看護の専門性についてまとめる	

7	事前学習 (予習)	その他の専門職について事前に学修する	永崎孝之
	授業	その他の専門職とリハビリテーション医学：言語聴覚士、歯科衛生士、臨床工学士、介護福祉士等	
	事後学習 (復習)	講義内容をもとにリハビリテーション医学におけるそれぞれの職種の専門性についてまとめる	
8	事前学習 (予習)	これまで学んだ内容についてまとめておく	永崎孝之 正野逸子 田中悟郎 永崎孝之 山根伸吾
	授業	リハビリテーションおよびリハビリテーション医学の展望と課題 (グループディスカッション)	
	事後学習 (復習)	各自のフィールドにおけるリハビリテーションおよびリハビリテーション医学の展望と課題について整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・講義が中心であるが、授業内のグループディスカッションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり90分の事前・事後学習時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 随時 各担当教員研究室	

科目名	英語文献講読				ナンバリング		
担当者	竹元仁美						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	基盤科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 医療、看護、リハビリテーションに関する global standard な知見に触れることを目的として、英語文献を講読する。あわせて、英語論文を学術的見地から俯瞰し、構成、書き方など基本的知識を習得することを目的として、文献の輪読演習、英語文献のクリティークの発表を行う。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)英語で書かれた文献や研究論文を講読し理解できる。 2)専門分野の学術誌等に掲載された英語論文等の内容をクリティークし、資料を作成し発表できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義で基本的知識を習得し、指定された英語文献を購読演習する。最終課題として、受講生が選択した英語文献をクリティークし発表をする。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜、資料を配布する。また、英語論文の検索を指示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			45			55			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート						○			15
授業態度			○						15
受講者の発表						◎			40
授業への参加度			○						30
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	指定した英語文献の読解	竹元仁美
	授業	コースガイダンス、英語文献の読解について講義	
	事後学習 (復習)	講義で得た学びをレポートにまとめる	
2	事前学習 (予習)	指定した英語文献の読解	竹元仁美
	授業	英語論文購読演習① [要約]	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめる	
3	事前学習 (予習)	指定した英語文献の読解	竹元仁美
	授業	英語論文購読演習② [緒言]	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめる	
4	事前学習 (予習)	指定した英語文献の読解	竹元仁美
	授業	英語論文購読演習③ [研究方法]	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめる	
5	事前学習 (予習)	発表する英語論文の検索・読解	竹元仁美
	授業	英語論文購読演習④ [研究結果]	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめる	
6	事前学習 (予習)	発表する英語論文の検索・読解	竹元仁美
	授業	英語論文購読演習⑤ [考察・結語]	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめる。2回から6回までのまとめを提出する	

7	事前学習 (予習)	プレゼンテーション準備	竹元仁美
	授業	プレゼンテーション (自分の選択した英語文献のクリティーク)	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめ提出する	
8	事前学習 (予習)	プレゼンテーション準備	竹元仁美
	授業	プレゼンテーション (自分の選択した英語文献のクリティーク)	
	事後学習 (復習)	Feedbackされたことをレポートにまとめ提出する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・授業への参画状況やプレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 水曜 15～19時2710室	

科目名	コンサルテーション特論				ナンバリング		
担当者	白石裕子・齋藤嘉宏						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (統合分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) コンサルテーションの基本理論、プロセス、役割機能、ならびに看護学領域におけるコンサルテーションの実際を学ぶ。事例やロールプレイなどを通して、患者や家族へのケアや組織的な課題を明確化し、具体的なケアに対する助言等のコンサルテーションのプロセスを学び、適切な援助ができることを目的とする。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)コンサルテーションに関する基本理論と方法を理解することができる。 2)事例やロールプレイを通して、様々な看護領域におけるコンサルテーションの実際を学ぶことができる。 3)自らの専門領域におけるコンサルテーション技法の活用方策、および今後の課題について明確にすることができる。						
学習方法	rennkei / 講義、演習、グループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 『プロセス・コンサルテーションー援助関係を築くこと』E.H.シャイン、白桃書房、2012 『The Consulting Process in Action』Lippitt G., Lippitt R, Jossey-Bass Pfeiffer,1986.						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率			40	60					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○						20
授業態度			○						20
受講者の発表			◎	◎					40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを熟読し、授業の概要や到達目標を把握しておく、事前課題を提出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・ガイダンス ・コンサルテーションの概念	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
2	事前学習 (予習)	関連文献を読んでおく	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・コンサルテーションのタイプ ・コンサルタントの役割	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
3	事前学習 (予習)	関連文献を読んでおく	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・コンサルテーションのスキル ・コンサルテーションのプロセス	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
4	事前学習 (予習)	関連文献を読んでおく	外部講師 (下川亜矢)
	授業	・CNSによるコンサルテーションの実際	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
5	事前学習 (予習)	自己の職種におけるコンサルテーションの文献をまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・看護におけるコンサルテーション ・リハにおけるコンサルテーション	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を統合し整理する	

6	事前学習 (予習)	関連資料を読んでおく	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・臨床倫理コンサルテーション	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を統合し整理する	
7	事前学習 (予習)	自己の臨床におけるコンサルテーション事例をまとめておく	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・自己の事例による模擬コンサルテーション	
	事後学習 (復習)	ディスカッション内容を統合し整理する	
8	事前学習 (予習)	自己の臨床でのコンサルテーションの適用を考えておく	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・自己の事例による模擬コンサルテーション ・科目のまとめ	
	事後学習 (復習)	自己の臨床におけるコンサルテーションを統合し整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 白石2707室で行う。予約はメールでアポイントを取ること。	

科目名	ヘルスプロモーション論				ナンバリング		
担当者	中井雄貴・小西裕之・齊藤貴文・岡真一郎						
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目（統合分野）	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字（5行以内） 近年、子どもから高齢者まで幅広い世代において健康志向が高まっており、怪我や病気を予防する活動や研究が積極的に行われており、地域においても多職種が連携して健康増進活動を展開しているのが現状である。本講義はヘルスプロモーションについて多くの視点から講義を展開し健康増進と障害予防が社会に及ぼす影響を理解することを目的とする。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字（10行以内） 1)ヘルスプロモーションの概念が説明できる。 2)ロコモティブシンドローム、フレイル、認知症に対するヘルスプロモーション活動について説明できる。 3)スポーツ活動や運動習慣と健康増進との関わりについて理解する。 4)慢性疼痛が社会医療に及ぼす影響と予防の必要性について知る。 5)高齢者の転倒は寝たきり原因の上位を占めることから転倒について予防戦略について知る。						
学習方法	最大文字数 180文字（3行以内） 講義内容に関連した論文などを参考にしながら、講義を進める。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字（3行以内） 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法		
学修比率			100						100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎						30
授業態度			◎						30
受講者の発表			○						10
授業への参加度			◎						30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	ヘルスプロモーションについて事前に調べておく	中井雄貴
	授業	ヘルスプロモーションについて (概論)	
	事後学習 (復習)	講義内容をまとめヘルスプロモーションの概念を自分なりに解釈する	
2	事前学習 (予習)	健康増進や障害予防について事前に調べておく	中井雄貴
	授業	健康増進・障害予防の取り組みが医療にもたらすもの	
	事後学習 (復習)	講義で紹介したヘルスプロモーション活動について復習する	
3	事前学習 (予習)	ロコモティブシンドロームについて事前に調べておく	中井雄貴
	授業	ロコモティブシンドロームについて	
	事後学習 (復習)	ロコモティブシンドロームの実際について講義内容を踏まえ整理する	
4	事前学習 (予習)	フレイルや認知症に対する社会的活動を事前に調べておく	中井雄貴
	授業	フレイルや認知症のヘルスプロモーションについて	
	事後学習 (復習)	講義で紹介した活動内容について復習する	
5	事前学習 (予習)	4回目の講義で配布した論文を事前に読んでおく	中井雄貴
	授業	ヘルスプロモーション活動の実際 (評価から解釈まで)	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	

6	事前学習 (予習)	スポーツおよび運動習慣と障害予防の関係について事前に調べておく	小西裕之
	授業	スポーツ運動の合目的性とスポーツ外傷・障害の予防	
	事後学習 (復習)	スポーツ・運動習慣が健康増進・障害予防につながることに再確認する	
7	事前学習 (予習)	急性疼痛と慢性疼痛について予習しておく	齊藤貴文
	授業	分析疫学的視点から見た慢性疼痛の予防戦略	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
8	事前学習 (予習)	高齢者の転倒について (原因や予防) 予習しておく	岡真一郎
	授業	方向転換における運動感覚制御に基づいた転倒予防	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスパワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	医療安全学特論				ナンバリング		
担当者	倉岡有美子						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (統合分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 医療安全の概念を理解し、医療事故を未然に防ぐために、医療事故発生のメカニズムならびに危険予測と医療従事者間のコミュニケーション技法を学ぶ。さらに、医療事故発生後の対応と看護師の法的責任について理解する。これによって、医療安全に関する高度な知識・スキルを獲得する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)医療安全に関わる法、制度、システムについて説明できる。 2)患者および医療従事者にとって安全な医療の遂行に向けて、多職種と効果的に協働する方法について説明できる。 3)医療事故事例を分析し、医療事故防止および事故後の対処について説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 教員による講義と演習、学生によるプレゼンテーションで学習を進める。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) テキスト:特に指定しない 参考書籍: 河野龍太郎:医療におけるヒューマンエラー。医学書院, 2014. 相馬孝博:ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド。メディカ出版, 2013. 杉山良子:ナースのための危険予知トレーニングテキスト。メディカ出版, 2022.						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率			80	10				10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○				○	60
授業態度			○	○				○	10
受講者の発表			○	○				○	20
授業への参加度			○	○				○	10
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	日本医療機能評価機構のホームページに掲載されている医療事故情報収集等事業報告書 (最新) の関心の あるページを読む。	倉岡有美子
	授業	医療安全に関する法律・制度とプロセスを意識した医療安全の考え方	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
2	事前学習 (予習)	自身が当事者となったインシデント・アクシデントについて振り返る。	倉岡有美子
	授業	医療事故発生のメカニズム	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
3	事前学習 (予習)	自身が当事者となったインシデント・アクシデントについて振り返る。	倉岡有美子
	授業	危険予測と発生防止危険予知訓練(KYT)	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
4	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	医療安全とコミュニケーション (Team STEPPS)	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	

5	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	医療事故における医療従事者の法的責任/医療事故発生後の患者・家族への対応 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
6	事前学習 (予習)	自身の所属する施設で発生した医療事故について分析ツールを用いて分析する。	倉岡有美子
	授業	医療事故事例の要因分析① (学生によるプレゼンテーションと討議)	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
7	事前学習 (予習)	自身の所属する施設で発生した医療事故について分析ツールを用いて分析する。	倉岡有美子
	授業	医療事故事例の要因分析② (学生によるプレゼンテーションと討議)	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
8	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	医療事故事例の要因分析③ (学生によるプレゼンテーションと討議)	
	事後学習 (復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 倉岡までメールでアポイントをとること。	

科目名	専門職連携演習				ナンバリング		
担当者	白石裕子・正野逸子・永崎孝之・田中悟郎						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (統合分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 専門職連携特論の授業と基盤科目、分野共通科目で学んだことを活かし、地域包括ケアシステムにおける多職種連携を促進するために、複合的な課題を持つ事例の目標達成と課題解決を目指し、多職種メンバーや専門家との対話やグループワークとプレゼンテーションを通して、多職種連携コンピテンシーを培う。また、専門職連携・協働の理論の活用による統合的な考え方や課題解決と、専門職連携・協働の展望に向けてのチーム作りと指導の在り方を考察できる。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)対象者志向の倫理観を持つ。 2)専門職種で対象者を中心とした最適な目標を共有する。 3)対象者の目標達成、QOLとケアの質の向上に向けて、職種の特性を活かし、職種間の考えを統合して解決方法を提案できる。 4)複合的課題事例について専門職連携・協働の理論を活用した専門職連携特論の授業と基盤科目、分野共通科目で学んだことを活かし、職種間の考えを統合して課題解決方法と評価を提案できる。 5)専門職者が連携・協働する際に必要なスキルについてリフレクションができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイング						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 『保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント』柴咲智美/米岡裕美/古谷牧子 [編著] ミネルヴァ書房, 2019。 『これからのIPEガイドブック』酒井郁子/井出成美/朝比奈真由美編, 南江堂, 2023。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10		20			30	40	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○		○			○	○	20
授業態度							○	○	20
受講者の発表		○		○			○	○	40
授業への参加度							○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを熟読し、授業の概要や到達目標を把握しておく	白石裕子 正野逸子
	授業	・ガイダンス ・専門職連携特論での学修の振り返り	
	事後学習 (復習)	専門職連携特論の講義を整理する	
2	事前学習 (予習)	関連文献を読んでおく	白石裕子 正野逸子
	授業	・ICFの理念と活用 ・臨床場面におけるICFの活用 (PT,OT)	
	事後学習 (復習)	ICFについて整理する	
3	事前学習 (予習)	関連文献を読んでおく	白石裕子 正野逸子
	授業	・タックマンモデルを用いたチームビルディングの各局面について ・多職種連携のコンピテンシーについて	
	事後学習 (復習)	多職種連携コンピテンシーについて整理する	
4	事前学習 (予習)	関連文献を読んでおく	白石裕子 正野逸子
	授業	・チームビルディングにおけるリフレクションについて学ぶ	
	事後学習 (復習)	リフレクションについて整理する	

5	事前学習 (予習)	提示された事例について熟読しておく	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	・3つの課題事例 (複合的課題事例) と演習方法の提示	
	事後学習 (復習)	演習方法について確認し、自分の役割を明確にする	
6	事前学習 (予習)	担当事例についての健康状態、心身機能をまとめておく	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	演習① ・チームビルディングの導入、アイスブレイク ・ICFを用いた事例の整理 ・対象者の「健康状態」「心身機能」をまとめる	
	事後学習 (復習)	リフレクションシートに自己の課題について整理する	
7	事前学習 (予習)	チームの成果のまとめとプレゼンの準備をする	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	・チームの成果「健康状態」「心身機能」の発表とディスカッション ・リフレクションを行いチームのなかでの自己の課題を明確にする。	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を統合し整理する	
8	事前学習 (予習)	・担当事例の「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」をまとめておく	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	演習② ・ICFを用いた事例の整理 ・対象者の「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」をまとめる。	
	事後学習 (復習)	チームの成果のまとめをする	
9	事前学習 (予習)	チームの成果のプレゼンの準備をする	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	・チームの成果「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」の発表とディスカッション ・リフレクションを行いチームのなかでの自己の課題を明確にする。	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を整理・統合する	
10	事前学習 (予習)	担当事例についての目標と課題について自分の考えを整理する	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	演習③ ・総合サービス計画表を用いて目標の設定と明確化を行う。	
	事後学習 (復習)	チームの成果のまとめを行う	
11	事前学習 (予習)	チームの成果のプレゼンの準備をする	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	・チームの成果 (目標の設定と明確化) の発表とディスカッション ・リフレクションを行いチームのなかでの自己の課題を明確にする。	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を統合し整理する	
12	事前学習 (予習)	担当事例のケアプランについて自分で整理する	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	演習④ ・総合サービス計画表を用いてケアプランを作成する。	
	事後学習 (復習)	チームの成果のまとめをする	
13	事前学習 (予習)	チームの成果のプレゼンの準備をする	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	・チームの成果 (ケアプランの作成) の発表とディスカッション ・リフレクションを行いチームのなかでの自己の課題を明確にする。	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を統合し整理する	
14	事前学習 (予習)	地域包括ケアのカンファレンスに関連する文献を読んでおく	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	・ケア計画実践のための専門職・非専門職との模擬カンファレンス	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容を統合し、整理する	
15	事前学習 (予習)	全体ディスカッションの為のチームの課題、自己の課題を明確にする	白石裕子 正野逸子 永崎孝之 田中悟郎
	授業	地域包括ケアにおける連携・協働のチームづくりに必要なスキル及び多職種連携コンピテンシーの達成度について全体ディスカッションを行い、学びを統合する。	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに授業の総括を行う	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 白石2707室で行う。予約はメールでアポイントを取ること。	

科目名	看護実践理論特論				ナンバリング		
担当者	辻慶子・児玉裕美						
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (看護学分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 実践の科学としての看護学の構造と特徴について学ぶ。看護学を学ぶ上で基盤となる看護の主要な理論の背景、概念、機能、構成要素を学修し、看護理論と看護実践の関連性を探求する。さらに、看護理論に基づき自己の看護実践を振り返り、看護の本質を考える。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)看護理論の歴史的社会的発展過程と役割、意義を説明できる。 2)看護実践と看護理論のつながりを説明できる。 3)適切な理論を用いて自己の看護の実践を分析・評価できる。 4)看護専門職として看護理論を活用して、対象に応じた看護を展開する必要性とその根拠を説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 看護学の構造や特徴、看護理論の基礎的知識については講義で学ぶ。看護理論の実践では、各自の専門領域に応じて関心を寄せる看護理論を選択し、看護実践の振り返りについて各自プレゼンテーションを行い、その後に参加者とディスカッションする。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 授業に関連した資料を配布、または適宜、参考書籍を紹介する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人としての 倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率	30		30		40				100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート	○		○		◎				60
授業態度	○		○		○				10
受講者の発表	○		○		○				20
授業への参加度	○		○		○				10
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	これまでに学習した理論家や看護理論について想起する	辻慶子 児玉裕美
	授業	ガイダンス:科目のオリエンテーション 看護理論の変遷:看護理論が生み出された歴史的背景と社会状況と看護の実態	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
2	事前学習 (予習)	事前に配布した資料や参考図書に目を通して、ディスカッションを行う準備をする	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の臨床への活用 (ヘンダーソン)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
3	事前学習 (予習)	事前に配布した資料や参考図書に目を通して、ディスカッションを行う準備をする	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の類型1 (トラベルビー、看護現象を理解するための諸理論)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	
4	事前学習 (予習)	事前に配布した資料や参考図書に目を通して、ディスカッションを行う準備をする	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の類型2 (ロイ、オレム)	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるための振り返り	
5	事前学習 (予習)	事前に配布した資料や参考図書に目を通して、ディスカッションを行う準備をする	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の実践への活用と展開1	
	事後学習 (復習)	自己のプレゼンテーションに活用できるようまとめる	
6	事前学習 (予習)	事前に配布した資料や参考図書に目を通して、ディスカッションを行う準備をする	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の実践への活用と展開2	
	事後学習 (復習)	講義やグループディスカッションを通して得た知識に対する理解を深め、定着させるように努める	

7	事前学習 (予習)	授業で発表するための課題作成	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の実践への活用と展開3	
	事後学習 (復習)	プレゼンテーションでの学びを最終レポート作成の準備としてまとめる	
8	事前学習 (予習)	授業で発表するための課題作成	辻慶子 児玉裕美
	授業	看護理論の実践への活用と展開4	
	事後学習 (復習)	最終レポートの作成	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・受講に際しては、自らの実践経験により得た疑問点や問題点などの解決を意識して能動的に学ぶこと。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 辻;水曜日 15～19時 2721室、児玉;火曜日 15～17時 2711室	

科目名	看護研究方法論				ナンバリング		
担当者	正野逸子・久木原博子・菊原美緒						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目(看護学分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	看護研究の意義と目的、特徴を理解し、多様な研究方法とプロセスを学修し、研究活動を行うにあたっての実践的な研究能力を養う。 看護研究の特性を踏まえた倫理のあり方を探求できる。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)看護研究の意義と目的、特徴を説明できる。 2)看護研究の種類とプロセスを説明できる。 3)看護研究の代表的な研究方法の実際について、具体例を通じて理解し、実践的な研究につなぐことができる。 4)看護研究の特徴を踏まえた倫理のあり方を説明できる。 5)看護研究に関する論文を批判的に読むことができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)						
	看護研究の基本を学習したのちに、事前に提示した文献のクリティークを中心に授業を展開し、ディスカッションしながら学ぶ。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)						
	後日提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率					20	80			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート					○	◎			50
授業態度					○	○			10
受講者の発表					○	○			20
授業への参加度					○	○			20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	自分の過去の看護研究の概要をまとめておく	正野逸子
	授業	授業ガイダンス 看護研究の意義と目的、種類、特徴について	
	事後学習 (復習)	授業を基に看護研究の意義と目的、特徴について、整理する	
2	事前学習 (予習)	看護研究の種類について	正野逸子
	授業	看護における事例研究	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護研究の種類とプロセスについて整理する	
3	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	正野逸子
	授業	看護における事例研究	
	事後学習 (復習)	授業をもとに事例研究について整理する	
4	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	正野逸子
	授業	看護における質的研究 (KJ法)	
	事後学習 (復習)	授業をもとにKJ法について整理する	
5	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	菊原美緒
	授業	看護における質的研究 (内容分析法)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに内容分析法について整理する	

6	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	菊原美緒
	授業	看護における質的研究 (グランデットセオリー法)	
	事後学習 (復習)	授業をもとにグランデットセオリーについて整理する	
7	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	久木原博子
	授業	看護における量的研究 (調査研究)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに調査研究について整理する	
8	事前学習 (予習)	事前に提示した論文を読んでおく	久木原博子
	授業	看護における量的研究 (調査研究)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに調査研究について整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・講義が中心であるが、授業内のグループディスカッションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり90分の事前・事後学習時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 随時 各担当教員研究室	

科目名	看護政策論				ナンバリング			
担当者	倉岡有美子							
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	選択	
開講コース	全コース				分類	分野共通科目(看護学分野)		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)							
	看護政策とその変遷や決定プロセスについて理解し、保健医療福祉制度の現状と改革の方向等をふまえて、看護政策の課題を考察するとともに政策に関与し提言していく方策を学ぶ。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)							
	1)看護職者として政策決定過程を理解し、政策的課題を把握できる。 2)看護政策の変遷を理解し、現代および将来に向けた課題を見いだすことができる。 3)看護職者として政策過程に参画するための方策を説明することができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)							
	教員による講義と演習、学生によるプレゼンテーションで学習を進める。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)							
	テキスト:見藤隆子、石田昌宏他:看護職者のための政策過程入門 第2版、東京、日本看護協会出版会、2017。 参考書籍: 田村やよひ:私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法 第2版、東京、日本看護協会出版会、2018。 野村陽子:看護制度と政策、東京、法政大学出版局、2015。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			20	20			60		100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	○			◎		30
授業態度			○	○			○		10
受講者の発表			○	○			○		40
授業への参加度			○	○			○		20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画(学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習(予習)	テキスト第1章第2章を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	政策決定過程と看護職者の関与	
	事後学習(復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
2	事前学習(予習)	テキスト第4章、コラムp68を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	保健師助産師看護師法	
	事後学習(復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
3	事前学習(予習)	テキスト第3章第4章、コラムp110～111を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	診療報酬改定への看護職の関与	
	事後学習(復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	
4	事前学習(予習)	テキスト第3章第4章、コラムp46、48、65、75を読んでくる。	倉岡有美子
	授業	日本看護協会、日本看護連盟と看護政策	
	事後学習(復習)	授業資料を再読み、疑問点について調べる。	

5	事前学習 (予習)	看護の質の向上に向けて、自身の関心のある政策課題を検討する。	倉岡有美子
	授業	「私の政策提言」に向けた文献検討	
	事後学習 (復習)	「私の政策提言」に向けて発表資料を作成する。	
6	事前学習 (予習)	「私の政策提言」に向けて発表資料を作成する。	倉岡有美子
	授業	私の政策提言①看護の質の向上に向けて、関心のある政策課題を取り上げ、新たな提案を行い、その実現方略を検討する。(例:保健師助産師看護師法) 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	討議をふまえて自身の考えを深める。	
7	事前学習 (予習)	「私の政策提言」に向けて発表資料を作成する。	倉岡有美子
	授業	私の政策提言②看護の質の向上に向けて、関心のある政策課題を取り上げ、新たな提案を行い、その実現方略を検討する。(例:准看護師制度) 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	討議をふまえて自身の考えを深める。	
8	事前学習 (予習)	「私の政策提言」に向けて発表資料を作成する。	倉岡有美子
	授業	私の政策提言③看護の質の向上に向けて、関心のある政策課題を取り上げ、新たな提案を行い、その実現方略を検討する。(例:看護師の特定行為研修制度、ナース・プラクティショナー) 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	討議をふまえて自身の考えを深める。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 倉岡2713号室で行う、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護教育学				ナンバリング			
担当者	花田妙子・辻慶子・児玉裕美							
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択	
開講コース	全コース				分類	分野共通科目（看護学分野）		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字（5行以内） 看護教育における主体的な学習の必要性を理解し、アクティブラーニングについて学ぶ。看護教育において生涯を通して自己教育力の育成が重要なことを認識し、看護基礎教育や臨床現場での看護実践の質向上に貢献する看護継続教育を工夫していくことを考える。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字（10行以内） 1)看護教育におけるアクティブラーニングの必要性を理解する。 2)看護のやりがいに繋がる学習者の内発的動機づけについて理解する。 3)看護教育における自己教育力の育成の重要性を認識し、研究に発展できる。 4)看護基礎教育に関する基礎知識をふまえ、看護教育における現状の課題を考察する。							
学習方法	最大文字数 180文字（3行以内） 看護教育に必要なアクティブラーニングの展開や、看護者にとって生涯にわたって自己教育力を高めていくことなどを講義する。それを基に自分自身で、講義内容に関係する文献検索をしたり、ディスカッションの機会を通してアクティブラーニングについて体得する。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字（3行以内） 適宜配布する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					30
授業態度			○	○					10
受講者の発表			◎	○					40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画（学習内容・スケジュール）			担当教員
1	事前学習（予習）	これまでの看護教育の経験を通して自分の気づきや課題を整理しておく。	花田妙子
	授業	看護教育とアクティブラーニング	
	事後学習（復習）	看護教育にアクティブラーニングが必要なことをまとめる。	
2	事前学習（予習）	教育心理学の動機づけについて予習しておく。	花田妙子
	授業	看護のやりがいに繋がる学習者の内発的動機づけ	
	事後学習（復習）	授業を基に看護のやりがいと学習意欲の関係をまとめる。	
3	事前学習（予習）	看護教育の基本となる自己教育力について予習しておく。	花田妙子
	授業	看護教育における自己教育力の育成の重要性（1）	
	事後学習（復習）	授業を基に看護実践力の向上のために自己教育力を高めることの必要性をまとめる。	
4	事前学習（予習）	前回の授業内容を踏まえて自己教育力と自分の実践経験とを繋げて臨む。	花田妙子
	授業	看護教育における自己教育力の育成の重要性（2）	
	事後学習（復習）	看護教育での自己教育力を高める方法をまとめる。	
5	事前学習（予習）	文献や講義資料を読み、疑問に思ったことや話したいことをまとめる。	辻慶子
	授業	看護教育方法の視点①：教えることと学ぶこと	
	事後学習（復習）	授業内容をもとに関連文献等を調べ看護教育方法について整理する。	

6	事前学習 (予習)	文献や講義資料を読み、疑問に思ったことや話したいことをまとめる。	辻慶子
	授業	看護教育方法の視点②:わかることとできること	
	事後学習 (復習)	授業内容をもとに関連文献等を調べ看護教育方法について整理する。	
7	事前学習 (予習)	文献をもとに授業設計について学習する。	児玉裕美
	授業	看護教育における授業設計	
	事後学習 (復習)	授業をもとに授業設計の意義や方法を整理する。	
8	事前学習 (予習)	文献や講義資料を読み、疑問に思ったことや話したいことをまとめる。	辻慶子
	授業	看護教育評価	
	事後学習 (復習)	授業内容をもとに関連文献等を調べ看護教育評価について整理する。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 花田2904号室で行う、予約はメールでアポイントをとること	

科目名	リハビリテーション研究方法論				ナンバリング		
担当者	玉利誠						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (リハビリテーション学分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 科学的根拠に基づいた質の高いリハビリテーションを提供するために必要となる基本的な研究手法とそのプロセスについて理解するとともに、研究を行う必要性和研究倫理について学ぶ。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究の意義と研究倫理について理解する。 2)研究デザインの種類と特長について理解する。 3)文献の収集と管理方法について理解する。 4)自身が実施する研究デザインについて説明することができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義内容に関連する書籍や資料を参考にしながら、講義を進める。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			20	70			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎			50
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○			○	○			20
授業への参加度					○	○			20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	研究の意義と研究倫理	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
2	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	研究デザイン1 リサーチクエストの作り方	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
3	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	研究デザイン2 各種デザインの特長	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
4	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	文献収集の方法	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
5	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	文献管理の方法	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	

6	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	研究結果の分析方法	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
7	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	玉利誠
	授業	研究成果を公開する方法 (学会発表、論文投稿)	
	事後学習 (復習)	講義内容について復習する	
8	事前学習 (予習)	自身の研究計画についてまとめておく	玉利誠
	授業	研究計画の紹介	
	事後学習 (復習)	授業を通して得た知識を研究に応用する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 木曜 16～17時 教員研究室	

科目名	リハビリテーション管理学特論				ナンバリング		
担当者	近藤敏・溝田勝彦						
開講年次	1	開講期	後期	単位	1	必修・選択	必修
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (リハビリテーション学分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) リハビリテーション専門職は医療行為のみならず、病院/施設の組織を理解し、各部門の管理・運営に努めることが要求される。本授業では、リハビリテーション部門の組織、安全管理、機器のメンテナンス、診療報酬/介護報酬について学ぶ。さらに、管理職としての資質、権利擁護、職能団体の示す倫理綱領・業務指針、専門職教育・研究 (学術大会) の推進、また、リハ専門職の起業を通して実践的な管理運営 (雇用、資金調達、職員教育、法令遵守) について学ぶ。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)リハビリテーション専門職がなぜ管理学を学ぶ必要があるか説明できる。 2)病院の組織、管理者の資質について説明できる。 3)リハビリテーション実践における患者の安心と安全を守るための配慮について説明できる。 4)理学・作業療法士の身分法および関係する診療報酬等について説明できる。 5)起業における資金調達や関係機関との連携および職員教育について説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) テキストは指定しない、資料を配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人としての 倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			20	80					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート									
授業態度									
受講者の発表									
授業への参加度			○	◎					100
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	医療法における医療機関について確認する。	溝田勝彦
	授業	病院の機能・分類・組織、理学療法部門における管理	
	事後学習 (復習)	授業内容をもとに、病院の分類と組織についてまとめる。	
2	事前学習 (予習)	チームワークの原理、リーダーシップについて調べておく。	溝田勝彦
	授業	チームワーク、リーダーシップ、管理者の資質について	
	事後学習 (復習)	授業内容をもとに、チームワーク、リーダーシップの要点についてまとめる。	
3	事前学習 (予習)	理学療法士の職業倫理ガイドラインについて確認しておく。	溝田勝彦
	授業	リスクマネジメント、医療保険 (リハビリテーションの診療報酬) について	
	事後学習 (復習)	授業内容をもとに、リスクマネジメントについてまとめる。	
4	事前学習 (予習)	成年後見制度について調べておく。	溝田勝彦
	授業	権利擁護について	
	事後学習 (復習)	授業内容をもとに、対象者の権利擁護について再考する。	
5	事前学習 (予習)	受講者の所属する職能団体のホームページを閲覧する。	近藤 敏
	授業	専門職について、理学・作業療法士の身分法、職能団体 (倫理綱領、業務指針、啓発・職域、研究、教育)	
	事後学習 (復習)	専門職が職能団体、学術団体をつくる意義についてまとめる。	

6	事前学習 (予習)	リハビリテーション職種による起業家のホームページを閲覧する。	近藤 敏
	授業	理学・作業療法士の起業について、起業の動機、起業可能な領域、起業家達の信念・ビジョン (経営哲学、経営戦略)	
	事後学習 (復習)	もし起業するとしたらどのような事業をしてみたいか、その理由をあげる。	
7	事前学習 (予習)	自分の人生や仕事における座右の銘や感銘を受けたことば・名言をあげる。	近藤 敏
	授業	私の起業経験 (通所介護施設) を紹介する。起業に必要な法律・条例、定款、相談・申請 (介護保険課)、資金調達 (銀行)、助成金、会計事務所、社労士、職員の雇用について	
	事後学習 (復習)	有能な従業員を確保するには、どのような面接 (質問) や観察力が必要かまとめる。	
8	事前学習 (予習)	管理職としてどのような職員教育をしたらよいか調べる。	近藤 敏
	授業	職員教育 (感染症対策、高齢者虐待防止、ハラスメント防止の計画・実施)、BCP (業務継続計画) の作成。	
	事後学習 (復習)	所属する病院/施設の立地するハザードマップからどのような避難訓練が必要か記述する。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・ディスカッション等、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー、予約はメールでアポイントをとること	

科目名	心身機能計測技術論				ナンバリング			
担当者	古後晴基・吉澤隆志・近藤昭彦・江口喜久雄							
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択	
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (リハビリテーション学分野)		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 保健医療福祉分野において対象者 (障がい者や高齢者) の健康で自立した社会参加を実現するために様々な支援の構築が希求されている。本論では生体情報科学特論で修得する知識を深化させ、対象者から得られる心身機能情報を適切に評価するための計測技術について紹介し、各計測技術 (特に筋機能評価、および脳・精神機能評価のための計測技術) の理解を深める。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)心身機能情報を理解し、各計測技術の目的、意義を理解できる。 2)各計測技術の基本的な計測方法や出力されたデータの意味を理解することができる。 3)本講義で修得した視点を各自のフィールドに反映させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義、演習、グループディスカッション (アクティブラーニング)。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10	90						100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○	◎						40
授業態度			○						10
受講者の発表		○	◎						30
授業への参加度		○	◎						20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを読んで、本科目の概要と到達目標を確認する	古後晴基 吉澤隆志 近藤昭彦 江口喜久雄
	授業	ガイダンス; 講義および演習内容、成績評価について説明する	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	古後晴基 吉澤隆志
	授業	身体機能の計測技術とその目的・意義	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
3	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	古後晴基
	授業	身体機能の計測技術: 筋機能評価1 (筋硬度)	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
4	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	吉澤隆志
	授業	身体機能の計測技術: 筋機能評価2 (筋力)	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
5	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	近藤昭彦 江口喜久雄 古後晴基
	授業	脳・精神機能の計測技術とその目的・意義	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	

6	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	近藤昭彦 江口喜久雄
	授業	脳・精神機能の計測技術:脳機能評価 (光トポグラフィー) 講義 脳・精神機能の計測技術:精神機能評価 (自律神経反応) 講義	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
7	事前学習 (予習)	講義内容について各自調べておく	近藤昭彦 江口喜久雄
	授業	脳・精神機能の計測技術:光トポグラフィー 実習 脳・精神機能の計測技術:自律神経反応 実習	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
8	事前学習 (予習)	これまでの講義内容についてまとめておく	古後晴基 吉澤隆志 近藤昭彦 江口喜久雄
	授業	これまでの講義内容を整理し、自身の研究テーマの課題を計測技術の面から整理する。 プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	講義内容を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・講義が中心であるが、授業内のグループディスカッション・実習を重視する。、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり90分の事前・事後学習時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 随時 各担当教員研究室	

科目名	生活機能計測技術論				ナンバリング		
担当者	田中悟郎・谷川良博・北村匡大						
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (リハビリテーション学分野)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 生活機能の計測・評価については、ICF(国際生活機能分類)における活動や参加、環境面について主に考える。生活機能は医療分野以外に様々な領域に関わる学問であるため、広い視野が求められる。本科目では、受講者が障がい者や高齢者、障がい児を取り巻く現状と課題に関して評価する技術や方法について知識を深める。地域における生活機能支援の潜在的・顕在的ニーズの明確化などの現状と課題について研究論文クリティークを通して探究し、研究方法につなげることを目的とする。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)生活者に対して活動・参加面に関して各種評価を説明できる。 2)生活機能と評価方法・実践について自身の研究につなげることができる。 3)生活機能支援に関する研究論文クリークを通して自身の研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					30
受講者の発表			◎	○					30
授業への参加度			◎	○					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	資料を事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	障がい者の活動と参加に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
2	事前学習 (予習)	自身の研究計画に関連する研究の動向について調べる	谷川良博
	授業	若年性認知症者に関する活動と参加における主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
3	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	谷川良博
	授業	認知症高齢者の活動と参加の現状と課題に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
4	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	田中悟郎
	授業	精神障害者の活動と参加面の現状との課題に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
5	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	田中悟郎
	授業	家族支援の評価に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	

6	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	田中悟郎
	授業	障がい者、認知症高齢者の生活の質に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
7	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	北村匡大
	授業	身体障害者の活動と参加面の現状との課題に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
8	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	北村匡大
	授業	身体障害者の日常生活活動に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	福祉住環境特論				ナンバリング			
担当者	溝田勝彦・川原田淳							
開講年次	1	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択	
開講コース	全コース				分類	分野共通科目 (リハビリテーション学分野)		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 地域リハビリテーションにおいて、クライアントや家族の安心・安全、そして自立した生活を実現するためには、適切な移動用福祉用具の選択・使用法や住環境の改修が必要となる場合が多い。また生活する都市構造の実態と課題を把握する必要がある。この授業では、そのために必要な知識や技術を学習する。また、ハード面だけでなく、そこに住む人の意向を重視することも学習する。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)障害者・高齢者に適切な移動用福祉用具の選択ができる。 2)バリアフリーとユニバーサルデザインについて説明できる。 3)公道や商業施設、公共施設を障害者・高齢者の視点でチェックできる。 4)住宅改修に必要な知識や法制度をあげることができる。 5)障害者・高齢者にやさしい都市環境について提案できる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) テキストは指定しない、資料を配布する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	
学修比率			100						100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート									
授業態度									
受講者の発表									
授業への参加度			◎						100
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	移動用福祉用具について調べる。	溝田勝彦
	授業	移動用福祉用具の種類と機能、選択について	
	事後学習 (復習)	移動用福祉用具の種類と選択についてまとめる。	
2	事前学習 (予習)	リハビリテーションと移動用福祉用具の関係について調べる。	溝田勝彦
	授業	移動用福祉用具とリハビリテーション・介護関連職種との役割	
	事後学習 (復習)	移動用福祉用具の適用と適切な使用法をまとめる。	
3	事前学習 (予習)	ユニバーサルデザインについて調べる。	溝田勝彦
	授業	バリアフリーとユニバーサルデザイン、住環境整備の進め方	
	事後学習 (復習)	バリアフリーと「バリアあり」の調和について自分の考えを整理する。	
4	事前学習 (予習)	高齢者に必要な住環境を調べる。	溝田勝彦
	授業	疾患・障害別にみた住環境整備の実例	
	事後学習 (復習)	認知症者に必要な住宅改修のポイントをまとめる。	

5	事前学習 (予習)	高齢者・障害者に配慮した公共施設や交通機関について調べる。	川原田淳
	授業	福祉のまちづくり、取り組みの過程と課題	
	事後学習 (復習)	日頃利用する公道、商業施設や公共施設を障害者・高齢者の視点で評価する。	
6	事前学習 (予習)	建築用語をリストアップする。	川原田淳
	授業	建築知識の基本：建築用語、図面の見方と見取り図の書き方、住宅全般の配慮点等	
	事後学習 (復習)	自身が車椅子障害者となった際の自宅の改修について図式化する。	
7	事前学習 (予習)	建築関係法規を調べる。	川原田淳
	授業	住環境整備と建築関係法規、住環境整備の際の制限	
	事後学習 (復習)	建築用語と建築関連法の要点についてまとめる。	
8	事前学習 (予習)	都市・公共交通機関で発生した高齢者・心身障害者の事故について調べる。	川原田淳
	授業	高齢者・障害者における都市構造の実態と課題	
	事後学習 (復習)	視覚・聴覚障害者にやさしい都市や交通機関についてまとめる。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・ディスカッション等、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護管理学特論				ナンバリング		
担当者	倉岡有美子						
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 変化し続ける社会において組織を適切に機能させる管理能力を獲得するために、看護管理の主要な理論に関する知識を得るとともに、現場における責務と役割についての認識を深め、臨床現場における看護管理の効果的な方法と活動を探究する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)組織運営に関する諸理論、看護マネジメントの諸理論、方法論について説明できる。 2)チーム医療における看護職としての役割発揮のための多職種協働実践について説明できる。 3)高度実践看護師として管理者との連携・調整、組織における位置づけと役割について説明できる。 4)組織倫理について事例にもとづき考察できる。 5)資源管理、看護の質保証の概念を理解し、看護の質向上の取り組みについて考察できる。 6) 看護活動を取り巻く法律と制度について理解できる。 7) 管理者に求められる能力とその開発方法について説明できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 教員による講義と演習、学生によるプレゼンテーションで学習を進める プレゼンテーションを担当する学生は、事前に必読文献を提示する						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) テキスト： Hersey P.B., Blanchard H.K., and Johnson D.E. Management of Organizational Behavior Utilizing Human Resources (7th). 1996, 山本成二, 山本あづさ訳：入門から応用へ行動科学の展開 (新版) 人的資源の活用. 東京, 生産性出版, 2000. Spencer M.L., & Spencer M. S. Competence at work. 1993, 梅津祐良, 成田攻, 横山哲夫訳：コンピテンシー・マネジメントの展開[監訳版]. 東京, 生産性出版, 2011. 倉岡有美子：看護師長として成長しつづける! 経験学習ガイドブック. 東京, 医学書院, 2019 参考書： Stephen P. Robbins.: Essentials of Organizational Behavior 8th ed. 2005, 高木晴夫訳：組織行動のマネジメント. 東京, ダイアモンド社, 2009. John P. Kotter.: On What Leaders Really Do. 2012, 黒田由貴子訳：リーダーシップ論 (第2版) . 東京, ダイアモンド社, 2012. 細田満和子：「チーム医療」とはなにか (第2版) . 東京, 日本看護協会出版会, 2021. 虎の門病院看護部：看護管理者のコンピテンシー・モデル：開発から運用まで. 東京, 医学書院, 2013. 看護管理コンピテンシー研究会編：看護管理者のコンピテンシー・モデル事例集：書き方とその評価 . 東京, 医学書院, 2015. 武村雪絵編著：看護管理に活かすコンピテンシー. 東京メチカルフレンド社, 2014. 松尾 睦：成長する管理職. 東京, 東洋経済新報社, 2013. 鶴若麻理, 倉岡有美子編著：看護管理と倫理の考えかた. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2014. 勝原裕美子：組織で生きる－管理と倫理のはざまで－. 東京, 医学書院, 2016.						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			20	50				30	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	◎				○	40
授業態度			○	○				○	10
受講者の発表			○	◎				○	30
授業への参加度			○	○				○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	組織運営に関する諸理論に自身の臨床経験を引き寄せて分析する。	倉岡有美子
	授業	組織論 リーダーシップとマネジメント (臨床現場への応用) 学生によるプレゼンテーション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに組織論、リーダーシップとマネジメントについて整理する	
2	事前学習 (予習)	高度実践看護師の臨床現場での活用について自身の臨床経験に引き寄せて分析する。	倉岡有美子
	授業	人的資源活用 学生によるプレゼンテーション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに人的資源活用について整理する	
3	事前学習 (予習)	自身の臨床経験からチーム医療の課題を挙げる。	倉岡有美子
	授業	チーム医療の理論	
	事後学習 (復習)	授業をもとにチーム医療の理論について整理する	

4	事前学習 (予習)	自身の臨床経験からチーム医療の課題を挙げる。	倉岡有美子
	授業	チーム医療の理論 (事例検討) 学生によるプレゼンテーション	
	事後学習 (復習)	授業をもとにチーム医療の理論について整理する	
5	事前学習 (予習)	自身の臨床経験から組織倫理の課題を挙げる。	倉岡有美子
	授業	組織倫理と事例検討①	
	事後学習 (復習)	授業をもとに組織倫理について整理する	
6	事前学習 (予習)	自身の臨床経験から組織倫理の課題を挙げる。	倉岡有美子
	授業	組織倫理と事例検討② 学生によるプレゼンテーション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに組織倫理について整理する	
7	事前学習 (予習)	自施設がこれまで受審した第三者評価の結果について調べる。	倉岡有美子
	授業	資源管理と看護の質保証①	
	事後学習 (復習)	授業をもとに資源管理と看護の質保証について整理する	
8	事前学習 (予習)	自施設がこれまで受審した第三者評価の結果について調べる。	倉岡有美子
	授業	資源管理と看護の質保証② 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに資源管理と看護の質保証について整理する	
9	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読む。	倉岡有美子
	授業	看護活動を取り巻く法律と制度① 医療保険制度、診療報酬、医療法、保健師助産師看護師法	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護活動を取り巻く法律と制度について整理する	
10	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読む。	倉岡有美子
	授業	看護活動を取り巻く法律と制度② 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護活動を取り巻く法律と制度について整理する	
11	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読む。	倉岡有美子
	授業	看護労働に関する法律と制度 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護労働に関する法律と制度について整理する	
12	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読む	倉岡有美子
	授業	管理者の能力 (コンピテンシー)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに管理者の能力について整理する	
13	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読む	倉岡有美子
	授業	看護管理者の能力開発 (経験学習) ①	
	事後学習 (復習)	授業をもとに経験学習について整理する	
14	事前学習 (予習)	事前に配布する資料を読む	倉岡有美子
	授業	看護管理者の能力開発 (経験学習) ②	
	事後学習 (復習)	授業をもとに経験学習について整理する	
15	事前学習 (予習)	看護管理の今日的課題についてまとめる	倉岡有美子
	授業	看護管理の今日的課題の克服に向けた提案 学生によるプレゼンテーションと討議	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護管理の今日的課題について整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 倉岡2713号室で行う、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護管理学演習				ナンバリング		
担当者	倉岡有美子						
開講年次	2	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	看護管理学分野における国内外の文献をゼミ形式で講読し、クリティークを行う。文献レビューを通して、各自の研究課題を明確にする。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)文献検索の方法および文献の種類について理解できる。 2)文献レビュー、論文クリティークを通して、研究の方向性を定めることができる。 3)文献レビュー、論文クリティークを研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)						
	ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)						
	学生が検索した論文及び資料を提示する。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人としての 倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率					10	60	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート					○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表						◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく。	倉岡有美子
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	看護管理学関連の研究の動向について調べる	倉岡有美子
	授業	看護管理学関連の研究の動向と今後の課題①	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護管理学関連の研究の動向と今後の課題をまとめる	
3	事前学習 (予習)	看護管理学関連の研究の動向について調べる	倉岡有美子
	授業	看護管理学関連の研究の動向と今後の課題②	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護管理学関連の研究の動向と今後の課題をまとめる	
4	事前学習 (予習)	自身の関心のあるテーマの文献検索とクリティック	倉岡有美子
	授業	看護管理学関連の主要な研究のクリティックと討議①	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティックの結果を整理する	
5	事前学習 (予習)	自身の関心のあるテーマの文献検索とクリティック	倉岡有美子
	授業	看護管理学関連の主要な研究のクリティックと討議②	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティックの結果を整理する	

6	事前学習 (予習)	自身の関心のあるテーマの文献検索とクリティーク	倉岡有美子
	授業	看護管理学関連の主要な研究のクリティークと討議③	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
7	事前学習 (予習)	仮テーマの立案	倉岡有美子
	授業	文献レビューおよび研究の仮テーマの検討①	
	事後学習 (復習)	授業をもとに仮テーマを修正する	
8,9	事前学習 (予習)	仮テーマの立案	倉岡有美子
	授業	文献レビューおよび研究の仮テーマの検討②	
	事後学習 (復習)	授業をもとに仮テーマを修正する	
10	事前学習 (予習)	仮テーマの立案	倉岡有美子
	授業	文献レビューおよび研究の仮テーマの検討③	
	事後学習 (復習)	授業をもとに仮テーマを修正する	
11,12	事前学習 (予習)	仮テーマの立案	倉岡有美子
	授業	研究の仮テーマの確定	
	事後学習 (復習)	授業をもとに仮テーマを修正する	
13,14,15,16	事前学習 (予習)	研究の仮テーマにそった文献レビュー	倉岡有美子
	授業	研究の仮テーマにそった文献レビューとクリティーク①	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
17,18,19,20	事前学習 (予習)	研究の仮テーマにそった文献レビュー	倉岡有美子
	授業	研究の仮テーマにそった文献レビューとクリティーク②	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
21,22,23,24	事前学習 (予習)	研究の仮テーマにそった文献レビュー	倉岡有美子
	授業	研究の仮テーマにそった文献レビューとクリティーク③	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
25,26,27,28	事前学習 (予習)	研究の仮テーマにそった文献レビュー	倉岡有美子
	授業	研究の仮テーマにそった文献レビューとクリティーク④	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
29,30	事前学習 (予習)	研究の仮テーマにそった文献レビュー	倉岡有美子
	授業	研究の仮テーマにそった文献レビューとクリティーク⑤	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 倉岡2713号室で行う、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護教育学特論				ナンバリング		
担当者	花田妙子・辻慶子・児玉裕美・梅木彰子						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 看護教育に必要な自己調整学習など学習理論を理解し、看護基礎教育および継続教育において看護実践力を育成する教育内容や方法を学ぶ。 看護教育について文献検索を行い、自分の見出した看護教育の問題を提起し、討議を通して自分の研究テーマを研究していく基礎的知識を習得する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)学習者の意欲や動機づけを高める主体的な学習活動を支援する教育技法を理解する。 2)学習理論に基づく教授・学習活動について理解する。 3)看護教育における評価方法を説明できる。 4)看護基礎教育および継続教育に関する社会的背景をふまえ、自身の教育実践における課題を見出すことができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 看護教育と関係する自己調整学習の3段階プロセスなど学習理論、看護実践力を育成する教育方法などを講義する。看護教育と関連する文献のクリティーク、看護教育における問題提起をプレゼンテーション、ディスカッションを行う(アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		20	40	20		20			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		◎			30
授業態度		○	○	○		○			10
受講者の発表		◎	◎	○		◎			40
授業への参加度		○	○	○		○			20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	授業計画書を読み到達目標を目指し、自分の学習計画を立て臨む。	花田妙子
	授業	看護教育における学習者の意欲と主体的な学習活動	
	事後学習 (復習)	看護教育の基本である学習者の主体的で自律的な学習活動についてまとめる。	
2	事前学習 (予習)	教育心理学の自己調整学習 (Self-regulated learning) について予習しておく。	花田妙子
	授業	看護教育に必要な「自己調整学習能力」の育成について	
	事後学習 (復習)	授業を基に看護教育に自己調整学習の省察など3段階の循環が必要なことをまとめる。	
3	事前学習 (予習)	看護実践力を高めることについての文献検索を行い予習しておく。	花田妙子
	授業	看護実践力を育成する教育技法 (1)	
	事後学習 (復習)	授業を基に看護実践力を高める指導方法をまとめる。	
4	事前学習 (予習)	前回の授業を踏まえて看護実践力の向上と自分の実践経験を繋げて臨む。	花田妙子
	授業	看護実践力を育成する教育技法 (2)	
	事後学習 (復習)	看護教育での看護実践力を向上させる方法をまとめる。	
5	事前学習 (予習)	文献を読んで要約し、発表できるように準備する。	辻慶子
	授業	看護専門職業人の育成	
	事後学習 (復習)	授業の内容を振り返り、課題を明確にできるように整理する。	

6	事前学習 (予習)	文献を読んで要約し、発表できるように準備する。	辻慶子
	授業	看護教育における教育方法と評価 (1)	
	事後学習 (復習)	授業の内容を振り返り、課題を明確にできるように整理する。	
7	事前学習 (予習)	文献を読んで要約し、発表できるように準備する。	辻慶子
	授業	看護教育における教育方法と評価 (2)	
	事後学習 (復習)	授業の内容を振り返り、課題を明確にできるように整理する。	
8	事前学習 (予習)	文献を読んで要約し、プレゼンテーションができるように準備する。	児玉裕美
	授業	看護継続教育とキャリア発達	
	事後学習 (復習)	授業をもとに自己のキャリア発達について整理する。	
9	事前学習 (予習)	文献や自己の経験をもとに新人看護師教育における課題をまとめる。	児玉裕美
	授業	看護継続教育の実際 (新人看護師対象)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに新人看護師教育において自己の立場に関わる取り組みについて整理する。	
10	事前学習 (予習)	看護実践力に繋がる看護過程を考えて臨む。	梅木彰子
	授業	看護実践力の土台作りとして看護過程と臨床判断	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護実践力に繋がる看護過程と臨床判断をまとめる。	
11	事前学習 (予習)	患者の生活状況の把握を臨床で指導することを整理する。	梅木彰子
	授業	臨床において患者の希望や生活状況の捉え方、臨床判断の指導	
	事後学習 (復習)	臨床で患者の生活状況の捉え方、臨床判断の指導についてまとめる。	
12	事前学習 (予習)	プレゼンテーションをするパワーポイントの内容とその文献を準備する。	辻慶子
	授業	看護教育についての問題提起に基づいて討議 (院生が主体) (1)	
	事後学習 (復習)	看護教育について提起された問題と討議よりその改善策をまとめる。	
13	事前学習 (予習)	プレゼンテーションをするパワーポイントの内容とその文献を準備する。	児玉裕美
	授業	看護教育についての問題提起に基づいて討議 (院生が主体) (2)	
	事後学習 (復習)	看護教育について提起された問題と討議よりその改善策をまとめる。	
14	事前学習 (予習)	プレゼンテーションをするパワーポイントの内容とその文献を準備する。	梅木彰子
	授業	看護教育についての問題提起に基づいて討議 (院生が主体) (3)	
	事後学習 (復習)	看護教育について提起された問題と討議よりその改善策をまとめる。	
15	事前学習 (予習)	プレゼンテーションをするパワーポイントの内容とその文献を準備する。	花田妙子
	授業	看護教育についての問題提起に基づいて討議 (院生が主体) (4)	
	事後学習 (復習)	看護教育について提起された問題と討議よりその改善策をまとめる。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 花田2904号室で行う、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護教育学演習				ナンバリング		
担当者	花田妙子・辻慶子・児玉裕美・梅木彰子						
開講年次	2	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 看護基礎教育と継続教育の現状から課題を確認し、今後の改善に向けて看護教育学の研究について討議する。 教育学分野における文献検討を行い、看護基礎教育や継続教育の現場や、研究計画に活かすことができる。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)看護教育学の研究論文のクリティークを通して、看護教育学および継続教育の研究の課題を理解できる。 2)看護教育学の文献検討や課題のディスカッションを通して、看護教育と看護教育学の今後の課題を明確にできる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 看護教育に関する文献のクリティーク、プレゼンテーション、それを基にディスカッションを行う「アクティブラーニング」。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		20	30	20		30			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○	◎	○		◎			30
授業態度		○	○	○		○			10
受講者の発表		○	◎	○		◎			40
授業への参加度		○	○	○		○			20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	授業計画書を読み到達目標を目指し、自分の学習計画を立て臨む。	花田妙子
	授業	看護学教育における看護基礎教育と継続教育	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護基礎教育と継続教育の連携の重要性をまとめる。	
2	事前学習 (予習)	新人看護師、中堅看護師の教育に関する文献検索を行い予習しておく。	花田妙子
	授業	看護継続教育の現状と課題 (新人看護師、中堅看護師)	
	事後学習 (復習)	新人看護師、中堅看護師の研修や指導の内容、方法をまとめる。	
3	事前学習 (予習)	看護技術習得や患者主体の関わりなど態度学習に関する文献より予習をしておく。	花田妙子
	授業	看護教育における技術・態度学習について討議	
	事後学習 (復習)	看護技術の習得や患者主体の看護展開の指導をまとめる。	
4, 5	事前学習 (予習)	臨床での看護実践の工夫の成果を教育に生かすことの大切さを考え臨む。	花田妙子
	授業	臨床看護の知を看護教育に取り込む教育技法	
	事後学習 (復習)	授業を基に臨床での看護実践の工夫の成果を教育に生かすことをまとめる。	
6, 7	事前学習 (予習)	事前の配布資料を読み臨床での具体的な事象と結びつけながら看護技術の疑問を明確にする。	辻慶子
	授業	看護技術の開発と検証(1): 看護技術学の定義、看護技術に関する疑問・問題意識の明確化	
	事後学習 (復習)	授業を通して看護技術の疑問・問題を整理する。	

8	事前学習 (予習)	前回の授業・文献から看護技術研究の動向と課題をまとめておく。	辻慶子
	授業	看護技術の開発と検証(2):実践から研究へ	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護技術研究成果の活用状況についてまとめる。	
9	事前学習 (予習)	文献のクリティークを行いディスカッションできる準備をする。	辻慶子
	授業	看護技術の開発と検証(3):看護技術教育に関する研究成果のクリティーク	
	事後学習 (復習)	授業を基にクリティークの修正を行う。	
10	事前学習 (予習)	これまで学生指導に関わった経験からの学生理解についてまとめる。	児玉裕美
	授業	看護基礎教育の現状と課題 (学生の特性の観点から)	
	事後学習 (復習)	授業をもとに看護基礎教育における課題に自分の立場から関われる取り組みについて整理する。	
11	事前学習 (予習)	これまで学生指導に関わった経験からの困りごとや指導の工夫点をまとめる。	児玉裕美
	授業	看護基礎教育—基礎看護学演習、実習に関する教育技法の工夫	
	事後学習 (復習)	授業をもとに基礎看護学の演習、実習における教育のあり方について整理する。	
12	事前学習 (予習)	学生指導に関わった経験から課題を整理して臨む。	梅木彰子
	授業	看護基礎教育—成人看護学講義および演習に関する教育技法の工夫	
	事後学習 (復習)	授業をもとに成人看護学の講義、演習の工夫内容をまとめる。	
13	事前学習 (予習)	実習指導に関わった経験から課題を整理して臨む。	梅木彰子
	授業	看護基礎教育—成人看護学実習における学習内容の効果的な指導	
	事後学習 (復習)	授業をもとに成人看護学実習における工夫をまとめる。	
14, 15, 16, 17	事前学習 (予習)	看護継続教育に関して文献検索を行い、問題提起のパワーポイントとその文献を準備する。	辻慶子
	授業	看護基礎教育に関する文献を検討し院生より問題提起とディスカッション	
	事後学習 (復習)	看護継続教育について提起された問題とディスカッションによる解決策をまとめる。	
18, 19, 20, 21	事前学習 (予習)	看護継続教育に関して文献検索を行い、問題提起のパワーポイントとその文献を準備する。	児玉裕美
	授業	看護基礎教育—基礎看護学、講義、演習、実習に関して院生より問題提起とディスカッション	
	事後学習 (復習)	看護継続教育について提起された問題とディスカッションによる解決策をまとめる。	
22, 23, 24, 25	事前学習 (予習)	看護基礎教育の成人看護学の文献検索を行い、問題提起のパワーポイントとその文献を準備する。	梅木彰子
	授業	看護基礎教育—成人看護学、講義、演習、実習に関して院生より問題提起とディスカッション	
	事後学習 (復習)	成人看護学について提起された問題とディスカッションによる解決策をまとめる。	
26, 27, 28, 29, 30	事前学習 (予習)	看護継続教育に関して文献検索を行い、問題提起のパワーポイントとその文献を準備する。	花田妙子
	授業	看護継続教育に関する文献を検討し院生より問題提起とディスカッション	
	事後学習 (復習)	看護継続教育について提起された問題とディスカッションによる解決策をまとめる。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 花田2904号室で行う、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	精神看護学特論				ナンバリング		
担当者	白石裕子・齋藤嘉宏						
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 精神保健福祉分野の歴史的変遷を踏まえた精神保健福祉制度の今日的課題と、精神看護学における新たなキーワードや最新の知見について学び、自己の研究課題と方法論の明確化につなげる。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)最新の精神医療保健や精神看護に関する情報を文献などから検索し、説明することができる。 2)精神看護学に関する新しい概念であるリカバリーやストレングスについて理解する。 3)精神看護学における実践的なスキルとしての認知行動療法について説明できる。 4)精神看護学に関連した自己の研究課題を明確にするための文献のクリティークができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義、演習、グループディスカッション。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 『ストレングスにもとづく看護ケア』白石裕子監訳、看護の科学社、2020 『認知行動療法を用いた精神看護実習ガイド』齋藤嘉宏編、看護の科学社、2019						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率			40	60					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○						20
授業態度			○						20
受講者の発表			◎	◎			○		40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを熟読し、授業の概要や到達目標を把握しておく	白石裕子
	授業	・ガイダンス ・最新の国際的・国内的な精神医療保健の動向と課題	
	事後学習 (復習)	提示された著作や学習資料へのアクセスを確認する	
2	事前学習 (予習)	精神医療保健	白石裕子
	授業	精神障害者を支える理論的枠組み① ・精神障害者のBio - Psycho - Socialな側面の理解	
	事後学習 (復習)	講義の中で一番関心の高かった精神保健に関するキーワードを挙げる	
3	事前学習 (予習)	セルフケア理論についての資料を読んでおく	白石裕子
	授業	精神障害者を支える理論的枠組み② ・セルフケア理論	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
4	事前学習 (予習)	リカバリー、ストレングスに関する資料を読む	白石裕子
	授業	精神障害者を支える理論的枠組み③ ・リカバリー、ストレングス理論	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	

5	事前学習 (予習)	地域における精神障害者を支える社会資源についてまとめる	齋藤嘉宏
	授業	・地域精神保健のシステムと地域資源	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
6	事前学習 (予習)	ACTに関するDVDを視聴する	白石裕子
	授業	・リカバリー、ストレングス理論を用いた援助としてのACT	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
7	事前学習 (予習)	認知行動療法についてのDVDを視聴しておく	白石裕子
	授業	精神障害者のセルフマネジメントを強める看護技術① ・認知行動療法の基礎	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
8	事前学習 (予習)	セルフコンパッションに関するDVDを視聴する	齋藤嘉宏
	授業	看護師のメンタルヘルスを支える認知行動療法 ・セルフコンパッション	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
9	事前学習 (予習)	児童・思春期・青年期におけるメンタルヘルスの課題を挙げる	白石裕子
	授業	児童・思春期・青年期の精神保健に関する実態と看護師の役割	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
10	事前学習 (予習)	国内外の自殺に関する最新の情報を確認しておく	白石裕子
	授業	・自殺問題に関連する対策・政策と啓発活動	
	事後学習 (復習)	国内外の自殺問題に対して看護師ができることをまとめる	
11	事前学習 (予習)	トラウマの概念、PTSDの概念、看護ケアについてまとめる	齋藤嘉宏
	授業	・PTSD、トラウマインフォームドケア	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
12	事前学習 (予習)	CT-R (リカバリー志向の認知行動療法) の文献を読む	白石裕子
	授業	・CT-Rの理論と実践	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
13	事前学習 (予習)	最も関心のある精神医療保健に関するキーワードについて文献検討をしてパワーポイントにまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・精神医療保健の中で関心の高い分野についてプレゼンテーションし、全員でディスカッションを行う。	
	事後学習 (復習)	ディスカッション内容を統合し、整理する	
14	事前学習 (予習)	最も関心のある精神医療保健に関するキーワードについて文献検討をしてパワーポイントにまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	・精神医療保健の中で関心の高い分野についてプレゼンテーションし、全員でディスカッションを行う。	
	事後学習 (復習)	ディスカッション内容を統合し、整理する	
15	事前学習 (予習)	講義を振り返り、わが国の精神医療の課題について考察する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	まとめ	
	事後学習 (復習)	ディスカッション内容を統合し、整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 白石・齋藤2707室で行う。予約はメールでアポイントを取る。	

科目名	精神看護学演習				ナンバリング		
担当者	白石裕子・齋藤嘉宏						
開講年次	2	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 精神保健および精神看護の看護実践についての知識や技術を体験を通して修得する。さらに、文献レビューを通して、精神保健及び精神看護の最新の知見を修得し、研究結果で得られた知見を実践に応用するための能力を養う。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)精神保健および精神看護の看護実践についての知識や技術の基盤を学び、看護実践の質向上について考察できる。 2)精神保健および精神看護の多様なテーマに基づいた文献レビューとクリティークができる。 3)文献レビューを通して、最新の知見を理解し、地域や臨床に応用するためのアプローチ方法を検討できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義、演習、グループディスカッション。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 『ストレングスにもとづく看護ケア』白石裕子監訳、看護の科学社、2020 『認知行動療法を用いた精神看護実習ガイド』齋藤嘉宏編、看護の科学社、2019						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			40	60					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○						20
授業態度			○						20
受講者の発表			◎	◎			○		40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスを熟読し、授業の概要や到達目標を把握しておく	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	提示された著作や学習資料へのアクセスを確認する	
2	事前学習 (予習)	精神看護学関連の研究の動向について調べる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	精神看護学関連の研究の動向と今後の課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに精神看護学関連の研究の動向と今後の課題についてまとめる	
3・4	事前学習 (予習)	精神看護学関連の興味のあるテーマの文献を入手する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	精神看護学関連の主要な研究のクリティーク①	
	事後学習 (復習)	授業を基にクリティークの結果を整理する	
5・6	事前学習 (予習)	精神看護学関連の興味のあるテーマの文献を入手する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	精神看護学関連の主要な研究のクリティーク②	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
7・8	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	事例によるリカバリー、ストレングス理論を用いた援助演習①	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	

9・10	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	事例によるリカバリー、ストレングス理論を用いた援助演習②	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
11・12	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	事例によるセルフケア理論を用いたアセスメント演習①	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
13・14	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	事例によるセルフケア理論を用いたアセスメント演習②	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
15・16	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	事例による認知行動療法演習①	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
17・18	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	事例による認知行動療法演習②	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
19・20	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	看護師へのストレスマネジメント演習① (セルフコンパッション)	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
21・22	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	看護師へのストレスマネジメント演習②リラクゼーション技法	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
23・24	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	簡易型認知行動療法の実践	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
25・26	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	認知行動療法スーパービジョン①	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
27・28	事前学習 (予習)	講義を振り返り、自己の臨床場面での課題と今後の対応策について考察する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	認知行動療法スーパービジョン②	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
29・30	事前学習 (予習)	自己の臨床経験における事例を抽出する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	まとめのプレゼンテーション	
	事後学習 (復習)	講義内容とディスカッションした内容を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・プレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 白石・齋藤2707室で行う。予約はメールでアポイントを取ること。	

科目名	地域・在宅看護学特論				ナンバリング			
担当者	正野逸子・馬場みちえ・久木原博子・菊原美緒							
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 地域・在宅看護学の今日的な位置づけと基本理論を理解し、それぞれの看護領域の実践に活かすことができる。地域における看護の対象のニーズを多角的に捉え、地域で生活する個人・家族・集団のアセスメントとセルフケア能力の向上を含めた健康支援方法および疾患や障がいを持つ対象の在宅療養に必要なアセスメントと支援する方法を理解し、ソーシャルサポート、パートナーシップ、エンパワーメントの理論にもとづく支援を提案できる。地域・在宅看護を取り巻く制度、社会資源および現況を包括的に理解できる。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)地域・在宅看護学の今日的な位置づけと基本理論を理解できる。 2)地域における看護の対象のニーズを多角的にとらえる方法について理解できる。 3)地域・集団のアセスメントとセルフケア能力の向上を含めた健康支援方法が理解できる。 4)個人・家族のアセスメントと疾患や障がいを持つ対象の療養支援方法が理解できる。 5)ソーシャルサポート、パートナーシップ、エンパワーメントの理論に基づいた支援の考え方が理解できる。 6)地域・在宅看護学の探求ができる。 7)課題についてのプレゼンテーションができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、フィールドワーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					30
授業態度			○	○					10
受講者の発表			◎	◎					40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく	正野逸子
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	人口動態等の社会現象についてまとめておく	正野逸子
	授業	今、社会が看護に期待すること	
	事後学習 (復習)	授業をもとに社会が看護に期待することを整理する	
3	事前学習 (予習)	指定規則の変更点とその背景についてまとめておく	正野逸子
	授業	地域・在宅看護学の今日的な位置づけと基本理論	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域・在宅看護学の今日的な位置づけについて整理する	
4	事前学習 (予習)	文献をもとに地域における集団・コミュニティのニーズを多角的にとらえる方法をまとめておく	馬場みちえ
	授業	集団・コミュニティのニーズを多角的にとらえる方法	
	事後学習 (復習)	授業をもとに集団・コミュニティのニーズを多角的にとらえる方法を整理する	
5	事前学習 (予習)	文献をもとに地域における看護の対象への支援方法をまとめておく	馬場みちえ
	授業	地域における看護の対象への支援方法	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域における看護の対象への支援方法を整理する	

6	事前学習 (予習)	文献をもとにエンパワメントの概念についてまとめておく	馬場みちえ
	授業	対象と地域のエンパワメント	
	事後学習 (復習)	授業をもとに対象と地域のエンパワメントのあり方を整理する	
7	事前学習 (予習)	文献をもとにパートナーシップの概念についてまとめておく	馬場みちえ
	授業	対象と地域のパートナーシップ	
	事後学習 (復習)	授業をもとに対象と地域のパートナーシップのあり方について整理する	
8	事前学習 (予習)	文献をもとにソーシャルサポートの概念についてまとめておく	馬場みちえ
	授業	対象と地域のソーシャルサポート	
	事後学習 (復習)	授業をもとに対象と地域のソーシャルサポートのあり方について整理する	
9	事前学習 (予習)	文献をもとに地域における個人・家族のニーズを多角的にとらえる方法をまとめておく	菊原美緒
	授業	個人・家族のニーズを多角的にとらえる方法	
	事後学習 (復習)	授業を基に個人・家族のニーズを多角的にとらえる方法を整理する	
10	事前学習 (予習)	文献をもとに地域における個人・家族のニーズと支援方法をまとめておく	菊原美緒
	授業	個人・家族のニーズと対象への支援方法	
	事後学習 (復習)	授業をもとに個人・家族のニーズと対象への支援方法を整理する	
11	事前学習 (予習)	障がいを抱えて地域で生活する事例の文献を読んでまとめておく	久木原博子
	授業	障がいを抱えて、地域で生活する対象への支援	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域で生活する障がい者への支援のあり方を整理する	
12	事前学習 (予習)	慢性疾患を抱えて地域で生活する事例の文献を読んでまとめておく	正野逸子
	授業	慢性疾患を抱えて地域で生活する対象への支援	
	事後学習 (復習)	授業をもとに慢性疾患を抱えて地域で生活する対象へ支援のあり方を整理する	
13	事前学習 (予習)	難病を抱えて地域で生活する事例の文献を読んでまとめておく	久木原博子
	授業	難病を抱えて地域で生活する対象への支援	
	事後学習 (復習)	授業をもとに難病を抱えて地域で生活する対象への支援のあり方を整理する	
14	事前学習 (予習)	ターミナル期に地域で生活する事例の文献を読んでまとめておく	正野逸子
	授業	がん疾患 (ターミナル期) を抱えて地域で生活する対象への支援	
	事後学習 (復習)	ターミナル期に地域で生活する対象への支援のあり方を整理する	
15	事前学習 (予習)	これまでの授業を踏まえ、地域・在宅看護学の展望と課題についてレポートにまとめる	正野逸子 馬場みちえ 久木原博子 菊原美緒
	授業	地域・在宅看護学の展望と課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域・在宅看護の展望と課題を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり90分の事前・事後学習時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～19時2906室	

科目名	地域・在宅看護学演習				ナンバリング		
担当者	正野逸子・馬場みちえ・久木原博子・池田敏子・菊原美緒						
開講年次	2	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 地域・在宅看護学分野の教育方法の現状と研究課題から、今後の地域・在宅看護学の教育と研究のあり方について論考する。地域・在宅看護学分野 (特に高齢者関連) におけるフィールドワーク等の実践活動を行い、それを教育と研究に発展できる。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)地域・在宅看護学の研究論文のクリティークを通して教育と研究の課題が理解できる。 2)地域・在宅看護学のフィールドワークを通して、地域・在宅看護学の教育と研究の今後の課題が明確にできる。 3)フィールドワークを教育方法や研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、フィールドワーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					30
授業態度			○	○					10
受講者の発表			◎	○					40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく。	正野逸子 馬場みちえ 池田敏子
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	地域・在宅看護学関連の研究の動向について調べる	正野逸子 馬場みちえ
	授業	地域・在宅看護学関連の研究の動向と今後の課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域・在宅看護学関連の研究の動向と今後の課題をまとめる	
3	事前学習 (予習)	地域・在宅看護学関連の研究の動向について調べる	正野逸子 馬場みちえ
	授業	地域・在宅看護学関連の研究の動向と今後の課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに地域・在宅看護学関連の研究の動向と今後の課題をまとめる	
4	事前学習 (予習)	事前課題文献のクリティーク	正野逸子 菊原美緒
	授業	在宅看護学関連の主要な研究のクリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	

5	事前学習 (予習)	事前課題文献のクリティーク	正野逸子 菊原美緒
	授業	在宅看護学関連の主要な研究のクリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
6	事前学習 (予習)	事前課題文献のクリティーク	馬場みちえ 久木原博子
	授業	公衆衛生看護学関連の主要な研究のクリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
7	事前学習 (予習)	事前課題文献のクリティーク	馬場みちえ 久木原博子
	授業	公衆衛生看護学関連の主要な研究のクリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとにクリティークの結果を整理する	
8,9	事前学習 (予習)	自己の研究テーマに関連するフィールドワーク等の実習計画の立案	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワーク等の実習計画の立案	
	事後学習 (復習)	実習計画の修正する	
10	事前学習 (予習)	自分の研究とフィールドワーク等の目的を整理する	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワークの実習計画の修正	
	事後学習 (復習)	自己の研究とフィールドワークの関連を整理する	
11,12	事前学習 (予習)	自己の研究とフィールドワーク等の資料作成	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワークの実習計画の交渉	
	事後学習 (復習)	自己の研究とフィールドワークの関連を整理する	
13,14,15,16	事前学習 (予習)	フィールドワークに関連した情報収集と目標の設定	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワークⅠー ①	
	事後学習 (復習)	フィールドワークでの気づきと学びを整理する	
17,18,19,20	事前学習 (予習)	フィールドワークに関連した情報収集と目標の設定	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワークⅠー ②	
	事後学習 (復習)	フィールドワークでの気づきと学びを整理する	
21,22,23,24	事前学習 (予習)	フィールドワークに関連した情報収集と目標の設定	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワークⅠー ③	
	事後学習 (復習)	フィールドワークでの気づきと学びを整理する	
25,26,27,28	事前学習 (予習)	フィールドワークに関連した情報収集と目標の設定	正野逸子 馬場みちえ
	授業	フィールドワークⅡー ①	
	事後学習 (復習)	フィールドワークでの気づきと学びを整理する	
29,30	事前学習 (予習)	フィールドワークに基づく地域・在宅看護の現状と課題について発表内容を整理する	正野逸子 馬場みちえ 久木原博子 池田敏子 菊原美緒
	授業	地域・在宅看護学の教育と研究の今後の課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに、地域・在宅看護学の教育と研究の今後の課題について整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・フィールドワークは、学生と調整しながら計画を進める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 木曜 15～19時2906室	

科目名	看護学特別研究 (看護管理学領域)				ナンバリング		
担当者	倉岡有美子						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の観点から看護学分野の看護管理学領域に関する研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画を作成し、倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、最終的に修士論文を作成するための演習を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討を行い研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護管理学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文(修士)を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会(一次審査・二次審査)においてプレゼンテーションできる 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める)で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生が検索した論文及び資料を提示する。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画(学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習(予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	倉岡有美子
	授業	演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習(復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習(予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	倉岡有美子
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習(復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習(予習)	現象の記述から、研究課題を考える	倉岡有美子
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習(復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習(予習)	キ-ワ-ドの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	倉岡有美子
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習(復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習(予習)	文献検索のキーワードで検索する	倉岡有美子
	授業	文献検索する(フィールドワーク)	
	事後学習(復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習(予習)	文献検索のキーワードで検索する	倉岡有美子
	授業	文献検索する(フィールドワーク)	
	事後学習(復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる(ファイリング)	
7	事前学習(予習)	文献のクリティークの準備をする	倉岡有美子
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習(復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	倉岡有美子
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	倉岡有美子
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	倉岡有美子
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	倉岡有美子
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	倉岡有美子
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	倉岡有美子
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	倉岡有美子
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	倉岡有美子
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	倉岡有美子
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	倉岡有美子
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	倉岡有美子
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	倉岡有美子
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	倉岡有美子
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	倉岡有美子
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	倉岡有美子
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	倉岡有美子
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	倉岡有美子
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 倉岡までメールでアポイントをとってください。	

科目名	看護学特別研究(看護管理学領域)				ナンバリング			
担当者	倉岡有美子							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の観点から看護学分野の看護管理領域に関する研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画を作成し、倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、最終的に修士論文を作成するための演習を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討を行い研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護管理学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文(修士)を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会(一次審査・二次審査)においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める)で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生が検索した論文及び資料を提示する。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	◎			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画(学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習(予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習(復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習(予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習(復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習(予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習(復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習(予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習(復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習(予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習(復習)	データ収集の整理をする	
36	事前学習(予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習(復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習(予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習(復習)	データ収集の整理をする	

38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	倉岡有美子
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	倉岡有美子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	倉岡有美子
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	倉岡有美子
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	倉岡有美子
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	倉岡有美子
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	倉岡有美子
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	倉岡有美子
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	倉岡有美子
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	倉岡有美子
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	倉岡有美子
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	倉岡有美子
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	倉岡有美子
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	倉岡有美子
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	倉岡有美子
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	倉岡有美子
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	倉岡有美子
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	倉岡有美子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	倉岡有美子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	倉岡有美子
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	倉岡有美子
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	倉岡有美子
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 倉岡2713号室で行う、予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護学特別研究(看護教育学領域)				ナンバ'リンク'			
担当者	花田 妙子							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に看護教育に関する研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討(クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文(修士)を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会(一次審査・二次審査)においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 研究ゼミナールの形式で、学生がプレゼンテーションし、その内容に基づいてディスカッションし、各自の研究テーマを探索しまとめていく。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿って、文献検索した論文、それに加えて必要な資料や文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1	D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法
学修比率		10	20	10		60		100
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート		○	○	○		◎		30
授業態度		○	○	○		○		10
受講者の発表		○	○	○		◎		40
授業への参加度		○	○	○		○		20
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画(学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習(予習)	シラバスを読み、自分の修士論文作成の学習計画を立て読む。	
	授業	研究ゼミナールでの到達目標を理解し、学習計画を立案する。	
	事後学習(復習)	学修期間での計画スケジュールを立てる。	
2	事前学習(予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	看護教育に関する自分のリサーチアクションを絞る。	
	事後学習(復習)	自分のリサーチアクションをまとめる。	
3	事前学習(予習)	看護教育における研究課題を考える。	
	授業	看護教育における自分の研究題目に関する文献検索のキーワードを検討する。	
	事後学習(復習)	研究課題に関するキーワードをまとめる。	
4	事前学習(予習)	キーワードの定義を調べ、文献検索をする。	
	授業	研究題目、文献検索のキーワードなど資料をもとに討議する。	
	事後学習(復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする。	
5	事前学習(予習)	定義を調べた文献検索のキーワードで検索する。	
	授業	文献検索をする。	
	事後学習(復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する。	
6	事前学習(予習)	定義を調べたキーワードで検索する。	
	授業	文献検索をする。	
	事後学習(復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる(ファイリング)	
7	事前学習(予習)	文献のクリティークの準備をする	
	授業	文献クリティークを院生、指導教員と共に研究ゼミナールで行う。	
	事後学習(復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	花田妙子
	授業	文献クリティークを院生、指導教員と共に研究ゼミナールで行う。	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論や看護教育学演習の内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える。	花田妙子
	授業	研究課題の解決を導く研究方法を検討する。	
	事後学習 (復習)	助言の内容より検討し、文献と照合して考える。	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論や看護教育学演習の内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える。	花田妙子
	授業	看護教育に関する自分のリサーチクエッションより研究題目を検討する。	
	事後学習 (復習)	助言の内容より検討し、文献と照合して考える。	
11	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論や看護教育学演習の内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える。	花田妙子
	授業	研究題目に関する文献検索を加える。	
	事後学習 (復習)	助言の内容より検討し、文献と照合して考える。	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論や看護教育学演習の内容を反映させ、研究計画書の作成を考える。	花田妙子
	授業	研究方法を決め、研究計画書を作成する。	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
13	事前学習 (予習)	研究方法の検討をして、助言を受ける準備をする。	花田妙子
	授業	看護教育学演習での文献検索の内容を反映させ研究計画書の作成に生かす。	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する。	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法的作成を提出資料として準備する	花田妙子
	授業	看護教育学演習での文献検索の内容を反映させ研究計画書の作成に生かす。	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する。	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法的作成を提出資料として準備する	花田妙子
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する。	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	花田妙子
	授業	研究計画書に具体的なデータ収集までのプロセスを記述し、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言をもとに、データ収集までのプロセスを整理する。	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	花田妙子
	授業	研究計画発表会のパワーポイントなどを準備する。	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する。	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする。	花田妙子
	授業	研究計画発表会の練習を行い、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言内容を検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する。	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	研究計画発表会で発表する。	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する。	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする。	花田妙子
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する。	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする。	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする。	花田妙子
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備をし、提出する。	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	花田妙子
	授業	研究計画に沿って研究を実施する具体的な準備について助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする。	
24	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする。	

25	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
26	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
27	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする。	
28	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする。	
29	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする。	
30	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	データを収集する。	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする。	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護学特別研究(看護教育学領域)				ナンバ'リンク'			
担当者	花田 妙子							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に看護教育に関する研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的ものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討(クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文(修士)を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会(一次審査・二次審査)においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 研究ゼミナールの形式で、学生がプレゼンテーションし、その内容に基づいてディスカッションし、各自の研究テーマを探索しまとめていく。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿って、文献検索した論文、それに加えて必要な資料や文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1		D2		D3		D4	
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法
学修比率		10	20	10		60		
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート		○	○	○		◎		
授業態度		○	○	○		○		
受講者の発表		○	○	○		◎		
授業への参加度		○	○	○		○		
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画(学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習(予習)	データ収集の整理をする	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
32	事前学習(予習)	データ収集の整理をする。	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
33	事前学習(予習)	データ収集の整理をする。	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
34	事前学習(予習)	データ収集の整理をする	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
35	事前学習(予習)	データ収集の整理をする	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
36	事前学習(予習)	データ収集の整理をする	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
37	事前学習(予習)	データ収集の整理をする	花田妙子
	授業	研究方法にもとづきデータの分析、解釈をし、助言を得る。	
	事後学習(復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	

38	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	花田妙子
	授業	データの分析、解釈をもとに作成した図表について、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	花田妙子
	授業	データの分析、解釈をもとに作成した図表について、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	花田妙子
	授業	データの分析、解釈をもとに作成した図表について、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する。	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する。	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する。	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	研究中間発表会のパワーポイントなどを準備する。	
	事後学習 (復習)	助言をもとにパワーポイントなどを修正する。	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	花田妙子
	授業	研究中間発表会の練習を行い、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言内容を検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする。	花田妙子
	授業	研究中間発表会で発表する。	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する。	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	花田妙子
	授業	研究中間発表会で得た意見をもとに論文を検討する。	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する。	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる。	花田妙子
	授業	データの分析結果より作成した図表について助言を得る。	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	花田妙子
	授業	前回より修正した図表の説明を行い、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える。	花田妙子
	授業	論文の章立てについて助言を得て、修士論文を作成する。	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する。	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文を作成する。	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文を作成する。	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする。	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文を作成する。	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする。	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文を作成する。	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする。	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文を作成する。	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	花田妙子
	授業	修士論文の抄録について助言を得る。	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する。	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する。	花田妙子
	授業	作成した修士論文を提出する。	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) での発表の練習を行い、助言を得る。	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する。	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける。	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する。	花田妙子
	授業	指導教員の助言・指導を得て、修士論文を修正する。	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する。	花田妙子
	授業	修士論文が作成規定に沿って書かれていることを確認し、期限内に提出できるように準備する。	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する。	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする。	花田妙子
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する。	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) での質問や助言より論文を整える。	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 予約はメールでアポイントをとること。	

科目名	看護学特別研究 (看護教育学領域)				ナンバリング		
担当者	辻慶子						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に看護教育に関する研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的ものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討(クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文(修士)を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会(一次審査・二次審査)においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める)で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画(学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習(予習)	シラバスを読み、この科目の概要を理解する	
	授業	科目の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習(復習)	科目の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習(予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で感じた疑問や興味・関心をもった事象を記述する	
	授業	これまでの看護体験等を通して、看護教育への疑問や興味・関心をもった事象から研究課題を明確化する	
	事後学習(復習)	討論内容をふまえ、研究課題をまとめる	
3	事前学習(予習)	研究課題を考える	
	授業	看護教育への疑問や興味・関心をもった事象に関する文献を検索する	
	事後学習(復習)	文献検索のキーワードをまとめる	
4	事前学習(予習)	キーワードから看護教育に関連する領域の文献検索し、文献を読み、議論したい点を考えてくる	
	授業	看護教育に関連する領域の文献を検索する(教育学等)	
	事後学習(復習)	討議内容をまとめ、文献を整理する	
5	事前学習(予習)	キーワードから看護教育に関連する領域の文献検索し、文献を読み、議論したい点を考えてくる	
	授業	看護教育に関連する領域の文献を検索する(教育学等)	
	事後学習(復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習(予習)	文献のプレゼンテーションする準備を行う	
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習(復習)	討議を踏まえ、自分の考え、疑問点、検討課題を整理してサマリーを制作する	
7	事前学習(予習)	キーワードから文献検索をする	
	授業	看護教育に関する文献の中から研究課題に関連した種々の文献を検索する。(調査研究)	
	事後学習(復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

8	事前学習 (予習)	キーワードから文献検索をする	辻慶子
	授業	看護教育に関する文献の中から研究課題に関連した種々の文献を検索する。(質的研究)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
9	事前学習 (予習)	キーワードから文献検索をする	辻慶子
	授業	看護教育に関する文献の中から研究課題に関連した種々の文献を検索する。(量的研究)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
10	事前学習 (予習)	文献のプレゼンテーションする準備を行う	辻慶子
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、自分の考え、疑問点、検討課題を整理してサマリーを制作する。	
11	事前学習 (予習)	文献のプレゼンテーションする準備を行う。	辻慶子
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、自分の考え、疑問点、検討課題を整理してサマリーを制作する。	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究方法論の講義内容を反映させ、看護教育の現状と課題についてまとめる	辻慶子
	授業	研究論文のまとめ	
	事後学習 (復習)	研究論文をまとめや討議内容をふまえ、関心をもつ課題を明らかにする意義について考える	
13	事前学習 (予習)	健康科学研究方法論の講義内容を反映させ、研究課題解決のための研究方法を考える	辻慶子
	授業	研究課題を解決するための研究方法について討議する	
	事後学習 (復習)	健康科学研究方法論の講義内容および討議内容を振り返り、課題を明確にし、研究方法を考える	
14	事前学習 (予習)	健康科学研究方法論の講義内容を反映させ、研究課題解決のための研究方法を考える	辻慶子
	授業	研究課題を解決するための研究方法について討議する	
	事後学習 (復習)	健康科学研究方法論の講義内容および討議内容を振り返り、課題を明確にし、研究方法を考える	
15	事前学習 (予習)	文献の再検討の必要性を検討する	辻慶子
	授業	文献を再検索し、文献検討する	
	事後学習 (復習)	文献の再検討した結果を整理し、さらに文献検討が必要かを考える	
16	事前学習 (予習)	文献検討した内容をふまえ、研究計画書の動機・背景・研究目的までを記述する	辻慶子
	授業	研究計画書を作成する (研究は背景・目的に関する検討)	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、研究計画書を再考し修正する	
17	事前学習 (予習)	文献検討した内容をふまえ、研究計画書の動機・背景・研究目的までを記述する	辻慶子
	授業	研究計画書を作成する (研究は背景・目的に関する検討)	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、研究計画書を再考し修正する	
18	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法・倫理的配慮までを記述する。	辻慶子
	授業	研究計画書を作成する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、研究計画書を再考し修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画書全体を記述してくる。	辻慶子
	授業	研究計画書を作成する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、研究計画書を再考し修正する	
20	事前学習 (予習)	研究計画書を再検討をして、助言を受ける準備をする	辻慶子
	授業	研究課題を解決するための研究方法としての妥当性を討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究計画書を修正する	
21	事前学習 (予習)	計画発表会に向けて関連資料を整理する	辻慶子
	授業	計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、計画発表会の資料を修正する	
22	事前学習 (予習)	計画発表会に向けて発表の準備をする	辻慶子
	授業	計画発表会のプレゼンテーションの練習を行う	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、計画発表会の資料や発表内容を修正する	
23	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて発表の準備をする	辻慶子
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
24	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	辻慶子
	授業	倫理審査委員会への申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、倫理審査委員会への申請書類を見直し修正する	

25	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再度確認し、不備がないよう整える	辻慶子
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請する準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査の書類を提出する	
26	事前学習 (予習)	研究計画を実施のプロセスを確認する	辻慶子
	授業	研究倫理審査の実際	
	事後学習 (復習)	倫理審査の結果より、課題を明確にし申請書類を修正する	
27	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認後より、研究計画を実施できる準備をする	辻慶子
	授業	研究計画に基づき、研究を実施するための具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	研究参加者となる可能性のある対象者への説明と同意を得られるように準備する	
28	事前学習 (予習)	研究協力施設、研究参加者の募集に向けた準備を進める	辻慶子
	授業	データを収集に関する検討	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、研究協力施設、研究参加者の募集について整理する	
29	事前学習 (予習)	研究計画を実施のプロセスを確認し、予備調査としてデータを収集する	辻慶子
	授業	予備調査としてデータを収集する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、データ収集方法における課題を明確化する。	
30	事前学習 (予習)	予備調査データを分析する。	辻慶子
	授業	予備調査としてデータの分析をする	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、データ分析方法における課題を明確化する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー：火曜日 15:00 - 17:00 研究室 (2721室)	

科目名	看護学特別研究 (看護教育学領域)				ナンバリング			
担当者	辻慶子							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に看護教育に関する研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的ものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	データを分析・解釈・記述する	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈を進める	
32	事前学習 (予習)	データを分析・解釈・記述する	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈を進める	
33	事前学習 (予習)	データを分析・解釈・記述する	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈を進める	
34	事前学習 (予習)	データを分析・解釈・記述する	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈を進める	
35	事前学習 (予習)	データを分析・解釈・記述する	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈を進める	
36	事前学習 (予習)	考察の構成を検討し、見出しを考える	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果より考察について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、看護教育への活用を念頭に考察の構成を再検討する	
37	事前学習 (予習)	考察を考える	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果より考察について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、考察を再検討する	

38	事前学習 (予習)	考察を考える	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果より考察について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、考察を再検討する	
39	事前学習 (予習)	考察を考える	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果より考察について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、考察を再検討する	
40	事前学習 (予習)	考察を考える	辻慶子
	授業	デ-タを分析・解釈した結果より考察について討議する	
	事後学習 (復習)	討議を踏まえ、考察を再検討する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けてプレゼンテーション用資料を整理する	辻慶子
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに、資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて、質疑応答の整理する	辻慶子
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに、研究中間発表会の資料を再検討する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	辻慶子
	授業	研究中間発表会のプレゼンテーションの練習を行う	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	辻慶子
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容をふまえて論文を再検討する	辻慶子
	授業	研究中間発表会で得た意見をもとに論文について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえて論文を再考する	
46	事前学習 (予習)	論文全体構成を検討し、データの分析結果を図表にまとめる	辻慶子
	授業	作成した図表について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ、図表を修正する	
47	事前学習 (予習)	論文全体構成を検討し、修正した図表を再考する	辻慶子
	授業	作成した図表について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ、図表を修正する	
48	事前学習 (予習)	論文作成のために章立てを考える	辻慶子
	授業	論文の章立てについて討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	論文全体構成を再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	辻慶子
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を中間発表会での指導・助言に基づき修士論文を再考する	
50	事前学習 (予習)	作成した修士論文を再考する	辻慶子
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を中間発表会での指導・助言に基づき修士論文を再考する	
51	事前学習 (予習)	作成した修士論文を再考する	辻慶子
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を中間発表会での指導・助言に基づき修士論文を再考する	
52	事前学習 (予習)	作成した修士論文を再考する	辻慶子
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を中間発表会での指導・助言に基づき修士論文を再考する	
53	事前学習 (予習)	抄録を作成する	辻慶子
	授業	抄録について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえて抄録を修正する	
54	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていること、および提出期限を確認する	辻慶子
	授業	修士論文について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ修士論文を修正する	

55	事前学習 (予習)	修正した修士論文を再考する	辻慶子
	授業	修士論文について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ修士論文を修正する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	辻慶子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) のプレゼンテーションの練習を行う	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、修士論文審査会 (一次審査) の資料や発表内容を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	辻慶子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) での指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) での指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	辻慶子
	授業	指導教員の指導・助言を得て、修士論文を修正する	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容に基づき全ての修正がなされているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	辻慶子
	授業	修士論文が作成規程に沿って書かれていることを確認し、期限内に提出できるよう準備する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	辻慶子
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言をふまえ論文を推敲し、完成される	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー：火曜日 15:00 - 17:00 研究室 (2721室)	

科目名	看護学特別研究 (看護教育学領域)				ナンバリング		
担当者	児玉裕美						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に看護教育に関する研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的ものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	
学修比率		10			20	50	10	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この科目の概要を理解する	
	授業	到達目標の達成に向けた学修計画を立案する	
	事後学習 (復習)	学修計画を確認し、円滑に計画を進めるための諸準備をする	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で感じた疑問や興味・関心をもった事象を記述する	
	授業	疑問や興味・関心をもった事象からリサーチエスチョンを絞る	
	事後学習 (復習)	討論内容をふまえ、リサーチエスチョンをまとめる	
3	事前学習 (予習)	研究課題を考える	
	授業	研究課題に関する文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	文献検索のキーワードをまとめる	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を調べてまとめる。キーワードから文献検索をする	
	授業	キーワードの定義、文献検索した結果をもとに、研究課題に関するキーワードを再考する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献を整理する	
5	事前学習 (予習)	キーワードから文献検索をする	
	授業	文献検索する	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	キーワードから文献検索をする	
	授業	文献検索をする	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	
	授業	指導教員及び参加者と文献のクリティークを行う	
	事後学習 (復習)	文献クリティークの結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	児玉裕美
	授業	指導教員及び参加者と文献のクリティークを行う	
	事後学習 (復習)	文献クリティークの結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究方法論の講義内容を反映させ、研究課題解決のための研究方法を考える	児玉裕美
	授業	研究課題を解決するための研究方法について討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究方法を再考する	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究方法論の講義内容を反映させ、研究課題解決のための研究方法を考える	児玉裕美
	授業	研究課題を解決するための研究方法について討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究方法を再考する	
11	事前学習 (予習)	文献の再検討の必要性を検討する	児玉裕美
	授業	文献を再検索し、文献検討する	
	事後学習 (復習)	文献検討した結果を整理し、さらに文献検討が必要かを考える	
12	事前学習 (予習)	文献検討した内容をふまえ、研究計画書の構成を考える	児玉裕美
	授業	研究計画書を作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画書を再考し修正する	
13	事前学習 (予習)	研究計画書を再検討をして、助言を受ける準備をする	児玉裕美
	授業	研究課題の背景、研究目的の妥当性を討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究計画書を修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書を再検討をして、助言を受ける準備をする	児玉裕美
	授業	研究課題の背景、研究目的の妥当性を討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究計画書を修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書を再検討をして、助言を受ける準備をする	児玉裕美
	授業	研究課題を解決するための研究方法としての妥当性を討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究計画書を修正する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書を再検討をして、助言を受ける準備をする	児玉裕美
	授業	研究課題を解決するための研究方法としての妥当性を討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をふまえ、研究計画書を修正する	
17	事前学習 (予習)	計画発表会に向けて関連資料を整理する	児玉裕美
	授業	計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	計画発表会に向けて発表の準備をする	児玉裕美
	授業	計画発表会のプレゼンテーションの練習を行う	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて発表の準備をする	児玉裕美
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	児玉裕美
	授業	倫理審査委員会への申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会への申請書類を見直し修正する	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再度確認し、不備がないよう整える	児玉裕美
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請する準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査の書類を提出する	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認後より、研究計画を実施できる準備をする	児玉裕美
	授業	研究計画に基づき、研究を実施するための具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をふまえ、研究計画が実行可能かを再検討する	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施のプロセスを確認する	児玉裕美
	授業	データを収集する	
	事後学習 (復習)	収集したデータを整理する	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	児玉裕美
	授業	データを収集する	
	事後学習 (復習)	収集したデータを整理する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	児玉裕美
	授業	データを収集する	
	事後学習 (復習)	収集したデータを整理する	
26	事前学習 (予習)	データの分析・解釈をする	児玉裕美
	授業	データを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
27	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	データを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
28	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	データを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
29	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	データを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
30	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	データを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー：火曜日 15:00-17:00 研究室 (2711室)	

科目名	看護学特別研究 (看護教育学領域)				ナンバリング			
担当者	児玉裕美							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に看護教育に関する研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的ものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			20	50	10	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
32	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
33	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
34	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
35	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
36	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
37	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	

38	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
39	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
40	事前学習 (予習)	データの分析・解釈を再考する	児玉裕美
	授業	デ-タを分析・解釈した結果について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をデータ分析・解釈に反映させる	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	児玉裕美
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	児玉裕美
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに、研究中間発表会の資料を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	児玉裕美
	授業	研究中間発表会のプレゼンテーションの練習を行う	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	児玉裕美
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容をふまえて論文を再検討する	児玉裕美
	授業	研究中間発表会で得た意見をもとに論文について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえて論文を再考する	
46	事前学習 (予習)	データの分析結果を図表にまとめる	児玉裕美
	授業	作成した図表について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ、図表を修正する	
47	事前学習 (予習)	修正した図表を再考する	児玉裕美
	授業	作成した図表について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ、図表を修正する	
48	事前学習 (予習)	論文作成のために章立てを考える	児玉裕美
	授業	論文の章立てについて討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	児玉裕美
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を再考する	
50	事前学習 (予習)	作成した修士論文を再考する	児玉裕美
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を再考する	
51	事前学習 (予習)	作成した修士論文を再考する	児玉裕美
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を再考する	
52	事前学習 (予習)	作成した修士論文を再考する	児玉裕美
	授業	修士論文を作成する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を再考する	
53	事前学習 (予習)	抄録を作成する	児玉裕美
	授業	抄録について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえて抄録を修正する	

54	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていること、および提出期限を確認する	児玉裕美
	授業	修士論文について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ修士論文を修正する	
55	事前学習 (予習)	修正した修士論文を再考する	児玉裕美
	授業	修士論文について討議する	
	事後学習 (復習)	討議した内容をふまえ修士論文を修正する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	児玉裕美
	授業	修士論文審査会 (一次審査) のプレゼンテーションの練習を行う	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、修士論文審査会 (一次審査) の資料や発表内容を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	児玉裕美
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) での指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) での指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	児玉裕美
	授業	指導教員の指導・助言を得て、修士論文を修正する	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容に基づき全ての修正がなされているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	児玉裕美
	授業	修士論文が作成規程に沿って書かれていることを確認し、期限内に提出できるよう準備する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	児玉裕美
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言をふまえ修士論文を校正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー：火曜日 15:00-17:00 研究室 (2711室)	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング		
担当者	正野逸子						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (特に在宅看護関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)地域包括ケア分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	地域包括ケア分野のうち、在宅看護に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キ-ワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティックの準備をする	
	授業	文献クリティックを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティック結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	正野逸子
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	正野逸子
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	正野逸子
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	正野逸子
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	正野逸子
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	正野逸子
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	正野逸子
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	正野逸子
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	正野逸子
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	正野逸子
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	正野逸子
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	正野逸子
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	正野逸子
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	正野逸子
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	正野逸子
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	正野逸子
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 木曜 15～19時2906室、	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバ'リンク'		
担当者	正野逸子						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (特に在宅看護関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) 研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2) 倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3) 研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4) 地域包括ケア分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5) 修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6) プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働の方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	正野逸子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	正野逸子
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	正野逸子
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	正野逸子
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	正野逸子
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	正野逸子
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	正野逸子
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	正野逸子
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	正野逸子
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	正野逸子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	正野逸子
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	正野逸子
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	正野逸子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	正野逸子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	正野逸子
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	正野逸子
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	正野逸子
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 木曜 15～19時2906室	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング			
担当者	白石 裕子・齋藤 嘉宏							
開講年次	2	開講期	t通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (特に精神看護関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									0
小テスト等									0
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			0
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	地域包括ケア分野のうち、精神看護に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キ-ワ-ドの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 各指導教員に確認する。	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバ'リンク'			
担当者	白石 裕子・齋藤 嘉宏							
開講年次	2	開講期	t通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (特に精神看護関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1		D2		D3		D4	
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法
学修比率		10			10	50	20	10
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○
授業態度					○	◎		
受講者の発表		○				◎	○	○
授業への参加度						○	○	○
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	白石裕子 齋藤嘉宏
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 白石2707室で行う。予約はメールでアポイントを取ること。	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング			
担当者	馬場みちえ							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (地域・在宅看護学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	地域包括ケア分野のうち、地域・在宅看護学に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キ-ワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	馬場みちえ
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	馬場みちえ
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	馬場みちえ
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	馬場みちえ
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	馬場みちえ
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	馬場みちえ
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	馬場みちえ
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	馬場みちえ
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	馬場みちえ
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	馬場みちえ
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	馬場みちえ
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	馬場みちえ
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	馬場みちえ
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	馬場みちえ
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	馬場みちえ
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	馬場みちえ
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 木曜 15～19時2906室。	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング		
担当者	馬場みちえ						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (地域・在宅看護学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)看護教育分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験 小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	馬場みちえ
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	馬場みちえ
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	馬場みちえ
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	馬場みちえ
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	馬場みちえ
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	馬場みちえ
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	馬場みちえ
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	馬場みちえ
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	馬場みちえ
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	馬場みちえ
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	馬場みちえ
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	馬場みちえ
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	馬場みちえ
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	馬場みちえ
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	馬場みちえ
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	馬場みちえ
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	馬場みちえ
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 木曜 15～19時2906室	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング		
担当者	久木原博子						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、地域包括ケアに関する研究課題 (特に高齢者関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティック・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)地域包括ケア分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	地域包括ケア分野のうち、高齢者看護に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティックの準備をする	
	授業	文献クリティックを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティック結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	久木原博子
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	久木原博子
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	久木原博子
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	久木原博子
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	久木原博子
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	久木原博子
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の方法の作成を提出資料として準備する	久木原博子
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の方法の作成を提出資料として準備する	久木原博子
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	久木原博子
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	久木原博子
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	久木原博子
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	久木原博子
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	久木原博子
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	久木原博子
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	久木原博子
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	久木原博子
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 ・オフィスアワー 水曜 13～15時 久木原研究室	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング			
担当者	久木原博子							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、地域包括ケアに関する研究課題 (特に高齢者看護関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) 研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2) 倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3) 研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4) 地域包括ケア分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5) 修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6) プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働の方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	久木原博子
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	久木原博子
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	久木原博子
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	久木原博子
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	久木原博子
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	久木原博子
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	久木原博子
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	久木原博子
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	久木原博子
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	久木原博子
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	久木原博子
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	久木原博子
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	久木原博子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	久木原博子
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	久木原博子
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	久木原博子
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	久木原博子
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 水曜 13～15時 久木原研究室	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング		
担当者	菊原美緒						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、地域包括ケアに関する研究課題 (特に 母子・家族関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)地域包括ケア分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	地域包括ケア分野のうち、 母子と家族看護 に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キ-ワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティックの準備をする	
	授業	文献クリティックを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティック結果を整理し、サマリーを作成する	

8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	菊原美緒
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	菊原美緒
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	菊原美緒
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	菊原美緒
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	菊原美緒
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	菊原美緒
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の方法の作成を提出資料として準備する	菊原美緒
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の方法の作成を提出資料として準備する	菊原美緒
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	菊原美緒
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	菊原美緒
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	菊原美緒
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	菊原美緒
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	菊原美緒
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	菊原美緒
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	菊原美緒
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	

25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	デ-タの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	菊原美緒
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 ・オフィスアワー 火曜 13～15時 菊原研究室	

科目名	看護学特別研究 (地域包括ケア領域)				ナンバリング		
担当者	菊原美緒						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	看護学教育・人材育成コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、特に地域包括ケアに関する研究課題 (特に母子・家族関連) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) 研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2) 倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3) 研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4) 地域包括ケア分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5) 修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6) プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基づ く 協働の方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	菊原美緒
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	菊原美緒
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	菊原美緒
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	菊原美緒
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	菊原美緒
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	菊原美緒
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	菊原美緒
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	菊原美緒
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	菊原美緒
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	菊原美緒
	授業	フィールドワーク (論文作成)	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	菊原美緒
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	

55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	菊原美緒
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	菊原美緒
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	菊原美緒
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	菊原美緒
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	菊原美緒
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	菊原美緒
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 火曜 13～15時 菊原研究室	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
高度実践看護特論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	増山 純二 富永 隆治 後小路 隆

授 業 概 要					
看護の基本となる全人的看護を基盤とした高度実践看護師の役割を学び、特定行為研修制度等の法的制度についても理解した上で、諸外国のナースプラクティショナーの役割と比較し、本国における高度実践看護師としての役割を明確にする。					
到 達 目 標					
1. 高度実践看護の歴史的変遷と定義、高度実践看護モデルおよび、コンピテンシーについて説明できる。 2. 高度実践看護師の役割について説明できる。 3. 高度実践看護師の活動をイメージすることができる。 4. 高度実践看護師の役割について、シミュレーションを行いグループ討議ができる。 5. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、改良することができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	高度実践看護師①	高度実践看護の原点、診療看護師（NP）に求められる看護実践 高度実践看護師の概念化、高度実践看護モデル、高度実践看護の定義	増山 純二
2	高度実践看護師②	高度実践看護師の歴史的変遷と役割	増山 純二
3	診療看護師	診療看護師制度、特定行為研修制度、診療看護師のコンピテンシー、特定行為研修制度（関連法規含む）、特定行為にかかる看護師の倫理	増山 純二
4	診療看護師の役割と実際	診療看護師の役割/責任/実際の活動	後小路 隆
5	ナースプラクティショナー①	諸外国ナースプラクティショナーにおける裁量範囲	増山 純二
6	ナースプラクティショナー②	ナースプラクティショナーと診療看護師	富永 隆治
7	看護師特定行為の手順書①	手順書の位置づけ 演習：手順書の作成	増山 純二 後小路 隆
8	看護師特定行為の手順書②	演習：手順書の評価 演習：手順書の改良	増山 純二 後小路 隆

評 価	レポート 100 点
教科書	
参考図書等	Mary Fran Tracy (著), Eileen T.O’Grady (著), 中村美鈴 (著)江川幸治 (著)：高度実践看護-統合的アプローチ-
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
臨床推論	講義	2 単位 (45 時間)	1 年前期	増山 純二、後小路 隆

授 業 概 要				
病態を推理する診療のプロセスとして症候診断の基本的な考え方を学ぶ。医療面接についての知識およびコミュニケーション技法を習得した上で、知識を統合し論理的に推論する能力を身につける。 臨床検査を中心とする一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学習し、臨床の場に即した検査結果と病態との関連については体系的に学習していく。また、客観的な疫学的観察や統計学による治療結果の根拠を明確にし、臨床疫学の理論および手法論を修得する。				
到 達 目 標				
1. 多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践するための臨床推論および医療面接の知識と実践能力を身につける。 2. 多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントし、必要な治療を理解してケアを導くための基本的な能力を身につける。 3. 患者の診療に必要な情報源(医療面接、各種臨床検査、画像検査、臨床疫学など)を理解し、患者の意向や生活の質に配慮しつつ、患者の病態に基づいたケアができる。				
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習				
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする				
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	臨床推論の基本	(e-learning) 診療のプロセス (34:08) (e-learning) 臨床推論～診断を中心に～ (51:37) (e-learning) 医療面接の理論 (29:49)	増山純二 (e-learning)
2	尿量減少 胸痛	(e-learning) 尿異常 (47:26) (e-learning) 胸痛 (22:46)	増山純二 (e-learning)
3	呼吸困難・発熱	(e-learning) 呼吸困難 (43:13) (e-learning) 発熱 (50:14)	増山純二 (e-learning)
4	意識障害	(e-learning) 意識障害 (1:10:01)	増山純二 (e-learning)
5	心電図	(e-learning) 心電図 1～心電図の原理について～ (30:12) (e-learning) 心電図 2～心電図判読順序～ (23:46) (e-learning) 心電図 3～急性冠症候群診断～ (28:26) (e-learning) 心電図 4～不整脈診断～ (44:45)	増山純二 (e-learning)
6	検査の読み方考え方 病理検査	(e-learning) 検査値の読み方考え方 (50:02) (e-learning) 病理検査 (44:28)	増山純二 (e-learning)
7	感染症①	(e-learning) 感染症の臨床推論 1～感染症の診断～ (43:37)、感染症の臨床推論 2～感染症の治療と症例の検討～ (41:16)	増山純二 (e-learning)
8	感染症②	(e-learning) 症例から学ぶ感染症診療の考え方 (53:57)	増山純二 (e-learning)
9	呼吸機能検査	(e-learning) 呼吸機能検査 (55:15)	増山純二 (e-learning)
10	放射線科と看護 造影剤副作用	(e-learning) 放射線科と看護 (43:08) (e-learning) 造影剤副作用～アナフィラキシーを中心に～ (47:20)	増山純二 (e-learning)
11	X 線	(e-learning) X 線① X 線検査の概要 (56:59) (e-learning) X 線② ポータブル X 線検査 (43:09)	増山純二 (e-learning)
12	CT 検査と MRI 検査	(e-learning) CT の基礎と読影 (57:32) (e-learning) MRI (30:00)	増山純二 (e-learning)
13	超音波検査	(e-learning) 超音波検査①～超音波診断の基礎～ (52:56) (e-learning) 超音波検査②～超音波診断 各論～ (49:20)	増山純二 (e-learning)
14	核医学検査 IVR とその他の画像検査	(e-learning) 核医学検査 (59:49) (e-learning) IVR とその他の画像検査 (27:28)	増山純二 (e-learning)
15	心電図①	演習：心電図①	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
16	心電図②	演習：心電図②	後小路 隆
17	画像診断	演習：画像診断	後小路 隆
18	超音波①	実習:超音波①	後小路 隆
19	超音波②	実習:超音波②	後小路 隆
20	医療面接①	演習：医療面接	増山純二 後小路 隆
21	医療面接②	演習：医療面接	増山純二 後小路 隆
22	頭痛	臨床推論の理論と演習①（頭痛）	増山純二 後小路 隆
23	胸痛	演習：臨床推論の理論と演習②（胸痛）	増山純二 後小路 隆
24	腹痛	演習：臨床推論の理論と演習③（腹痛）	増山純二 後小路 隆
25	吐血・下血：循環不全	演習：臨床推論の理論と演習④（吐血・下血：循環不全）	増山純二 後小路 隆
26	呼吸困難・呼吸不全	演習：臨床推論の理論と演習⑤（呼吸困難・呼吸不全）	増山純二 後小路 隆
27	発熱	演習：臨床推論の理論と演習⑥（発熱）	増山純二 後小路 隆
28	一過性意識消失・意識障害	演習：臨床推論の理論と演習⑦（一過性意識消失・意識障害）	増山純二 後小路 隆
29	腎機能障害・腎不全	演習：臨床推論の理論と演習⑧（腎機能障害・腎不全）	増山純二 後小路 隆
30	終了試験	科目終了試験	増山純二 後小路 隆

評 価	テスト 100 点
教科書	
参考図書等	・ 亀谷 学（翻訳），大橋 博樹（翻訳），喜瀬 守人（翻訳），セイントとフランシスの内科診療ガイド 第 2 版，メディカル・サイエンス・インターナショナル,2005 ・ 前野 哲博（著），症状対応 ベスト・プラクティス：デキる医療者になるための，学研メディカル秀潤社,2015 ・ 大西 弘高（編集），The 臨床推論 研修医よ，診断のプロをめざそう！，南山堂.2012 ・ 徳田安春（著，編集），ジェネラリスト診療が上手になる本（「ジェネラリスト・マスターズ」シリーズ 4），カイ書林,2011 ・ 松原知康（著），吉野俊平（著），動きながら考える！内科救急診療のロジック，南山堂,2016 ・ 亀田 徹（編集），救急超音波テキスト － point of care としての実践的活用法，中外医学社,2018
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
病態生理学特論	講義	2 単位 (45 時間)	1 年前期	山口浩雄、増山純二、後小路 隆

授 業 概 要				
高度実践看護師には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められる。本科目では高度実践看護師に必要な科学的根拠に基づく医学的な判断と問題解決能力を身につけるために、診断を確定し治療を実践するための基礎知識を修得する。具体的には、高度実践看護師の実践領域で遭遇する主要な疾患の病態生理を振り返り、原因・症状と経過、診断・治療の原則を学ぶ。高度実践看護師としてエビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断できる基礎的能力のための知識・技術・態度を修得する。				
到 達 目 標				
1. 人体の調整統合機能変化を判断するための基本的な知識を説明できる。 2. 生命維持に直結した人体の構造と機能について説明できる。 3. 病態や症候を人体の構造と機能の視点から説明できる。 4. 看護学の視点を踏まえた人体の構造と機能について討議ができる。				
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習				
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。				
事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする				
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	呼吸器①	(e-learning) 呼吸器疾患の病理 31:44 (e-learning) ガス交換と酸素運搬 56:20	山口浩雄 (e-learning)
2	呼吸器②	(e-learning) 血液ガス分析総論 56:04 (e-learning) 血液ガス分析実践 27:47	山口浩雄 (e-learning)
3	消化器①	(e-learning) 口腔・咽頭と食道 18:59 (e-learning) 胃・十二指腸 42:31	山口浩雄 (e-learning)
4	消化器②	(e-learning) 上部消化管の検査 (48:51) (e-learning) 下部消化管の検査 (47:33)	山口浩雄 (e-learning)
5	腎・泌尿器①	(e-learning) 腎臓の機能～濾過・再吸収・分泌～ (50:55) 補助教材分 (e-learning) 尿検査 (27:59)	山口浩雄 (e-learning)
6	腎・泌尿器②	(e-learning) 腎生検～適応から病理まで～ (46:27) (e-learning) 体内の水分と輸液 (45:12)	山口浩雄 (e-learning)
7	腎・泌尿器③	(e-learning) 透析の基礎～透析の原理、処方と管理～ (49:55)	山口浩雄 (e-learning)
8	脳神経・脊髄	(e-learning) 脊髄神経系 (33:15) 補助教材 (e-learning) 神経学的所見 (50:45) 補助教材	山口浩雄 (e-learning)
9	感覚器	(e-learning) 聴覚 (45:50) (e-learning) 眼科 (20:14)	山口浩雄 (e-learning)
10	免疫系	(e-learning) 免疫学の基本 (48:10) (e-learning) 赤血球、白血球、血小板 (49:43)	山口浩雄 (e-learning)
11	微生物学①	(e-learning) 病態微生物 (細菌・真菌) ～ミクロの世界から考える感染症～ (1:01:46)	山口浩雄 (e-learning)
12	微生物学②	(e-learning) ウイルス感染症 (54:56)	
13	腫瘍学	(e-learning) 腫瘍の病理学 (1:00:29) (e-learning) 創傷治癒 (27:14)	山口浩雄 (e-learning)
14	血液ガス分析	演習:血液ガス分析 (症例検討)	後小路 隆 増山純二
15	終了試験	科目終了試験	山口浩雄 後小路 隆

評 価	テスト 100 点
教科書	
参考図書等	

留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
疾病特論	講義	2 単位 (45 時間)	1 年前期	山口 浩雄、増山 純二、後小路 隆

授 業 概 要				
高度実践看護師には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められる。本科目では診療の実践領域で遭遇する頻度の高い疾患について、これまでの看護基礎教育・看護実践経験での疾患の病態生理の理解を踏まえて、診断を確定し治療を実践するための基礎知識を修得する。具体的には、診療の実践領域で遭遇する主要な疾患の病態生理を振り返り、診断・治療を学ぶ。また、治療管理に関するシミュレーションを実施し、高度実践看護師としての診断・治療管理に関する基礎的能力のための知識・技術・態度を修得する。				
到 達 目 標				
1. 高度実践看護師の実践領域で頻度の高い疾患の病態生理を説明できる。 2. 高度実践看護師の実践領域で頻度の高い疾患の診断基準を説明できる。 3. 高度実践看護師の実践領域で頻度の高い疾患の標準的な治療を説明できる。 4. シミュレーションを通して、疾患の治療管理とケアを説明できる。 5. 看護学の視点を踏まえた治療管理について討議ができる				
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習				
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。				
事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする				
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	循環器疾患①	(e-learning) 循環器疾患① 虚血性心疾患 (25:42) 心臓弁膜症～大動脈弁狭窄症・僧帽弁逆流症～ (23:24) 不整脈 (23:07)	山口 浩雄 (e-learning)
2	循環器疾患②	(e-learning) 循環器疾患② 高血圧 (35:16) 急性心不全 (23:56) 動画再生時間 59:12	山口 浩雄 (e-learning)
3	呼吸器疾患①	(e-learning) 呼吸器疾患① 気管支喘息・COPD (45:23) 気胸 (25:16)	山口 浩雄 (e-learning)
4	呼吸器疾患②	(e-learning) 呼吸器疾患② 肺炎 (47:04) 肺がん、胸膜・縦隔疾患 (23:56)	山口 浩雄 (e-learning)
5	呼吸器疾患③	(e-learning) 呼吸器疾患② 酸素療法、人工呼吸法、人工気道 (41:59) 深部静脈血栓症(DVT)、肺血栓塞栓症 (PE) (38:41)	山口 浩雄 (e-learning)
6	消化器疾患①	(e-learning) 消化器疾患① 黄疸 (42:52) 吐血・嘔吐 (35:56)	山口 浩雄 (e-learning)
7	消化器疾患②	(e-learning) 消化器疾患② 肝疾患 (41:27) 肝性脳症・肝性昏睡 (22:46) 急性膵炎 (22:38)	山口 浩雄 (e-learning)
8	消化器疾患③	(e-learning) 消化器疾患③ イレウス (44:03) 胆管炎・腹腔内感染症 (25:59)	山口 浩雄 (e-learning)
9	腎疾患	(e-learning) 腎疾患 急性腎障害 (AKI) (36:08) 慢性腎臓病 (CKD) (50:06)	山口 浩雄 (e-learning)
10	腫瘍学①	(e-learning) 腫瘍学① 悪性腫瘍総論 (53:20) 看取り (53:41)	山口 浩雄 (e-learning)

回数	単 元	内 容	担当教員
11	中枢神経疾患	(e-learning) 中枢神経疾患 頭痛 (36:31) 脳梗塞 (19:22) 脳出血 (脳内出血、くも膜下出血、硬膜下出血) (27:42)	山口浩雄 (e-learning)
12	内分泌疾患①	(e-learning) 内分泌疾患① 糖尿病 (55:59) カリウム異常 (18:09) 高カルシウム血症のアプローチ (31:44)	山口浩雄 (e-learning)
13	内分泌疾患②	(e-learning) 内分泌疾患② (e-learning) 低 Na 血症、高 Na 血症 (26:02) 下垂体-甲状腺-副腎 (36:16)	山口浩雄 (e-learning)
14	膠原病疾患	(e-learning) 膠原病疾患 関節痛 (45:33) 関節リウマチ (29:56)	山口浩雄 (e-learning)
15	血液疾患	(e-learning) 血液疾患 貧血の初期評価 (31:33) 悪性リンパ腫、急性白血病 (31:11)	山口浩雄 (e-learning)
16	小児疾患	(e-learning) 小児疾患 小児一般疾患概論 (46:27)	山口浩雄 (e-learning)
17	産婦人科疾患	(e-learning) 産婦人科疾患 産科疾患 (34:03) 婦人科疾患 (48:39)	山口浩雄 (e-learning)
18	精神科疾患①	(e-learning) 精神科疾患 (高齢者疾患含む) ① 認知症 (23:06) 気分障害 (うつ病、双極性障害) (50:02)	山口浩雄 (e-learning)
19	精神科疾患②	(e-learning) 精神科疾患 (高齢者疾患含む) ② (e-learning) せん妄 (36:33) 統合失調症 (32:46) 高齢者の失禁 (26:41) B 課程用教材	山口浩雄 (e-learning)
20	整形外科疾患	(e-learning) 整形外科疾患 運動器疾患 (59:41) 腰痛 (20:07) 講義動画時間 79:48	山口浩雄 (e-learning)
21	感覚器①	(e-learning) 感覚器① 眼科疾患 1～眼の解剖と前眼部疾患～ (43:43) 眼科疾患 2～後眼部疾患～ (47:19)	山口浩雄 (e-learning)
22	感覚器②	(e-learning) 感覚器② 耳鼻科外傷 (43:11) 褥瘡管理 (52:09)	山口浩雄 (e-learning)
23	救急疾患①	(e-learning) 救急疾患① 頭部外傷 (24:01) 頸部外傷 (24:48) 胸部外傷 (19:26) Refeeding 症候群 (35:37)	山口浩雄 (e-learning)
24	救急疾患②	(e-learning) 救急疾患② 中毒 (18:14) 薬物中毒 (15:30) 偶発性低体温症 (24:32) 熱中症 (15:49) 熱傷 (19:37)	山口浩雄 (e-learning)
25	プライマリーケア①	演習：外来症例シミュレーション	光根 美保
26	プライマリーケア②	演習：在宅症例シミュレーション	光根 美保
27	クリティカルケア①	演習：院内症例シミュレーション	蒲池 浩文
28	クリティカルケア②	演習：院内症例シミュレーション	有田 武史
29	OSCE	OSCE 医療面接・身体審査・臨床推論	増山 純二 後小路 隆
30	終了試験	科目終了試験	山口 浩雄 後小路 隆

評 価	テスト 80 点 OSCE 20 点
-----	--------------------

教科書	
参考図書等	岡庭豊他編：「イヤ－ノート 2023 内科・外科編」メディックメディア 矢崎義男編：「内科学Ⅰ～Ⅴ第12版」朝倉書店 永井良三総編：「今日の診断指針 デスク判 第8版」医学書院
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
フィジカルアセスメント演習	講義	2 単位 (45 時間)	1 年前期	増山純二、後小路 隆

授 業 概 要					
患者の健康状態を的確に判断するために必要なフィジカルアセスメントの知識と方法を学ぶ。高度な看護実践を行うために、必要な情報を収集する身体面の観察技術を習得し、観察した結果から対象の健康状態を評価するまでの過程を学習する。 また、発達段階における身体的側面の特徴を踏まえ迅速かつ的確なフィジカルアセスメントを行い、救急医療や在宅医療などの多様な場面など、状況に応じた身体診察技術を修得する。					
到 達 目 標					
1. 高度な看護実践を行うための身体診察（問診、身体所見）を習得することができる。 2. 救急や在宅など多様な環境の中で状況を把握し、小児から高齢者の身体的特徴を踏まえたフィジカルアセスメントができる。 3. フィジカルアセスメントを活用し、患者に関する適切な情報収集・分析ができる。 4. 病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測性を持った行動ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	身体診察基本手技 全身状態とバイタルサイン	(e-learning) 身体診察基本手技 (50:37) (e-learning) 全身状態とバイタルサイン (34:58)	増山純二 (e-learning)
2	頭頸部・腹部	(e-learning) HEENT (54:59) (e-learning) 腹部 (42:35)	増山純二 (e-learning)
3	循環器	(e-learning) 循環器 (1:52:49)	増山純二 (e-learning)
4	呼吸器・筋骨格	(e-learning) 呼吸器 (1:14:38) (e-learning) 筋骨格 (25:36)	増山純二 (e-learning)
5	神経系	(e-learning) 高齢者 (50:53) (e-learning) 神経系 (30:31)	増山純二 (e-learning)
6	腎臓/泌尿器 乳房・甲状腺	(e-learning) 腎臓/泌尿器 (44:48) (e-learning) 乳房・甲状腺 (31:00)	増山純二 (e-learning)
7	産婦人科	(e-learning) 産婦人科① (50:12) 産婦人科② (37:07)	増山純二 (e-learning)
8	小児	(e-learning) 小児① (46:53) 小児② (48:02)	増山純二 (e-learning)
9	皮膚とリンパ節 外傷初期診療 (JATEC)	(e-learning) 皮膚とリンパ節 (29:57) (e-learning) 外傷初期診療 (JATEC) (39:19)	増山純二 (e-learning)
10	在宅医療	(e-learning) 在宅医療① (57:28) 在宅医療② (57:29)	増山純二 (e-learning)
11	身体診察基本手技①	演習:身体診察基本手技①	増山純二 後小路 隆 外部講師
12	身体診察基本手技②	実習：身体診察基本手技②	増山純二 後小路 隆 外部講師
13	フィジカルアセスメント総論	実習：フィジカルアセスメント総論 (事前学習動画 12:52)	増山純二 後小路 隆 外部講師
14	呼吸の診察	実習:呼吸の診察 (事前学習動画 18:33)	増山純二 後小路 隆 外部講師
15	心音の診察	実習:心音の診察 (事前学習動画 14:40)	増山純二 後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
			外部講師
16	腹部の診察	実習:腹部の診察（事前学習動画 44:19）	増山純二 後小路 隆 外部講師
17	整形外科診療①	脊椎①	高橋 雄一
18	整形外科診療②	脊椎②	高橋 雄一
19	整形外科診療③	上肢の診察	岡崎 大紀
20	整形外科診療④	下肢の診察	古江 直也
21	整形外科診療⑤	整形外科疾患の症例	力丸 悠
22	腎・泌尿器の診察①	演習:腎・泌尿器の診察 :動画 4:34→レポート提出（症例）60 分相当	増山純二 後小路 隆
23	腎・泌尿器の診察②	実習:腎・泌尿器の診察（事前学習動画 4:35）	増山純二 後小路 隆
24	神経系の診察①	演習:神経系の診察動画 14:43→レポート提出（症例）60 分相当	増山純二 後小路 隆
25	リンパ節・皮膚の診察	実習:リンパ節・皮膚の診察（事前学習動画 リンパ節の診察 17:04・皮膚の診察 17:05）	増山純二 後小路 隆
26	神経系の診察②	実習:神経系の診察（事前学習動画 14:43）	増山純二 後小路 隆
27	認知症疑いの診察①	演習:認知症疑いの診察:12:31→レポート提出（症例）60 分相当	増山純二 後小路 隆
28	認知症疑いの診察②	実習:認知症疑いの診察（事前学習動画 12:31）	増山純二 後小路 隆
29	全身観察	実習:通しの全身診察の型（事前学習動画 32:14）	増山純二 後小路 隆
30	終了試験	科目終了試験	増山純二 後小路 隆

評 価	テスト 100 点
教科書	
参考図書等	1) 古谷伸之,診察と手技がみえる本第 2 版,メディックメディア,2007 2) 医療情報科学研究所 ,診察と手技がみえる (vol.2),メディックメディア,2010 3)マーク・ヘンダーソン (著), ローレンス・ティアニー (著), 聞く技術 答えは患者の中にある 第 2 版,日経 BP,2013
留意事項	
オフィスアワー等	

科目名	看護学特別研究 (実践看護学)				ナンバリング		
担当者	田中裕二						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、実践看護学の研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。臨地実践を通して得られた研究課題に応じて科学的に分析し、臨地実践の質向上を研究的に追究できる基礎的能力の修得をめざす。具体的には、医療・看護に関する臨地実践の現象から研究課題を明確にし、研究方法を選択し、研究計画作成過程から実施し修士論文を作成する。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)臨地実践の現象から得られた研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方) を行い、研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)実践看護学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生の研究課題に沿って、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	○	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				○	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他									
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	田中裕二
	授業	演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	田中裕二
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	田中裕二
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	田中裕二
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	田中裕二
	授業	文献検索する (質的研究、主には事例研究等)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	田中裕二
	授業	文献検索する (質的研究、主には事例研究等)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	田中裕二
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	田中裕二
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	田中裕二
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	田中裕二
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	田中裕二
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	田中裕二
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	田中裕二
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	田中裕二
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	田中裕二
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	田中裕二
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	田中裕二
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	田中裕二
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	田中裕二
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	田中裕二
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	田中裕二
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床でのデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	田中裕二
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性があ る。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	看護学特別研究 (実践看護学)				ナンバリング		
担当者	田中裕二						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、実践看護学の研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。臨地実践を通して得られた研究課題に応じて科学的に分析し、臨地実践の質向上を研究的に追究できる基礎的能力の修得をめざす。具体的には、医療・看護に関する臨地実践の現象から研究課題を明確にし、研究方法を選択し、研究計画作成過程から実施し修士論文を作成する。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)臨地実践の現象から得られた研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方) を行い、研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)実践看護学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生の研究課題に沿って、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	○	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				○	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	田中裕二
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中裕二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中裕二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	田中裕二
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	田中裕二
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	田中裕二
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	田中裕二
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	田中裕二
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	田中裕二
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	田中裕二
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	田中裕二
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	田中裕二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中裕二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中裕二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中裕二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中裕二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	田中裕二
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	田中裕二
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	田中裕二
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	田中裕二
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	田中裕二
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	田中裕二
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	田中裕二
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	看護学特別研究 (実践看護学)				ナンバリング		
担当者	富永隆治						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、実践看護学の研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。臨地実践を通して得られた研究課題に応じて科学的に分析し、臨地実践の質向上を研究的に追究できる基礎的能力の修得をめざす。具体的には、医療・看護に関する臨地実践の現象から研究課題を明確にし、研究方法を選択し、研究計画作成過程から実施し修士論文を作成する。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)臨地実践の現象から得られた研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方) を行い、研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)実践看護学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生の研究課題に沿って、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1	D2		D3		D4			
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	○	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				○	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他									
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	富永隆治
	授業	演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	富永隆治
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	富永隆治
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	富永隆治
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	富永隆治
	授業	文献検索する (質的研究、主には事例研究等)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	富永隆治
	授業	文献検索する (質的研究、主には事例研究等)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	富永隆治
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	富永隆治
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	富永隆治
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	富永隆治
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	富永隆治
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	富永隆治
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	富永隆治
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	富永隆治
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	富永隆治
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	富永隆治
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	富永隆治
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	富永隆治
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	富永隆治
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	富永隆治
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	富永隆治
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床でのデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	富永隆治
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性があ る。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	看護学特別研究 (実践看護学)				ナンバリング		
担当者	富永隆治						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、実践看護学の研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。臨地実践を通して得られた研究課題に応じて科学的に分析し、臨地実践の質向上を研究的に追究できる基礎的能力の修得をめざす。具体的には、医療・看護に関する臨地実践の現象から研究課題を明確にし、研究方法を選択し、研究計画作成過程から実施し修士論文を作成する。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)臨地実践の現象から得られた研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方) を行い、研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)実践看護学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生の研究課題に沿って、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	○	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				○	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	富永隆治
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	富永隆治
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	富永隆治
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	富永隆治
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	富永隆治
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	富永隆治
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	富永隆治
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	富永隆治
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	富永隆治
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	富永隆治
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	富永隆治
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	富永隆治
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	富永隆治
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	富永隆治
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	富永隆治
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	富永隆治
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	富永隆治
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	富永隆治
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	富永隆治
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	富永隆治
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	富永隆治
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	富永隆治
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	富永隆治
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	看護学特別研究 (実践看護学)				ナンバリング			
担当者	増山純二							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	実践看護学コース				分類	コース専門科目		
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、実践看護学の研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。臨地実践を通して得られた研究課題に応じて科学的に分析し、臨地実践の質向上を研究的に追究できる基礎的能力の修得をめざす。具体的には、医療・看護に関する臨地実践の現象から研究課題を明確にし、研究方法を選択し、研究計画作成過程から実施し修士論文を作成する。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)臨地実践の現象から得られた研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方) を行い、研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)実践看護学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生の研究課題に沿って、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1	D2		D3		D4			
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験 小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	○	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				○	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他									
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	増山純二
	授業	演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	増山純二
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	増山純二
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	増山純二
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	増山純二
	授業	文献検索する (質的研究、主には事例研究等)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	増山純二
	授業	文献検索する (質的研究、主には事例研究等)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	増山純二
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	増山純二
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	増山純二
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	増山純二
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	増山純二
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	増山純二
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	増山純二
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	増山純二
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	増山純二
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	増山純二
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	増山純二
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	増山純二
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	増山純二
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	増山純二
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	増山純二
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床でのデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	増山純二
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	看護学特別研究 (実践看護学)				ナンバリング		
担当者	増山純二						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、看護学分野を基軸に、実践看護学の研究課題に焦点を絞り、研究方法を選択する。臨地実践を通して得られた研究課題に応じて科学的に分析し、臨地実践の質向上を研究的に追究できる基礎的能力の修得をめざす。具体的には、医療・看護に関する臨地実践の現象から研究課題を明確にし、研究方法を選択し、研究計画作成過程から実施し修士論文を作成する。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)臨地実践の現象から得られた研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方) を行い、研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)実践看護学分野の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生の研究課題に沿って、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	○	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				○	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	増山純二
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	増山純二
	授業	フィールドワーク (臨床におけるデータ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	増山純二
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	増山純二
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	増山純二
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	増山純二
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	増山純二
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	増山純二
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	増山純二
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	増山純二
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	増山純二
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	増山純二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	増山純二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	増山純二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	増山純二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	増山純二
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	増山純二
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	増山純二
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	増山純二
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	増山純二
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	増山純二
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	増山純二
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	増山純二
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	運動機能支援特論				ナンバリング		
担当者	古後晴基・中井雄貴・北村匡大						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 運動器の機能、内部障害による全身の筋力や関節への影響、さらにはバイオメカニクスの観点について、正常と異常の側面から講義を展開し、先行研究を加味しながら多種多様な支援方法について学修する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 日常生活において、運動器の機能障害、また呼吸器系や循環器系疾患による全身性の体力低下により身体が自由に動かない状況に陥った時、これまで不自由なく過ごしてきた日常生活は苦痛に変化する。これは、学業や仕事、余暇活動などのIADLにまで影響を及ぼすことになる。本講義では、骨、関節、筋の運動器および姿勢や身体の動きなどのバイオメカニクスを、先行研究や新しい知見と臨床現場と比較検討しながら、生活に及ぼす影響と改善や予防について探求することを目標とする。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域のニ ーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働の方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	○					10
授業態度			◎	○					30
受講者の発表			◎	○					30
授業への参加度			◎	○					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスの確認	古後晴基
	授業	本講義についてのオリエンテーション・運動支援について	
	事後学修 (復習)	オリエンテーションを受けて今後の計画の再確認と運動支援について復習する	
2	事前学習 (予習)	肩や腰、膝関節などの関節機能が低下する疾患について予習しておく	古後晴基
	授業	関節機能低下が運動機能に及ぼす影響と改善および予防について	
	事後学修 (復習)	講義内容を復習し知識を整理する	
3	事前学習 (予習)	超音波による筋の評価について予習しておく	古後晴基
	授業	超音波画像から読み取れる筋機能について	
	事後学修 (復習)	講義内容を復習する	
4	事前学習 (予習)	スポーツ障害について予習しておく	古後晴基
	授業	スポーツ障害の実際と予防について	
	事後学修 (復習)	講義内容を復習する	
5	事前学習 (予習)	講義8.9の講義内容を再確認しておく	古後晴基
	授業	関節および筋機能の評価法について (超音波画像・柔軟性・筋硬度など)	
	事後学修 (復習)	多くの評価方法について知識を整理する	

6	事前学習 (予習)	様々な筋の評価法について事前に予習しておく				中井雄貴
	授業	筋の評価とパフォーマンスの関連についての解析				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習し筋の評価とパフォーマンスに関する研究について整理する				
7	事前学習 (予習)	表面筋電計と3次元動作解析装置について事前に予習しておく				中井雄貴
	授業	表面筋電計と慣性センサーを用いた解析				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習し表面筋電計と3次元動作解析装置を用いた研究について整理する				
8	事前学習 (予習)	バランス評価について予習しておく				中井雄貴
	授業	動的バランスの評価に関する解析				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習し、バランス評価について知識を整理する				
9	事前学習 (予習)	足趾の機能およびトレーニング方法について事前に調べておく				中井雄貴
	授業	足趾のトレーニング方法についての解析				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習し、足趾機能とトレーニング方法を整理する				
10	事前学習 (予習)	体幹深部筋と肺機能の特徴を予習しておく				中井雄貴
	授業	体幹深部筋と肺機能へのトレーニング介入に関する解析				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習し、介入研究について知識を整理する				
11	事前学習 (予習)	循環器の機能解剖について予習しておく				北村匡大
	授業	循環器と運動機能の関係について				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習しておく				
12	事前学習 (予習)	呼吸器の機能解剖について予習しておく				北村匡大
	授業	呼吸器と運動機能の関係について				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習しておく				
13	事前学習 (予習)	循環器疾患について予習しておく				北村匡大
	授業	循環器疾患が心身に及ぼす影響について (評価から解釈)				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習しておく				
14	事前学習 (予習)	呼吸器疾患について予習しておく				北村匡大
	授業	呼吸器疾患が心身に及ぼす影響について (評価から解釈)				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習しておく				
15	事前学習 (予習)	循環器・呼吸器疾患に対して具体的な支援方法を事前に調べておく				北村匡大
	授業	循環器・呼吸器疾患が心身に及ぼす影響について (介入方法)				
	事後学修 (復習)	講義内容を復習しておく				
備考					最大文字数640文字 (10行以内)	
					・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	運動機能支援演習				ナンバリング		
担当者	古後晴基・中井雄貴・北村匡大						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 運動機能について正常と異常の側面から講義を展開し、先行研究などから運動機能障害に対して多種多様な支援方法について学修する。また、自身の研究テーマに沿ったデータ収集の方法や解析などを演習を通して構築していく。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 演習を通して、研究論文の読み方から結果や考察の解釈についてクリティーク、プレゼンテーションやディスカッションを行いながら、運動器の障害に特化した支援（地域予防活動）について理解し、院生自身が考えている研究課題とリンクさせることができ、研究方法や目的に反映させることを目標とする。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う（アクティブラーニング）。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			80	20					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					10
受講者の発表			◎	○					40
授業への参加度			◎	○					40
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスの確認	古後晴基 中井雄貴 北村匡大
	授業	オリエンテーション	
	事後学習 (復習)	オリエンテーション内容を再確認する	
2	事前学習 (予習)	研究論文の検索をしておく	古後晴基
	授業	研究課題に関連する論文検索	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
3	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	古後晴基
	授業	検索した論文から計画している研究について検討する①	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
4	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	古後晴基
	授業	検索した論文から計画している研究について検討する②	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
5	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	古後晴基
	授業	文献のクリティーク：プレゼンテーション・ディスカッション①	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	

6	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	北村匡大
	授業	文献のクリティーク:プレゼンテーション・ディスカッション②	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
7	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	北村匡大
	授業	文献のクリティーク:プレゼンテーション・ディスカッション③	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
8	事前学習 (予習)	試験的に数名のデータを収集する (努力目標)	北村匡大
	授業	データ収集の実際 (筋力) とその解釈	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
9	事前学習 (予習)	試験的に数名のデータを収集する (努力目標)	北村匡大
	授業	運動器障害関連の質問紙データ収集の実際とその解釈	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
10	事前学習 (予習)	試験的に数名のデータを収集する (努力目標)	北村匡大
	授業	体力測定に関するデータ収集の実際とその解釈	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
11	事前学習 (予習)	研究計画について予習する	中井雄貴
	授業	演習内容と研究課題について今後の計画についてディスカッション	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
12	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	中井雄貴
	授業	研究テーマに関する文献のクリティーク・プレゼンテーション・ディスカッション①	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
13	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	中井雄貴
	授業	研究テーマに関する文献のクリティーク・プレゼンテーション・ディスカッション②	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
14	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	中井雄貴
	授業	研究テーマに関する文献のクリティーク・プレゼンテーション・ディスカッション③	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
15	事前学習 (予習)	論文の検索およびクリティーク	中井雄貴
	授業	研究テーマに関する文献のクリティーク・プレゼンテーション・ディスカッション④	
	事後学習 (復習)	講義内容の復習	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	脳機能支援特論				ナンバリング		
担当者	玉利誠・山口浩雄・岡真一郎						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) ヒトの運動行動に関連する運動制御・姿勢制御・歩行制御・精神機能・認知機能について、その神経機構を学習するとともに、近年の国内外の研究の動向を把握し、神経科学の知見に基づいた神経リハビリテーションについて議論する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1) ヒトの運動行動に関係する各種機能の神経機構について説明できる。 2) 近年の国内外の研究の動向を把握し、神経疾患を有する患者のリハビリテーションの現状と課題を説明できる。 3) 個体要因のみならず、課題・環境要因が運動行動に及ぼす影響について理解できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					30
受講者の発表			◎	○					30
授業への参加度			◎	○					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	オリエンテーション・自身の研究に関する背景・着想・目的の紹介とディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
2	事前学習 (予習)	現在の主たる脳イメージング法の種類について事前に調べておく	玉利誠
	授業	脳イメージング法 1	
	事後学習 (復習)	各種脳イメージング法の長所・短所について知識を整理する	
3	事前学習 (予習)	現在の主たる脳イメージング法の種類について事前に調べておく	玉利誠
	授業	脳イメージング法 2	
	事後学習 (復習)	各種脳イメージング法の長所・短所について知識を整理する	
4	事前学習 (予習)	歩行障害に関する論文を検索し、抄読しておく	玉利誠
	授業	歩行障害に対する神経リハビリテーション	
	事後学習 (復習)	歩行障害に対する神経リハビリテーションの現状と課題について知識を整理する	
5	事前学習 (予習)	高次脳機能障害に関する論文を検索し、抄読しておく	玉利誠
	授業	高次脳機能障害に対する神経リハビリテーション	
	事後学習 (復習)	高次脳機能障害に対する神経リハビリテーションの現状と課題について知識を整理する	

6	事前学習 (予習)	脳血管障害急性期、慢性期の治療、血圧コントロールについて調べておく	山口浩雄
	授業	脳血管障害急性期、慢性期の治療、血圧コントロール	
	事後学習 (復習)	脳血管障害急性期、慢性期の治療、血圧コントロールについて知識を整理する	
7	事前学習 (予習)	実験動物を用いた老化、神経変性疾患の解析について論文を検索する	山口浩雄
	授業	実験動物を用いた老化、神経変性疾患の解析	
	事後学習 (復習)	実験動物を用いた老化、神経変性疾患の解析について知識を整理する	
8	事前学習 (予習)	歩行障害のアセスメントについて論文を検索し、抄読しておく	山口浩雄
	授業	歩行障害のアセスメントとそれに対する介入について	
	事後学習 (復習)	歩行障害のアセスメントについて知識を整理する	
9	事前学習 (予習)	6, 7, 8に関連する論文を選び精読しプレゼンの準備をする	山口浩雄
	授業	6, 7, 8に関連する論文を選びプレゼンする	
	事後学習 (復習)	6, 7, 8に関連しプレゼンした論文の知識を整理する	
10	事前学習 (予習)	代表的な運動・姿勢制御の障害について事前に調べておく	岡真一郎
	授業	運動・姿勢制御の神経機構	
	事後学習 (復習)	運動・姿勢制御の神経機構について知識を整理する	
11	事前学習 (予習)	運動・姿勢障害に関する論文を検索し、抄読しておく	岡真一郎
	授業	運動・姿勢障害に対する神経リハビリテーション	
	事後学習 (復習)	運動・姿勢障害に対する神経リハビリテーションの現状と課題について知識を整理する	
12	事前学習 (予習)	非侵襲的脳刺激法の種類について事前に調べておく	岡真一郎
	授業	非侵襲的脳刺激法 (TMS)	
	事後学習 (復習)	各種非侵襲的脳刺激法の長所・短所について知識を整理する	
13	事前学習 (予習)	非侵襲的脳刺激法の種類について事前に調べておく	岡真一郎
	授業	非侵襲的脳刺激法 (tES)	
	事後学習 (復習)	各種非侵襲的脳刺激法の長所・短所について知識を整理する	
14	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関するプレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
15	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関するプレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・院生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 木曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	脳機能支援演習			ナンバリング			
担当者	玉利誠・山口浩雄・岡真一郎・中山広宣						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 先行研究の調査を通し、脳の構造や機能を定量する手法の原理や長所・短所、実際の定量結果を解釈する際に留意すべき点などについて理解する。また、自身の研究テーマに沿った先行研究を渉猟し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)脳の構造や機能を定量する手法について、その長所・短所を説明することができる。 2)脳の構造や機能を定量および解釈する際に留意すべき点について説明することができる。 3)自身の研究テーマに関連する先行研究の批判的吟味を行い、研究計画に役立てることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域のニ ーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働の方法	合計
学修比率			80	20					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					10
受講者の発表			◎	○					40
授業への参加度			◎	○					40
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文1:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
2	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文2:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
3	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文3:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
4	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文4:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
5	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文5:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	

6	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文6:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
7	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文7:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
8	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文8:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
9	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文9:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
10	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文10:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
11	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文11:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
12	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文12:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
13	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文13:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
14	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文14:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに知識を整理する	
15	事前学習 (予習)	自身の研究テーマの課題を整理する	玉利誠 山口浩雄 岡真一郎
	授業	これまでの研究論文講読を通じて自身の研究テーマの課題を整理する:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 木曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	摂食嚥下機能支援特論				ナンバリング		
担当者	森下元賀						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 摂食嚥下機能は対象者の健康を考えるうえで栄養摂取、生活の質(Quality of Life)の観点からどの職種においても非常に重要である。摂食嚥下機能の低下は低栄養から全身のサルコペニアを引き起こし、生命予後にも関わってくる。本特論では、摂食嚥下機能のメカニズムや代表的な評価、多職種でのアプローチを学習する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)摂食嚥下に関わる解剖学、生理学的メカニズムが説明できる。 2)摂食嚥下機能および口腔機能の代表的なアセスメント、スクリーニング評価を列挙し、内容に関して説明できる。 3)摂食嚥下機能に問題を抱える可能性がある対象者に対してのチームアプローチの具体的な方法を列挙できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域のニ ーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働の方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					30
受講者の発表			◎	○					30
授業への参加度			◎	○					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	摂食嚥下に関わる筋肉や摂食嚥下のモデルについて事前に調べておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下の解剖および生理	
	事後学習 (復習)	摂食嚥下の解剖および生理について知識を整理する	
2	事前学習 (予習)	全身の発達や加齢変化について事前に調べておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能の発達と加齢変化	
	事後学習 (復習)	摂食嚥下機能の発達と加齢変化について知識を整理する	
3	事前学習 (予習)	オーラルフレイル、サルコペニアとはどのようなものか事前に調べておく	森下元賀
	授業	オーラルフレイル、サルコペニアによる嚥下障害	
	事後学習 (復習)	オーラルフレイル、サルコペニアによる嚥下障害について知識を整理する	
4	事前学習 (予習)	自身が実践している摂食嚥下機能の検査について内容を整理しておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能のスクリーニング検査	
	事後学習 (復習)	摂食嚥下機能のスクリーニング検査について知識を整理する	
5	事前学習 (予習)	摂食嚥下機能を評価する機器について事前に調べておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能の機器を用いた評価	
	事後学習 (復習)	摂食嚥下機能の機器を用いた評価について知識を整理する	

6	事前学習 (予習)	誤嚥性肺炎の疫学、定義について事前に調べておく	森下元賀
	授業	誤嚥性肺炎の原因と対策	
	事後学習 (復習)	誤嚥性肺炎の原因と対策について知識を整理する	
7	事前学習 (予習)	人体に必要な栄養素とその量について事前に調べておく	森下元賀
	授業	低栄養に対する栄養管理とリハビリテーション栄養	
	事後学習 (復習)	低栄養に対する栄養管理とリハビリテーション栄養について知識を整理する	
8	事前学習 (予習)	摂食嚥下機能に関わる職種の専門性、役割を事前に調べておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能に対する多職種でのチームアプローチ	
	事後学習 (復習)	摂食嚥下機能に対する多職種でのチームアプローチについて知識を整理する	
9	事前学習 (予習)	口腔機能低下症について事前に調べておく	森下元賀
	授業	口腔・嚥下機能と全身機能、身体活動、社会参加の関連	
	事後学習 (復習)	口腔・嚥下機能と全身機能、身体活動、社会参加の関連について知識を整理する	
10	事前学習 (予習)	神経疾患において生じる摂食嚥下機能の問題について事前に調べておく	森下元賀
	授業	神経疾患における摂食嚥下機能の問題と対処	
	事後学習 (復習)	神経疾患における摂食嚥下機能の問題と対処について知識を整理する	
11	事前学習 (予習)	認知症、精神疾患において生じる摂食嚥下機能の問題について事前に調べておく	森下元賀
	授業	認知症、精神疾患における摂食嚥下機能の問題と対処	
	事後学習 (復習)	認知症、精神疾患における摂食嚥下機能の問題と対処について知識を整理する	
12	事前学習 (予習)	2回、3回目の講義内容に関して十分に復習しておく	森下元賀
	授業	加齢による摂食嚥下機能の問題の予防と対応	
	事後学習 (復習)	加齢による摂食嚥下機能の問題の予防と対応について知識を整理する	
13	事前学習 (予習)	栄養摂取と運動代謝の関連性について事前に調べておく	森下元賀
	授業	リハビリテーション栄養からみた運動処方	
	事後学習 (復習)	リハビリテーション栄養からみた運動処方について知識を整理する	
14	事前学習 (予習)	10回、11回目の講義内容に関して十分に復習しておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能に問題をもつ対象者(急性期～回復期)におけるケーススタディ	
	事後学習 (復習)	講義中に学習した症例について知識を整理する	
15	事前学習 (予習)	12回目の講義内容に関して十分に復習しておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能に問題をもつ可能性がある対象者(地域分野)におけるケーススタディ	
	事後学習 (復習)	講義中に学習した症例について知識を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	摂食嚥下機能支援演習				ナンバリング		
担当者	森下元賀						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 摂食嚥下機能、栄養障害におけるガイドライン、提言や自身の研究テーマにおける先行研究の調査や演習を通して、摂食嚥下機能障害の予防からリハビリテーション、生命倫理に関わるところまでを包括的に理解する。本演習ではガイドライン、生命倫理に関する議論、自身の研究テーマに沿ったプレゼンテーションを実施する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)摂食嚥下機能障害、栄養障害の代表的なガイドライン、提言の内容を説明できる。 2)生命倫理に関して、国内外の知見をもとに自身の考えを説明できる。 3)摂食嚥下機能、栄養障害に関する先行研究の批判的吟味を通して自身の研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域のニ ーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働の方法	合計
学修比率			80	20					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					10
受講者の発表			◎	○					40
授業への参加度			◎	○					40
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	治療ガイドラインとは何かについて事前に調べておく	森下元賀
	授業	摂食嚥下機能障害の各国のガイドラインの概要	
	事後学習 (復習)	摂食嚥下機能障害の各国のガイドラインの概要について知識を整理する	
2	事前学習 (予習)	EBMに基づいた治療ガイドラインの適応方法について事前に調べておく	森下元賀
	授業	栄養障害の各国のガイドラインの概要	
	事後学習 (復習)	栄養障害の各国のガイドラインの概要について知識を整理する	
3	事前学習 (予習)	生命倫理とは何かについて事前に整理しておく	森下元賀
	授業	生命倫理の考え方	
	事後学習 (復習)	生命倫理の考え方について知識を整理する	
4	事前学習 (予習)	国内外における生命倫理の考え方の違いについて事前に調べておく	森下元賀
	授業	国内外における生命倫理と摂食嚥下機能障害	
	事後学習 (復習)	国内外における生命倫理と摂食嚥下機能障害について知識を整理する	
5	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	

6	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文2:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
7	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文3:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
8	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文4:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
9	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文5:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
10	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文6:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
11	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文7:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
12	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文8:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
13	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文9:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
14	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	森下元賀
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文10:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
15	事前学習 (予習)	自身の研究テーマの課題を整理する	森下元賀
	授業	これまでの研究論文講読を通じて自身の研究テーマの課題を整理する:プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)			ナンバリング			
担当者	森下元賀						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特に摂食嚥下、栄養機能に関する課題) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1		D2		D3		D4	
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法
学修比率		10			10	50	20	10
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○
授業態度					○	○		
受講者の発表		○				◎	○	○
授業への参加度						○	○	○
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)		
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する
	授業	心身機能支援 (特に摂食嚥下機能、栄養機能) に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う
	授業	提示された資料にもとづき討議する
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する
	授業	文献検索する (フィールドワーク)
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	森下元賀
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	森下元賀
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	森下元賀
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	森下元賀
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	森下元賀
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	森下元賀
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	森下元賀
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	森下元賀
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	森下元賀
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	森下元賀
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	森下元賀
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	森下元賀
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	森下元賀
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	森下元賀
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	森下元賀
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	森下元賀
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	森下元賀
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	森下元賀
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	森下元賀
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)				ナンバリング			
担当者	森下元賀							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	心身機能支援コース				分類		コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特に摂食嚥下、栄養機能に関する課題) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	森下元賀
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	森下元賀
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	森下元賀
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	森下元賀
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	森下元賀
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	森下元賀
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	森下元賀
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	森下元賀
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	森下元賀
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	森下元賀
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	森下元賀
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	森下元賀
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	森下元賀
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	森下元賀
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	森下元賀
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	森下元賀
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	森下元賀
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	森下元賀
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	森下元賀
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	森下元賀
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	森下元賀
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	森下元賀
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	森下元賀
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	森下元賀
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)			ナンバリング			
担当者	玉利 誠						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特に脳機能や生体力学など) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人としての 倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	心身機能支援 (特に脳機能や生体力学など) に関する諸課題について研究指導を行う演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	玉利 誠
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	玉利 誠
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	玉利 誠
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	玉利 誠
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	玉利 誠
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	玉利 誠
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	玉利 誠
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	玉利 誠
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	玉利 誠
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	玉利 誠
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	玉利 誠
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	玉利 誠
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	玉利 誠
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	玉利 誠
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	

20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	玉利 誠
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	玉利 誠
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	玉利 誠
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	玉利 誠
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	玉利 誠
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。 なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)				ナンバリング		
担当者	玉利 誠						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特に脳機能や生体力学など) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1		D2		D3		D4	
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法
学修比率		10			10	50	20	10
評価基準・方法								
定期試験 小テスト等								
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○
授業態度					○	○		
受講者の発表		○				◎	○	○
授業への参加度						○	○	○
その他	(最大文字数 50文字)							
合計								100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	玉利 誠
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	玉利 誠
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	玉利 誠
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	玉利 誠
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	玉利 誠
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	玉利 誠
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	玉利 誠
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	玉利 誠
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	玉利 誠
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	玉利 誠
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	玉利 誠
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	玉利 誠
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	玉利 誠
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	玉利 誠
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	玉利 誠
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	玉利 誠
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	玉利 誠
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	玉利 誠
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	玉利 誠
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	玉利 誠
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	玉利 誠
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	玉利 誠
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	玉利 誠
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	玉利 誠
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション特別研究 (心身機能支援)				ナンバリング		
担当者	古後晴基						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特に運動学、徒手療法、スポーツ傷害、循環動態 (浮腫) など) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1		D2		D3		D4	
	健康支援が必要な対象の理解	医療人としての倫理観	高度な知識と技術	マネジメント能力	健康状態の科学的かつ包括的な評価	実践的な研究能力	現場や地域のニーズと課題の明確化	専門職連携に基づく協働的方法
学修比率		10			10	50	20	10
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○
授業態度					○	○		
受講者の発表		○				◎	○	○
授業への参加度		○				○	○	○
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	古後晴基
	授業	心身機能支援 (特に運動学、徒手療法、スポーツ傷害、循環動態 [浮腫] など) に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	古後晴基
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める。 身体機能のうち運動機能の支援に関する諸課題について研究指導を行う。 運動機能の支援に関する諸課題とは、運動学に関するテーマ、徒手療法に関するテーマ、スポーツ傷害に関するテーマ、骨格筋ポンプ作用が影響する循環動態 (浮腫) に関するテーマ等であり、主にこれらの諸課題について研究指導を行う。	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	古後晴基
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	古後晴基
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	

5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	古後晴基
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	古後晴基
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	古後晴基
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	古後晴基
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	古後晴基
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	古後晴基
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	古後晴基
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	古後晴基
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	古後晴基
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	古後晴基
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	古後晴基
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	古後晴基
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	古後晴基
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	古後晴基
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	古後晴基
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	

20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	古後晴基
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	古後晴基
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	古後晴基
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	古後晴基
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	古後晴基
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。 なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)				ナンバリング		
担当者	古後晴基						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (主に運動機能) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	古後晴基
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	古後晴基
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	古後晴基
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	古後晴基
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	古後晴基
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	古後晴基
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	古後晴基
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	古後晴基
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	古後晴基
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	古後晴基
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	古後晴基
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	古後晴基
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	古後晴基
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	古後晴基
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	古後晴基
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	古後晴基
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	古後晴基
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	古後晴基
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	古後晴基
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	古後晴基
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	古後晴基
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	古後晴基
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	古後晴基
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	古後晴基
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)			ナンバリング			
担当者	中井雄貴						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特にスポーツ科学、トレーニング・コンディショニング科学、身体運動学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	中井雄貴
	授業	心身機能支援 (スポーツ科学、トレーニング・コンディショニング科学、身体運動学) に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	中井雄貴
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	中井雄貴
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	中井雄貴
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	中井雄貴
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	中井雄貴
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	中井雄貴
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	中井雄貴
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	中井雄貴
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	中井雄貴
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	中井雄貴
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	中井雄貴
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	中井雄貴
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	中井雄貴
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	中井雄貴
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	中井雄貴
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	中井雄貴
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	中井雄貴
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	中井雄貴
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	中井雄貴
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	中井雄貴
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	中井雄貴
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性があ る。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)			ナンバリング			
担当者	田中真一・北村匡大						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (特にスポーツ科学、トレーニング・コンディショニング科学、身体運動学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)心身機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	中井雄貴
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	中井雄貴
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	中井雄貴
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	中井雄貴
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	中井雄貴
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	中井雄貴
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	中井雄貴
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	中井雄貴
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	中井雄貴
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	中井雄貴
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	中井雄貴
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	中井雄貴
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	中井雄貴
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	中井雄貴
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	中井雄貴
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	中井雄貴
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	中井雄貴
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	中井雄貴
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	中井雄貴
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	中井雄貴
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	中井雄貴
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	中井雄貴
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)			ナンバリング			
担当者	岡真一郎						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (脳機能と感覚運動制御など) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)身体機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	岡真一郎
	授業	心身機能支援 (脳機能と感覚運動制御など) に関する諸課題について研究指導を行う演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	岡真一郎
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	岡真一郎
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	岡真一郎
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	岡真一郎
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	岡真一郎
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	岡真一郎
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	岡真一郎
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	岡真一郎
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	岡真一郎
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	岡真一郎
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	岡真一郎
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	岡真一郎
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	岡真一郎
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	岡真一郎
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	岡真一郎
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	岡真一郎
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	岡真一郎
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	岡真一郎
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	岡真一郎
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	岡真一郎
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	岡真一郎
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	岡真一郎
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	岡真一郎
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (心身機能支援)			ナンバリング			
担当者	岡真一郎						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	心身機能支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、心身機能支援に関する研究課題 (脳機能と感覚運動制御など) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)身体機能の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)		
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする
	授業	データ収集
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする
	授業	データ収集
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする
	授業	データ収集
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする
	授業	データ収集
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	岡真一郎
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	岡真一郎
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	岡真一郎
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	岡真一郎
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	岡真一郎
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	岡真一郎
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	岡真一郎
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	岡真一郎
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	岡真一郎
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	岡真一郎
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	岡真一郎
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	岡真一郎
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	岡真一郎
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	岡真一郎
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	岡真一郎
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	岡真一郎
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	岡真一郎
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	岡真一郎
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	岡真一郎
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	岡真一郎
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	岡真一郎
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	岡真一郎
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	岡真一郎
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	岡真一郎
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	生活機能支援特論				ナンバリング		
担当者	山根伸吾・溝田勝彦・近藤敏						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 生活機能は、ICFの中心概念であり、人が「生きる」ことの3つのレベルである、心身機能・身体構造、活動、参加の3者を包括した概念である。本特論では、「生活機能」の側面から対象者を捉え、健康を支援するための高度な専門知識と技能を修得することを目的とする。本特論では、生活に関連する諸概念を多様な観点から理解するとともに、各病期における現状と課題、多職種でのアプローチについて学習する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)生活機能の概念と、諸要素との関係を説明できる。 2)生活機能の代表的なアセスメント、スクリーニング評価を列挙し、内容に関して説明できる。 3)生活機能に問題を抱える可能性がある対象者に対してのチームアプローチの具体的な方法を列挙できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域のニ ーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法		
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					30
受講者の発表			◎	○					30
授業への参加度			◎	○					30
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく	山根伸吾
	授業	授業ガイダンス、生活機能の概要	
	事後学習 (復習)	ガイダンスを基に自分の学習計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	生活と身体機能・身体構造との関係について事前に調べておく	溝田勝彦
	授業	生活と心身機能・身体構造との関係	
	事後学習 (復習)	生活と身体機能・身体構造との関係について知識を整理する	
3	事前学習 (予習)	生活と活動・参加との関係について事前に調べておく	近藤敏
	授業	生活と活動・参加との関係	
	事後学習 (復習)	生活と活動・参加との関係について知識を整理する	
4	事前学習 (予習)	生活と個人因子・環境因子との関係について事前に調べておく	山根伸吾
	授業	生活と個人因子・環境因子との関係	
	事後学習 (復習)	生活と個人因子・環境因子との関係について知識を整理する	
5	事前学習 (予習)	生活行為 (作業) について事前に調べておく	近藤敏
	授業	生活行為 (作業) の考え方	
	事後学習 (復習)	生活行為 (作業) に関する知識を整理する	

6	事前学習 (予習)	高齢期における基本的な心理的、身体的、社会的変化について事前に復習しておく	近藤敏
	授業	高齢期における生活機能の問題の予防と対応	
	事後学習 (復習)	高齢期における生活機能の問題の予防と対応について知識を整理する	
7	事前学習 (予習)	自身が実践している生活機能の評価について、内容を整理しておく	溝田勝彦
	授業	生活機能の評価: 一般的な評価バッテリー	
	事後学習 (復習)	生活機能の評価について知識を整理する	
8	事前学習 (予習)	生活機能の評価について事前に調べておく	山根伸吾
	授業	生活機能の評価: 観察による評価の重要性	
	事後学習 (復習)	生活機能の評価について知識を整理する	
9	事前学習 (予習)	作業科学について事前に調べておく	山根伸吾
	授業	作業科学の視点から生活を考える	
	事後学習 (復習)	作業科学の視点について知識を整理する	
10	事前学習 (予習)	生活機能に関わる職種の専門性、役割を事前に調べ、自身の実践について整理しておく	溝田勝彦
	授業	生活機能に対する多職種でのチームアプローチ (1)	
	事後学習 (復習)	生活機能に対する多職種でのチームアプローチについて知識を整理する	
11	事前学習 (予習)	生活機能に関わる職種の専門性、役割を事前に調べ、自身の実践について整理しておく	山根伸吾
	授業	生活機能に対する多職種でのチームアプローチ (2)	
	事後学習 (復習)	生活機能に対する多職種でのチームアプローチについて知識を整理する	
12	事前学習 (予習)	前回までの講義内容に関して十分に復習しておく	溝田勝彦
	授業	生活機能に問題をもつ対象者(急性期～回復期)におけるケーススタディ (1)	
	事後学習 (復習)	講義中に学習した症例について知識を整理する	
13	事前学習 (予習)	前回までのケーススタディの講義内容に関して十分に復習しておく	山根伸吾
	授業	生活機能に問題をもつ対象者(急性期～回復期)におけるケーススタディ (2)	
	事後学習 (復習)	講義中に学習した症例について知識を整理する	
14	事前学習 (予習)	前回までのケーススタディの講義内容に関して十分に復習しておく	近藤敏
	授業	生活機能に問題をもつ可能性がある対象者(地域分野)におけるケーススタディ (1)	
	事後学習 (復習)	講義中に学習した症例について知識を整理する	
15	事前学習 (予習)	前回までのケーススタディの講義内容に関して十分に復習しておく	山根伸吾
	授業	生活機能に問題をもつ可能性がある対象者(地域分野)におけるケーススタディ (2)	
	事後学習 (復習)	講義中に学習した症例について知識を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	生活機能支援演習				ナンバリング		
担当者	山根伸吾・溝田勝彦・近藤敏						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 生活機能支援特論で学んだ内容を発展させるために、生活機能に関する先行研究や自身の研究テーマに関する先行研究を批判的に精読し、ディスカッションを通して、生活機能障害の予防からリハビリテーションの課題について考える。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)生活機能に関する先行研究について、批判的にレビューができる。 2)生活機能に関して、国内外の知見をもとに自身の考えを説明できる。 3)生活機能、生活機能障害に関する先行研究の批判的吟味を通して自身の研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			80	20					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					20
受講者の発表			◎	○					40
授業への参加度			◎	○					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	近藤敏
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
2	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	近藤敏
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文2: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
3	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	近藤敏
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文3: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
4	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	近藤敏
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文4: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
5	事前学習 (予習)	自身の研究テーマの課題を整理する	近藤敏
	授業	これまでの研究論文講読を通じて自身の研究テーマの課題を整理する: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	

6	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	溝田勝彦
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文5: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
7	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	溝田勝彦
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文6: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
8	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	溝田勝彦
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文7: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
9	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	溝田勝彦
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文8: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
10	事前学習 (予習)	自身の研究テーマの課題を整理する	溝田勝彦
	授業	これまでの研究論文講読を通じて自身の研究テーマの課題を整理する: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
11	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	山根伸吾
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文9: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
12	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	山根伸吾
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文10: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
13	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	山根伸吾
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文11: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
14	事前学習 (予習)	生活機能と自身の研究テーマに関連する研究論文講読	山根伸吾
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文12: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
15	事前学習 (予習)	自身の研究テーマの課題を整理する	山根伸吾
	授業	これまでの研究論文講読を通じて自身の研究テーマの課題を整理する: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスパワー 火曜 16～17時 各教員研究室	

科目名	生活環境支援特論				ナンバリング		
担当者	谷川良博・田中悟郎						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 生活環境は人の暮らしを支える環境条件の全体的な結びつきを指す。生活環境は医療分野以外に、社会学、生物学、建築学などの様々な領域に関わる学問であるため、広い視野が求められる。この特論では障がい者や高齢者、障がい児を中心にソフト面の（家族、地域、ネットワーク）に焦点を当て、「生活」と「環境」の側面から対象者を捉え、ICFにおける活動・参加を支援するための高度な専門知識と技能を修得することを目的とする。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)地域生活、生活環境と自身の研究テーマの関連性について説明することができる。 2)地域・在宅に関する研究課題を通して、研究の今後の課題を明確にできる。 3)地域生活支援や福祉政策の動向や課題を環境評価の視点をもって説明ができる。 4)本講義で習得した知識を自身の研究計画に反映させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う（アクティブラーニング）。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			70	30					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			◎	○					10
授業態度			◎	○					30
受講者の発表			◎	○					30
授業への参加度			◎	○					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	資料を事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博 田中悟郎
	授業	オリエンテーション 生活と環境における支援の実践	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
2	事前学習 (予習)	資料を第1回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	生活環境支援と多領域との関係	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
3	事前学習 (予習)	資料を第2回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	高齢者・障がい者と取り巻く生活状況と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
4	事前学習 (予習)	資料を第3回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	高齢者・障がい者の地域生活の実態	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
5	事前学習 (予習)	資料を第4回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	高齢者・障がい者の地域生活の実態と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	

6	事前学習 (予習)	資料を第5回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	認知症の人を取り巻く環境と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
7	事前学習 (予習)	資料を第6回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	認知症の人の共生社会を人材育成から考える	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
8	事前学習 (予習)	資料を第7回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博
	授業	高齢者・認知症、障がい者の介護家族を取り巻く環境と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
9	事前学習 (予習)	資料を第8回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	地域のネットワークとボランティア活用の現状と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
10	事前学習 (予習)	資料を第9回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	生活環境に関連する諸制度 (高齢者を中心に) の現状と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
11	事前学習 (予習)	資料を第10回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	生活環境と生活困難との関係を整理する	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
12	事前学習 (予習)	資料を第11回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	地域における家族支援の課題の整理 (1)	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
13	事前学習 (予習)	資料を第12回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	地域における家族支援の課題の整理 (2)	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
14	事前学習 (予習)	資料を第13回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	生活環境に関わる専門職の現状と課題	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
15	事前学習 (予習)	資料を第14回授業で事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	田中悟郎
	授業	生活環境と各領域との関連と連携について考える	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 水曜日 9:00～11:00 各担当教員研究室	

科目名	生活環境支援演習				ナンバリング		
担当者	谷川良博・田中悟郎						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 生活環境は人の暮らしを支える環境条件の全体的な結びつきを指す。生活環境は医療分野以外に様々な領域に関わる学問であるため、広い視野が求められる。本演習では、受講者が障がい者や高齢者、障がい児を取り巻く現状と課題に関する論文を紹介し、生活環境支援特論で学んだ内容を踏まえ討議する。地域における生活環境支援の潜在的・顕在的ニーズの明確化などの現状と課題について研究論文クリークを通して探究し、研究方法につなげることを目的とする。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)日本の人口構造や在宅関連支援について理解を深め、環境を中心に課題をまとめることができる。 2)地域・在宅に関する研究論文クリティークを通して、研究の今後の課題を説明できる。 3)生活環境支援に関する研究論文クリティークを通して自身の研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う(アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			40	60					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	○					10
授業態度			○	○					10
受講者の発表			◎	◎					40
授業への参加度			◎	◎					40
その他							(最大文字数 50文字)		
合計									

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	資料を事前配布するので、資料に目を通してメモを作成する	谷川良博 田中悟郎
	授業	ガイダンス 研究論文検索：研究の動向と今後の課題の考え方	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
2	事前学習 (予習)	自身の研究計画に関連する研究の動向について調べる	田中悟郎
	授業	研究論文検索：研究の動向と今後の課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに研究計画に関連する研究の動向と今後の課題をまとめる	
3	事前学習 (予習)	自己の研究テーマに関連する研究の動向と今後の課題をまとめる	田中悟郎
	授業	研究論文検索：研究の動向と今後の課題	
	事後学習 (復習)	授業をもとに研究計画に関連する研究の動向と今後の課題をまとめる	
4	事前学習 (予習)	事前課題研究論文講読	田中悟郎
	授業	在宅生活の現状と今後の課題に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
5	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	田中悟郎
	授業	生活支援の環境整備に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	

6	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	田中悟郎
	授業	自助具・生活行為に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
7	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	田中悟郎
	授業	自助具・住宅改修に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
8	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	田中悟郎
	授業	生活環境支援に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
9	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	谷川良博
	授業	生活環境支援に関する主要な研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
10	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	谷川良博
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文クリティーク	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
11	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	谷川良博
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文クリティーク1 1 :プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
12	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	谷川良博
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文クリティーク1 2 研究文献から得られた知見を自身の研究計画に関連付けてプレゼンテーションして、ディスカッションする	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
13	事前学習 (予習)	事前課題研究論文を読み自身の考えをメモにまとめておく	谷川良博
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文クリティーク2-1 :プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
14	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究論文講読	谷川良博
	授業	自身の研究テーマに関する研究論文クリティーク2-2 研究文献から得られた知見を自身の研究計画に関連付けてプレゼンテーションする。さらなる研究テーマの課題をディスカッションする	
	事後学習 (復習)	授業で学んだ内容を整理し発展課題について考える	
15	事前学習 (予習)	事前課題研究論文講読	谷川良博
	授業	これまでの研究論文講読を通じて自身の研究テーマの課題を整理して研究計画に反映させる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに研究計画を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・グループワークやプレゼンテーションを重視する。学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 水曜日 9:00～11:00 各担当教員研究室	

科目名	福祉工学支援特論				ナンバリング		
担当者	永崎孝之・川原田淳						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 対象者 (障がい児・者や高齢者) の健康で自立した社会参加を実現するために、本特論では対象者の多彩な生活や活動に制限や制約が生じるという現代社会の重要な課題に対して、福祉工学の視点から生活支援実践のための知識体系と応用技能を深化させることを目指す。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)福祉工学の背景や必要性について理解することができる。 2)福祉工学に基づく支援について現状と課題について考察することができる。 3)関連文献クリティークを通して自身の研究テーマの課題が明確にできる。 4)本講義で習得した知識を自身の研究計画に反映させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 講義および関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う (アクティブラーニング)。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			60	40					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	○					20
授業態度			○	○					10
受講者の発表			◎	◎					40
授業への参加度			◎	◎					30
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく。	永崎孝之 川原田淳
	授業	ガイダンス 人間工学と福祉工学	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	福祉工学支援について考えておく	川原田淳
	授業	福祉工学とは 福祉工学と生活支援	
	事後学習 (復習)	授業をもとに福祉工学と生活支援について整理する	
3	事前学習 (予習)	福祉工学支援のうち保健・医療・福祉分野からの視点について考えておく	永崎孝之
	授業	福祉工学支援の知識1: 保健・医療・福祉分野 (特に身体機能) からの視点	
	事後学習 (復習)	授業をもとに保健・医療・福祉分野からの視点について整理する	
4	事前学習 (予習)	福祉工学支援のうち保健・医療・福祉分野からの視点について考えておく	川原田淳
	授業	福祉工学支援の知識2: 保健・医療・福祉分野 (特に生活) からの視点	
	事後学習 (復習)	授業をもとに保健・医療・福祉分野からの視点について整理する	
5	事前学習 (予習)	福祉工学支援のうち工学分野からの視点について考えておく	川原田淳
	授業	福祉工学支援の知識3: 工学分野 (特に生体情報と計測装置) からの視点	
	事後学習 (復習)	授業をもとに工学分野からの視点について整理する	

6	事前学習 (予習)	福祉工学に基づく福祉用具について事前に調べておく	永崎孝之
	授業	身体機能代行機器 (福祉用具) 1: 歩行補助具	
	事後学習 (復習)	授業をもとに紹介された機器 (装置) に関する知識を整理する	
7	事前学習 (予習)	福祉工学に基づく福祉用具について事前に調べておく	永崎孝之
	授業	身体機能代行機器 (福祉用具) 2: 自助具	
	事後学習 (復習)	授業をもとに紹介された機器 (装置) に関する知識を整理する	
8	事前学習 (予習)	授業で紹介された機器 (装置) に関する知識を整理する	永崎孝之 川原田淳
	授業	福祉用具の現状や今後の課題を整理する	
	事後学習 (復習)	授業をもとに福祉用具の現状や今後の課題を整理する	
9	事前学習 (予習)	福祉工学に基づく計測装置について事前に調べておく	川原田淳
	授業	生体情報計測装置 (センシング) 1: 慣性センサ	
	事後学習 (復習)	授業をもとに紹介された計測装置に関する知識を整理する	
10	事前学習 (予習)	福祉工学に基づく計測装置について事前に調べておく	川原田淳
	授業	生体情報計測装置 (センシング) 2: その他のセンサ	
	事後学習 (復習)	授業をもとに紹介された計測装置に関する知識を整理する	
11	事前学習 (予習)	授業で紹介された計測装置に関する知識を整理する	永崎孝之 川原田淳
	授業	生体情報計測装置 (センシング) の現状や今後の課題を整理する	
	事後学習 (復習)	授業をもとに計測装置の現状や今後の課題を整理する	
12	事前学習 (予習)	自己の研究テーマに関連する福祉工学の研究の動向について調べる	永崎孝之 川原田淳
	授業	自己の研究テーマに関連する福祉工学の研究論文のクリティーク: 文献検索	
	事後学習 (復習)	文献を検索しまとめる	
13	事前学習 (予習)	文献のクリティーク	永崎孝之 川原田淳
	授業	自己の研究テーマに関連する福祉工学の研究論文のクリティーク: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
14	事前学習 (予習)	文献のクリティーク	永崎孝之 川原田淳
	授業	自己の研究テーマに関連する福祉工学の研究論文のクリティーク: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
15	事前学習 (予習)	これまでの授業内容を振り返っておく	永崎孝之 川原田淳
	授業	福祉工学の現状と課題 (総合討論)	
	事後学習 (復習)	授業を整理し、自身の研究計画に反映させる	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 随時: 事前に確認すること (各教員研究室)	

科目名	福祉工学支援演習				ナンバ'リング'		
担当者	奈良進弘・川原田淳・永崎孝之						
開講年次	2	開講期	前期	単位	1	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース選択科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	福祉工学支援特論で学んだ対象者の多彩な生活や活動に制限や制約が生じるという現代社会の重要な課題に対して、福祉工学の視点から生活支援実践のための知識体系と応用技能について関連文献のクリティークを通して探究し、自身の研究に反映できるよう学習する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)関連文献クリティークを通して福祉工学に基づく支援について現状と課題が理解できる。 2)関連文献クリティークを通して自身の研究テーマの課題が明確にできる。 3)関連文献クリティークを通して自身の研究計画に反映できる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)						
	関連文献のクリティーク、ディスカッションやプレゼンテーションを行う（アクティブラーニング）。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)						
	適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率			40	60					100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○	○					20
授業態度			○	○					20
受講者の発表			◎	◎					40
授業への参加度			○	○					20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスをよく読み、授業の概要や到達目標を把握しておく。	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自分の学修計画を立案する	
2	事前学習 (予習)	福祉工学に関連する文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	文献講読: 研究の動向と今後の課題 (福祉用具) : プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
3	事前学習 (予習)	福祉工学に関連する文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	文献講読: 研究の動向と今後の課題 (自助具) : プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
4	事前学習 (予習)	福祉工学に関連する文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	文献講読: 研究の動向と今後の課題 (センシング) : プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
5	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク1-1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
6	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク1-2: 建設的批判を行い、研究論文の課題をまとめる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	

7	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク2-1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
8	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク2-2: 建設的批判を行い、研究論文の課題をまとめる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
9	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク3-1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
10	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク3-2: 建設的批判を行い、研究論文の課題をまとめる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
11	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク4-1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
12	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク4-2: 建設的批判を行い、研究論文の課題をまとめる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
13	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク5-1: プレゼンテーション・ディスカッション	
	事後学習 (復習)	授業をもとに結果を整理する	
14	事前学習 (予習)	自身の研究テーマに関連する研究文献クリティーク	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマに関する文献のクリティーク5-2: 建設的批判を行い、研究論文の課題をまとめる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに課題を整理する	
15	事前学習 (予習)	自身の研究テーマの課題について整理する	奈良進弘 川原田淳 永崎孝之
	授業	自身の研究テーマ研究の課題を整理し研究計画に反映させる	
	事後学習 (復習)	授業をもとに、研究計画を整理する	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・1週間あたり2時間程度の事前・事後学習の時間を確保することが望ましい。 ・オフィスアワー 随時・事前に確認すること (各教員研究室)	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	近藤敏						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に、生活機能) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	40
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	30
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	近藤敏
	授業	生活支援 (特に生活機能のうち、セルフケア、仕事、QOL等の生活行為の再獲得支援) に関する諸課題について研究指導を行う。 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする。	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	近藤敏
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	近藤敏
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	近藤敏
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	近藤敏
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	近藤敏
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	近藤敏
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	近藤敏
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	近藤敏
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	近藤敏
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	近藤敏
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	近藤敏
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	近藤敏
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	近藤敏
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	近藤敏
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	近藤敏
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	近藤敏
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	近藤敏
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	近藤敏
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	近藤敏
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	近藤敏
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	近藤敏
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	近藤敏
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	近藤敏
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	近藤敏						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に、生活機能) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを学修し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法		
学修比率					10	60	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	近藤敏
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	近藤敏
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	近藤敏
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	近藤敏
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	近藤敏
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	近藤敏
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	近藤敏
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	近藤敏
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	近藤敏
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	近藤敏
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	近藤敏
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	近藤敏
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	近藤敏
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	近藤敏
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	近藤敏
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	近藤敏
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	近藤敏
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	近藤敏
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	近藤敏
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	近藤敏
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	近藤敏
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	近藤敏
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	近藤敏
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	近藤敏
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)			ナンバリング			
担当者	永崎孝之						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に福祉工学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)福祉工学支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	永崎孝之
	授業	福祉工学 (特に松葉杖などの歩行補助具を中心とする福祉用具) に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿い学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	永崎孝之
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	永崎孝之
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	永崎孝之
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	永崎孝之
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	永崎孝之
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	永崎孝之
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	永崎孝之
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	永崎孝之
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	永崎孝之
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	永崎孝之
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	永崎孝之
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	永崎孝之
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	永崎孝之
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	永崎孝之
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	永崎孝之
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	永崎孝之
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	永崎孝之
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	永崎孝之
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	永崎孝之
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	永崎孝之
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	永崎孝之
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。 なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	永崎孝之						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に福祉工学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身に付ける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)福祉工学支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	永崎孝之
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	永崎孝之
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	永崎孝之
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	永崎孝之
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	永崎孝之
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	永崎孝之
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	永崎孝之
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	永崎孝之
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	永崎孝之
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	永崎孝之
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	永崎孝之
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	永崎孝之
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	永崎孝之
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	永崎孝之
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	永崎孝之
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	永崎孝之
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	永崎孝之
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	永崎孝之
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	永崎孝之
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	永崎孝之
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	永崎孝之
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	永崎孝之
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)			ナンバリング			
担当者	川原田淳						
開講年次	1〜2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に福祉工学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)		
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する
	授業	福祉工学 (特に生体情報計測装置) に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う
	授業	提示された資料にもとづき討議する
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する
	授業	文献検索する (フィールドワーク)
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	川原田淳
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	川原田淳
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	川原田淳
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	川原田淳
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	川原田淳
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	川原田淳
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	川原田淳
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	川原田淳
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	川原田淳
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	川原田淳
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	川原田淳
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	川原田淳
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	川原田淳
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	川原田淳
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	川原田淳
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	川原田淳
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	川原田淳
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	川原田淳						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に福祉工学) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身に付ける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が必要な対象の理解	医療人としての倫理観	高度な知識と技術	マネジメント能力	健康状態の科学的かつ包括的な評価	実践的な研究能力	現場や地域のニーズと課題の明確化	専門職連携に基づく協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	川原田淳
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	川原田淳
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	川原田淳
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	川原田淳
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	川原田淳
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	川原田淳
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	川原田淳
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	川原田淳
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	川原田淳
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	川原田淳
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	川原田淳
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	川原田淳
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	川原田淳
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	川原田淳
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	川原田淳
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	川原田淳
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	川原田淳
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	川原田淳
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	川原田淳
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	川原田淳
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	川原田淳
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	川原田淳
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	川原田淳
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)			ナンバリング			
担当者	田中悟郎・谷川良博						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に生活環境) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活環境の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	田中悟郎 谷川良博
	授業	生活環境 (特に障害児・者や高齢者を取り巻く家族、地域、ネットワーク等のソフトな環境) に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	田中悟郎 谷川良博
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	田中悟郎 谷川良博
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	田中悟郎 谷川良博
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	田中悟郎 谷川良博
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	田中悟郎 谷川良博
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	田中悟郎 谷川良博
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	田中悟郎 谷川良博
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	田中悟郎						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に生活環境) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活環境の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)						
	ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)						
	学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	田中悟郎 谷川良博
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	田中悟郎 谷川良博
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	田中悟郎 谷川良博
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	田中悟郎 谷川良博
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	田中悟郎 谷川良博
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	田中悟郎 谷川良博
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	田中悟郎 谷川良博
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	田中悟郎 谷川良博
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	田中悟郎
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	山根伸吾						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に脳血管障害、頭部外傷による生活機能障害を有する方や高齢者の生活支援に関する研究課題) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1	事前学習 (予習)	シラバスを読み、この演習の概要を理解する	山根伸吾
	授業	脳血管障害、頭部外傷による生活機能障害を有する方や高齢者の生活機能支援に関する諸課題について研究指導を行う 演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	山根伸吾
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	山根伸吾
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	山根伸吾
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	
5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	山根伸吾
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	

6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	山根伸吾
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	山根伸吾
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	山根伸吾
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	山根伸吾
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	山根伸吾
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	山根伸吾
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	山根伸吾
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	山根伸吾
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	山根伸吾
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的で実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	山根伸吾
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	山根伸吾
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	山根伸吾
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	山根伸吾
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	
19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	山根伸吾
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	山根伸吾
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	

21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	山根伸吾
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	山根伸吾
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	山根伸吾						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に脳血管障害、頭部外傷による生活機能障害を有する方や高齢者の生活支援に関する研究課題) に焦点を絞り、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活支援の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	山根伸吾
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	山根伸吾
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	山根伸吾
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	山根伸吾
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	山根伸吾
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	山根伸吾
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	山根伸吾
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	山根伸吾
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	山根伸吾
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	山根伸吾
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	山根伸吾
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	山根伸吾
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	山根伸吾
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	山根伸吾
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	山根伸吾
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	山根伸吾
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	山根伸吾
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	山根伸吾
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	山根伸吾
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	山根伸吾
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	山根伸吾
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	山根伸吾
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング		
担当者	溝田 勝彦						
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択
開講コース	生活支援コース				分類	コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学分野を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に対象者の日常生活活動を中心とした生活機能を支援するための研究課題) に応じて、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成のための演習を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、課題探求力、研究倫理、論文作成、高度なプレゼンテーション能力を身につける。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活環境の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナ-ル形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法	合計
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
1		シラバスを読み、この演習の概要を理解する	
	授業	生活機能のうち、最も基本となる活動 (日常生活活動) を中心とした生活機能支援に関する諸課題について研究指導を行う。演習の概要を説明し、到達目標に沿った学修計画を立案し目的が達成できるようにする。	
	事後学習 (復習)	演習の概要を理解し、学修期間のスケジュールを立案する	
2	事前学習 (予習)	研究課題を明確にするために、実践の中で気がかりな現象を記述する	
	授業	気がかりな現象の記述を指導教員及び参加者と討論し、記述内容をさらに深める	
	事後学習 (復習)	討論内容を加えて、現象の記述をまとめ考察する	
3	事前学習 (予習)	現象の記述から、研究課題を考える	
	授業	現象の記述から、研究課題を考える、文献検索のキーワードを検討する	
	事後学習 (復習)	研究課題を再考し、文献検索のキーワードを再検討する	
4	事前学習 (予習)	キーワードの定義を辞書等で調べ資料作成する。文献検索を行う	
	授業	提示された資料にもとづき討議する	
	事後学習 (復習)	討議内容をまとめ、文献の整理をする	

5	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	溝田 勝彦
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成する	
6	事前学習 (予習)	文献検索のキーワードで検索する	溝田 勝彦
	授業	文献検索する (フィールドワーク)	
	事後学習 (復習)	文献検索結果をもとに文献リストを作成し、資料としてまとめる (ファイリング)	
7	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	溝田 勝彦
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
8	事前学習 (予習)	文献のクリティークの準備をする	溝田 勝彦
	授業	文献クリティークを指導教員及び参加者と共に実施する	
	事後学習 (復習)	文献クリティーク結果を整理し、サマリーを作成する	
9	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	溝田 勝彦
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
10	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究課題の研究方法を考える	溝田 勝彦
	授業	研究課題を解決するための研究方法を助言を受けて再検討する	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文献検討結果と照合して考える	
11	事前学習 (予習)	文献の再検索の必要性に気づき検索を精査する	溝田 勝彦
	授業	文献の再検索をする	
	事後学習 (復習)	再検索した文献を整理し、さらに文献検討が必要か考える	
12	事前学習 (予習)	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	溝田 勝彦
	授業	研究計画書を作成する (研究方法を中心に)	
	事後学習 (復習)	研究計画の研究方法で実際に可能か考える	
13	事前学習 (予習)	研究方法の再検討をして、助言を受ける準備をする	溝田 勝彦
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
14	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	溝田 勝彦
	授業	健康科学研究法特論の講義内容を反映させ、具体的に実施可能な研究計画書を助言をもとに作成する	
	事後学習 (復習)	研究計画の助言内容をまとめ修正する	
15	事前学習 (予習)	研究計画書の研究方法の作成を提出資料として準備する	溝田 勝彦
	授業	研究計画書に研究方法を記述し助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画の研究方法を整理する	
16	事前学習 (予習)	研究計画所の研究方法をもとに、データ収集について概要を記述する	溝田 勝彦
	授業	研究計画書に研究方法をのせ、データ収集までのプロセスを記述し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を修正し、データ収集までのプロセスを整理する	
17	事前学習 (予習)	研究計画発表会に向けて関連資料を整理する	溝田 勝彦
	授業	研究計画発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究計画発表会の資料を修正する	
18	事前学習 (予習)	研究発表会に向けて準備をする	溝田 勝彦
	授業	研究発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画発表会の資料や発表内容を修正する	

19	事前学習 (予習)	研究計画を実施するを準備をする	溝田 勝彦
	授業	研究計画発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究計画発表会での質問や助言内容をもとに研究計画書を修正する	
20	事前学習 (予習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を確認をする	溝田 勝彦
	授業	倫理審査委員会申請書類を作成する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会へ申請するための必要書類を再確認をする	
21	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の申請書類の最終チェックする	溝田 勝彦
	授業	研究計画書を指導教員と連名で倫理審査委員会へ申請できる準備を完了し、提出する	
	事後学習 (復習)	倫理審査委員会の審査結果の指摘事項について修正し、再審査に臨み、承認を得る	
22	事前学習 (予習)	倫理審査委員会の承認を得て、研究計画を実施する準備をする	溝田 勝彦
	授業	研究計画にそい、研究を実施する具体的な準備について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究計画が実行可能か確かめる	
23	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	溝田 勝彦
	授業	フィールドワーク (データ収集)	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
24	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
25	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
26	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
27	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
28	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
29	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
30	事前学習 (予習)	データを図表にまとめる	溝田 勝彦
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
備考		1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性が ある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、積極的・主体的に議論ができるようにして、学びを深めてほしい。 オフィスアワー 指導教員に確認する。	

科目名	リハビリテーション学特別研究 (生活支援)				ナンバリング			
担当者	溝田 勝彦							
開講年次	1～2	開講期	通年	単位	8	必修・選択	選択	
開講コース	生活支援コース				分類		コース専門科目	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 健康科学の複合的な課題について、リハビリテーション学領域を基軸に、生活支援に関する研究課題 (特に対象者の日常生活活動を中心とした生活機能を支援するための研究課題) に応じて、研究方法を選択する。研究計画作成過程から倫理審査委員会に申請し承認を得て、研究を実施し、データ解析過程を指導助言しながら修士論文作成のための演習を行う。これらのプロセスを通して科学的なものの考え方、リサーチマインドを修得し、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。							
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 1)研究課題について、文献検討 (クリティーク・文献整理の仕方)、フィールドワークから研究計画を立案する。 2)倫理審査委員会へ申請し承認を得る。 3)研究計画に基づいてデータ収集と分析・解釈ができる。 4)生活環境の研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に沿って研究を実施し、研究結果を分析・解釈し、学位論文 (修士) を作成することができる。 5)修士論文計画発表、修士論文中間発表、修士論文審査会 (一次審査・二次審査) においてプレゼンテーションできる。 6)プレゼンテーションの結果、指摘された事項を受け止め論文を修正し、洗練させることができる。							
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) ゼミナール形式 (学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学修を深める) で行う。							
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 学生のプレゼンテーションの準備に沿い、文献検索した論文及び資料。その他必要な資料・文献を提示する。							

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
健康支援が 必要な対象の 理解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究 能力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に 基づく 協働的方法		
学修比率		10			10	50	20	10	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート		○			○	◎	○	○	30
授業態度					○	○			10
受講者の発表		○				◎	○	○	40
授業への参加度						○	○	○	20
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)			
31	事前学習 (予習)	これまでのプロセスを振り返り、研究計画の修正を行う	
	授業	研究計画の修正案について、指導教員及び参加者と共にディスカッションする	
	事後学習 (復習)	ディスカッションをもとに研究計画の修正を行う	
32	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
33	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
34	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
35	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	

36	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	溝田 勝彦
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
37	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	溝田 勝彦
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
38	事前学習 (予習)	研究計画を実施する準備をする	溝田 勝彦
	授業	データ収集	
	事後学習 (復習)	データ収集の整理をする	
39	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
40	事前学習 (予習)	収集したデータをまとめる	溝田 勝彦
	授業	データの分析・解釈を研究方法にもとづき実施し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言をデータ整理に反映させ、修正する	
41	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて関連資料を整理する	溝田 勝彦
	授業	研究中間発表会に向けて資料を作成する	
	事後学習 (復習)	助言内容をもとに修正し、研究中間発表会の資料を修正する	
42	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	溝田 勝彦
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
43	事前学習 (予習)	研究中間発表会に向けて準備をする	溝田 勝彦
	授業	研究中間発表会の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、研究中間発表会の資料や発表内容を修正する	
44	事前学習 (予習)	研究中間発表会を実施する準備をする	溝田 勝彦
	授業	研究中間発表会で発表する	
	事後学習 (復習)	研究中間発表会での質問や助言内容を整理する	
45	事前学習 (予習)	研究中間発表会での質問や助言内容にもとづいて論文を再検討する	溝田 勝彦
	授業	再検討した論文にもとづきデータを作成し、助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
46	事前学習 (予習)	データを視覚媒体に耐え得る図表にまとめる	溝田 勝彦
	授業	作成したデータの図表について助言を得る	
	事後学習 (復習)	作成したデータの図表を助言にもとづき修正する	
47	事前学習 (予習)	データにもとづき作成した図表の説明を考える	溝田 勝彦
	授業	図表の説明を行い助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言内容を再検討し、文章にまとめる	
48	事前学習 (予習)	論文作成の準備のために章立てを考える	溝田 勝彦
	授業	論文の章立てについて助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて章立てを再検討する	
49	事前学習 (予習)	再検討した章立てに沿って論文作成に取り組む準備をする	溝田 勝彦
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	

50	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	溝田 勝彦
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
51	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	溝田 勝彦
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
52	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	溝田 勝彦
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
53	事前学習 (予習)	章立てに沿い論文作成に取り組む準備をする	溝田 勝彦
	授業	論文作成	
	事後学習 (復習)	論文作成の整理をする	
54	事前学習 (予習)	修士論文提出のために抄録を作成する	溝田 勝彦
	授業	修士論文の抄録について助言を得る	
	事後学習 (復習)	助言を受けて抄録原稿を修正する	
55	事前学習 (予習)	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	溝田 勝彦
	授業	作成した修士論文を指導教員へ提出する	
	事後学習 (復習)	修士論文に作成過程を振り返り、修士論文審査会 (一次審査) の資料を作成する	
56	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の準備をする	溝田 勝彦
	授業	修士論文審査会 (一次審査) の予行を行い、助言を得る	
	事後学習 (復習)	予行における指導をもとづいて、資料を修正する	
57	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) を受ける準備をする	溝田 勝彦
	授業	修士論文審査会 (一次審査) を受ける	
	事後学習 (復習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容を整理する	
58	事前学習 (予習)	修士論文審査会 (一次審査) の際の指導・助言内容をもとに修士論文を修正する	溝田 勝彦
	授業	修士論文を修正し、指導教員の指導・助言を得る	
	事後学習 (復習)	指導教員の指導・助言内容にもとづいて修正されているか確認する	
59	事前学習 (予習)	修士論文作成規定を確認する	溝田 勝彦
	授業	論文全体を再校正し、修士論文作成規定に沿っていることを再確認し提出期限を確認する	
	事後学習 (復習)	作成した修士論文を指導教員と大学院教務課へ提出する	
60	事前学習 (予習)	修士論文発表会 (二次審査) の準備をする	溝田 勝彦
	授業	修士論文発表会 (二次審査) で発表する	
	事後学習 (復習)	修士論文発表会 (二次審査) の質問や助言を整理する	
備考		・1年次30コマ、2年次30コマで合計60コマの講義・演習を行う予定だが、学生の状況により年次の割合は変更の可能性がある。なお、学生と調整し、集中開講をする場合もある。 ・受講に関しては、入念な準備をして授業に臨み、学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワー 指導教員に確認する。	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
人体構造機能論	講義	1 単位 (15 時間)	1 年前期	田中 裕二

授 業 概 要				
臨床現場において看護の実践に必要な科学的根拠に基づく判断と問題解決能力、医療における技術の発展に対応できる能力の基礎を身につけるために、疾病における病態生理を理解するための人体の構造と機能について理解する。				
到 達 目 標				
1. 看護の実践に必要な科学的根拠に基づく臨床判断と問題解決能力に対応できる基礎として、人体の構造と機能を学び、患者の身体を統合的に把握するための知識を身につける。 2. 多様な臨床場面において看護実践につながる科学的根拠の理解を深めるために、解剖見学を通して、人体の構造と機能の知識を統合する。				
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習				
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。				
事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする				
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)	

回数	単 元	内 容	担当教員
1	脳神経系	(e-learning) 脳神経系 (28:33) (e-learning) 脳動脈・脳静脈と髄液 (35:33) (e-learning) 神経筋疾患 (40:46)	田中 裕二
2	循環器系	(e-learning) 心臓の解剖 (29:15) (e-learning) 心筋の収縮 (20:30) (e-learning) 心臓の電気生理学 (40:43)	田中 裕二
3	呼吸器系	(e-learning) 胸部の解剖 (42:49) (e-learning) 上気道、下気道、肺胞の組織構造～換気から拡散へ～ (31:00) (e-learning) 呼吸運動と換気 (24:27)	田中 裕二
4	消化器系①	(e-learning) 消化器総論 (48:01) (e-learning) 肝胆膵脾の解剖 (43:56)	田中 裕二
5	消化器系②	(e-learning) 消化管ホルモン (肝、膵)、消化と吸収 (45:00) (e-learning) 肝胆膵の生理・生化学 (19:29)	田中 裕二
6	腎臓・内分泌系	(e-learning) 腎臓の解剖 (30:03) (e-learning) 腎臓の機能～内分泌機能を中心に～ (22:40) (e-learning) 内分泌の解剖・生理学～甲状腺、副腎、視床下部-下垂体～ (19:13)	田中 裕二
7	解剖見学実習①	解剖見学実習	田中 裕二
8	解剖見学実習②	解剖見学実習	田中 裕二

評 価	テスト 100 点
教科書	
参考図書等	スネル臨床解剖学 第3版 R.S.Snell、山内昭雄訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 岡田忠他監訳「コスタンゾ明解生理学 第7版」
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
臨床薬理学特論	講義	2 単位 (45 時間)	1 年前期	永渕学・原寿郎・富永隆治・石井正夫・ 林広典・蒲池浩文

授 業 概 要					
診療看護師には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目では診療看護師として薬物療法を安全かつ効果的に進められるための知識を修得するために薬物療法の基礎を学ぶ。具体的には、薬力学及び薬物動態学について理解し、各薬剤の作用・副作用について学ぶ。さらに診療看護師の実践で遭遇する頻度の高い事例の薬物療法について学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 人体に対する薬力学・薬物動態を説明できる。 2. 各薬物の作用・副作用について説明できる。 3. 薬物の安全管理と 処方の理論について説明できる。 4. 看護学の視点を踏まえた薬物療法について討議ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	薬物相互作用と薬物動態学の基礎知識 抗菌薬の投与期間	(e-learning) 薬物相互作用と薬物動態学の基礎知識 (45:00) (e-learning) 抗菌薬の投与期間 (30:27)	永渕学 (e-learning)
2	症候別薬物療法（脳神経系①）	(e-learning) 脳卒中の急性期治療と慢性期 2 次予防 (26:51) (e-learning) 慢性疾患のてんかんと急性期の急性症候性発作とてんかん重積状態 (51:53)	永渕学 (e-learning)
3	症候別薬物療法（脳神経系②）	(e-learning) 頭痛・偏頭痛の臨床薬理学 (25:09) (e-learning) 鎮痛・鎮静・せん妄 (54:53)	永渕学 (e-learning)
4	症候別薬物療法（循環器①）	(e-learning) 虚血性心疾患の薬物治療 (28:59) (e-learning) 慢性心不全の薬物治療～左室駆出率の低下した心不全～ (55:57)	永渕学 (e-learning)
5	症候別薬物療法（循環器②）	(e-learning) 高血圧の薬物治療 (44:07) (e-learning) 脂質異常症 (23:26)	永渕学 (e-learning)
6	症候別薬物療法（循環器③）	(e-learning) 不整脈の薬物治療～抗不整脈薬～ (45:00) (e-learning) 抗凝固薬・抗血小板薬 (45:01)	永渕学 (e-learning)
7	症候別薬物療法（呼吸器①）	(e-learning) 喘息・COPD の薬物治療 49:55 (e-learning) 肺炎の薬物治療 50:46	永渕学 (e-learning)
8	症候別薬物療法（呼吸器②）	(e-learning) 便秘・下痢 (25:38) (e-learning) 消化器薬（胃・十二指腸潰瘍、ピロリ菌除菌）(21:42) (e-learning) 電解質・輸液 (46:09)	永渕学 (e-learning)
9	症候別薬物療法（消化器①）	(e-learning) 疼痛 (51:58) (e-learning) 悪心・嘔吐 (23:38)	永渕学 (e-learning)
10	症候別薬物療法（消化器②）	(e-learning) 糖尿病の薬物治療 (46:24) (e-learning) 高血糖緊急症 (47:58)	永渕学 (e-learning)
11	抗菌薬関連	(e-learning) 抗菌薬治療の概論 (44:34) (e-learning) 敗血症 (33:32)	永渕学 (e-learning)
12	抗がん剤関連	(e-learning) 免疫抑制薬 (27:44) (e-learning) 抗がん剤① (41:18)、抗がん剤② (44:24)	永渕学 (e-learning)
13	症候別薬物療法（血液）	(e-learning) 血液製剤、輸血 (21:19) (e-learning) 造血薬（ESA・G-CSF・TPO） (30:57) (e-learning) 栄養療法 (28:11)	永渕学 (e-learning)
14	抗精神病/不眠薬関連	(e-learning) 不眠症・せん妄 (54:57) (e-learning) 向精神薬 (57:19)	永渕学 (e-learning)
15	症候別薬物療法（その他①）	(e-learning) パーキンソン病 (20:31) (e-learning) 抗リウマチ薬・抗アレルギー薬 (26:33)	永渕学 (e-learning)

回数	単 元	内 容	担当教員
		(e-learning) 皮膚疾患 ステロイド外用剤 (15:59) (e-learning) 骨粗鬆症 (35:30)	
16	症候別薬物療法 (その他②)	(e-learning) 痛風・高尿酸血症 (23:09) (e-learning) 甲状腺治療薬 24:07 (e-learning) 漢方 (42:47)	永渕学 (e-learning)
17	特別な状況の薬物療法①	(e-learning) 小児における薬物療法の注意点とワクチン (59:11) (e-learning) 特別に考慮の必要な患者群 (39:16)	永渕学 (e-learning)
18	特別な状況の薬物療法②	(e-learning) 肝・腎障害患者へ投与する際の注意点 (46:18) (e-learning) 処方基礎・法的問題・麻薬・向精神薬の取り扱い (32:33) (e-learning) 医薬品副作用被害救済制度 (24:45)	永渕学 (e-learning)
19	演習： 薬物動態・薬物相互作用	演習：事例検討 (薬物動態・薬物相互作用)	永渕 学
20	演習：脳梗塞・高血圧	演習：事例検討 (脳梗塞・高血圧)	山口 浩雄
21	演習：心不全・脂質異常症	演習：事例検討 (心不全・脂質異常症)	角 秀秋
22	演習：気管支喘息	演習：事例検討 (気管支喘息)	小河原一太樹
23	演習：肺炎	演習：事例検討 (肺炎)	有信 洋二郎
24	演習：糖尿病①	演習：事例検討 (1 型糖尿病の薬物治療)	石井 正夫
25	演習：糖尿病②	事例検討 (2 型糖尿病の薬物治療)	石井 正夫
26	演習：糖尿病③	演習：事例検討 (2 型糖尿病の薬物治療)	石井 正夫
27	演習：感染症	演習：事例検討 (感染症)	藤井 勇佑
28	演習：不眠症	演習：事例検討 (不眠症)	船水 章央
29	演習：妊娠	演習：事例検討 (妊娠に対する薬物療法)	林 広典
30	終了試験	科目終了試験	永渕学

評 価	テスト 100 点
教科書	
参考図書等	・ 亀谷 学 (翻訳), 大橋 博樹 (翻訳), 喜瀬 守人 (翻訳),セイントとフランシスの内科診療ガイド 第 2 版,メディカル・サイエンス・インターナショナル,2005 ・ 前野 哲博 (著),症状対応 ベスト・プラクティス: デキる医療者になるための,学研メディカル秀潤社,2015 ・ 大西 弘高 (編集),The 臨床推論 研修医よ,診断のプロをめざそう!,南山堂.2012 ・ 徳田安春 (著, 編集),ジェネラリスト診療が上手になる本(「ジェネラリスト・マスターズ」シリーズ 4),カイ書林,2011 ・ 松原知康 (著), 吉野俊平 (著),動きながら考える!内科救急診療のロジック,南山堂,2016 ・ 亀田 徹 (編集),救急超音波テキスト - point of care としての実践的活用法,中外医学社,2018
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
呼吸器・循環器治療のための実践演習	講義	4 単位 (時間)	1 年後期	増山 純二 後小路 隆

授 業 概 要					
診療看護師には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目では呼吸・循環に係る治療管理とケアを安全に実施できるための基礎的な知識と技術を学ぶ。講義、演習（シミュレーション、手順書作成）と系統的に学修を進め、筆記試験を実施する。治療管理とケアを実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。					
到 達 目 標					
1.呼吸・循環に係る治療管理とケアを実践するための知識を説明できる。 2.呼吸・循環に係る治療管理とケアの技術を実施できる。 3.看護学の視点を踏まえた呼吸・循環に係る治療管理とケアの実践について討議ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連①（e-learning） 気道確保に関する局所解剖（20:25） 気管チューブの位置の調整に関する病態生理（17:14）気管チューブの位置の調整に関するフィジカルアセスメント（16:38） 気管挿管の目的、適応、禁忌、合併症（15:32） 気管チューブの種類と適応（20:08）	後小路 隆
2	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）②（e-learning） 気管チューブによる呼吸管理（27:04）バグバルブマスクを用いた用手換気（19:45） 気管チューブの位置の調整の目的、適応、禁忌（0:21:52）	後小路 隆
3	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）③（e-learning） 気管チューブの位置の調整に伴うリスク（44:29）気管チューブの位置の調整の手技（55:59）	後小路 隆
4	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）④（演習） 気管チューブの位置調整の手技	後小路 隆
5	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）⑤（演習） 気管チューブの位置調整のトラブル対応①（高度な気道確保/BVM 換気/チューブ固定）	後小路 隆
6	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）⑥（演習） 気管チューブの位置調整のトラブル対応②（高度な気道確保/BVM 換気/チューブ固定）	後小路 隆
7	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	呼吸器（気道確保に関わるもの）⑦（実習） 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
8	呼吸器（気道確保に関わるもの）関連	OSCE 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	後小路 隆 増山 純二 外部講師
9	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連①（e-learning） 人工呼吸療法および人工呼吸器管理の目的、適応、禁忌（16:45） 人工呼吸療法に関する局所解剖と生理（43:32） 人工呼吸療法を要する主要疾患の病態生理（47:53）	後小路 隆
10	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連②（e-learning） 人工呼吸療法を要する主要疾患の検査とフィジカルアセスメント（1:08:23） 人工呼吸器のメカニズム、種類、構造と管理（45:24）	後小路 隆
11	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連③（e-learning） 侵襲的陽圧換気の選択、適応、目的（38:25） 侵襲的陽圧換気の換気様式の目的と適応（1:26:43）	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
12	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連④（e-learning） 侵襲的陽圧換気の設定条件変更の目的と変更方法（49:22） 侵襲的陽圧換気の設定条件変更のリスクと禁忌（39:16）	後小路 隆
13	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑤（演習） 侵襲的陽圧換気の設定の変更	後小路 隆
14	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑥（実習） 侵襲的陽圧換気の設定の変更（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
15	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑦（e-learning） 非侵襲的陽圧換気の仕組みと目的（23:51）非侵襲的陽圧換気の適応と禁忌（41:55） 非侵襲的陽圧換気の設定条件の選択（45:52）	後小路 隆
16	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑧（e-learning） 非侵襲的陽圧換気の設定条件の変更方法（44:11） 非侵襲的陽圧換気に伴うリスクと有害事象（47:28）	後小路 隆
17	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑨（演習） 非侵襲的陽圧換気の設定の変更	後小路 隆
18	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑨（実習） 非侵襲的陽圧換気の設定の変更（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
19	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 ⑩（e-learning） 人工呼吸管理中の鎮静の目的、適応、禁忌（31:44） 人工呼吸管理中の鎮静の方法（33:39） 人工呼吸管理中の鎮静薬の選択と投与量（33:59）	後小路 隆
20	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 ⑪（e-learning） 人工呼吸管理中の鎮静に伴うリスク（27:08） 人工呼吸器からの離脱の目的（19:53） 人工呼吸器からの離脱の適応と禁忌（45:48）	後小路 隆
21	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 ⑫（e-learning） 人工呼吸器からの離脱に伴うリスク（43:58） 人工呼吸器からの離脱の方法（38:00）	後小路 隆
22	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑬（演習） 人工呼吸管理中の鎮静薬の投与量の調整	後小路 隆
23	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑭（演習） 人工呼吸管理中の患者の鎮静・鎮痛状態の評価	後小路 隆
24	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑮（演習） 人工呼吸器からの離脱	後小路 隆
25	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑯（実習） 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
26	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連⑰（実習） 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
27	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連 ①（e-learning） 気管切開に関する局所解剖（24:09）気管切開を要する主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメント（21:30）気管切開の目的、適応と禁忌（19:54）気管切開に伴うリスク（13:36）小児の気管切開（19:01）	後小路 隆
28	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連 ②（e-learning） 気管切開の方法や機器・カニューレの種類（25:22） 気管切開患者の管理・ケア（24:59） 気管カニューレの適応と禁忌（22:00）	後小路 隆
29	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連③（e-learning） 気管カニューレの構造と選択（24:47）気管カニューレの交換の手技（17:27） 気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応（32:20）	後小路 隆
30	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連④（演習） 気管カニューレの選択・交換の手技/気管切開の方法	後小路 隆
31	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連④（演習） 気管カニューレの交換の手技（手順書作成）	後小路 隆 増山 純二
32	呼吸器関連（長期呼吸療法に関わるもの）関連	OSCE；気管カニューレの交換	後小路 隆 増山 純二 外部講師

回数	単 元	内 容	担当教員
33	循環管理関連	循環管理関連① (e-learning) 一時的ペースメーカー、IABP、PCPS に関する局所解剖 (31:24) 一時的ペースメーカーを要する主要疾患の病態生理 (33:27) PCPS、IABP を要する主要疾患の病態生理 (33:19)	後小路 隆
34	循環管理関連	循環管理関連② (e-learning) 一時的ペースメーカーを要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査 (48:35) PCPS、IABP を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査 (44:46)	後小路 隆
35	循環管理関連	循環管理関連③ (e-learning) 一時的ペースメーカーの目的、適応、禁忌 (26:22) 一時的ペースメーカーに伴うリスク (31:02) ペーシング器機の種類とメカニズム (34:29)	後小路 隆
36	循環管理関連	循環管理関連④ (e-learning) ペースメーカーのモードの選択と適応および操作・管理方法 (36:14) 患者・家族への指導および教育 (21:08)	後小路 隆
37	循環管理関連	循環管理関連⑤ (e-learning) 一時的ペースメーカーリードの抜去の目的、適応、禁忌 (41:45) 一時的ペースメーカーリードの抜去のリスク (29:31) 一時的ペースメーカーリードの抜去の手技 (29:31)	後小路 隆
38	循環管理関連	循環管理関連⑥ (e-learning) PCPS の総論～目的、適応、禁忌～ (31:56) PCPS のメカニズムと生理学 (31:42) PCPS の合併症～有害事象とその対策～ (20:03)	後小路 隆
39		循環管理関連⑦ (e-learning) PCPS の導入および管理 (56:04) IABP の目的、適応、禁忌 (34:09)	後小路 隆
40	循環管理関連	循環管理関連⑧ (e-learning) IABP に伴うリスク (28:38) IABP の操作および管理の方法 (34:03) IABP からの離脱のための補助の頻度の調整の適応と禁忌とリスク (22:48) IABP からの離脱の操作および管理の方法 (26:14)	後小路 隆
41	循環管理関連	循環管理関連⑧ (演習) 一時的ペースメーカーの操作および管理	後小路 隆
42	循環管理関連	循環管理関連⑩ (実習) 一時的ペースメーカーの操作および管理 (手順書の作成)	後小路 隆 増山 純二
43	循環管理関連	循環管理関連⑪ (演習) 一時的ペースメーカーリードの抜去の方法と手技	後小路 隆
44	循環管理関連	循環管理関連⑫ (実習) 一時的ペースメーカーリードの抜去の方法と手技 (手順書作成)	後小路 隆 増山 純二
45	循環管理関連	循環管理関連⑬ (演習) PCPS の操作および管理①	後小路 隆
46	循環管理関連	循環管理関連⑭ (実習) PCPS の操作および管理②	後小路 隆
47	循環管理関連	循環管理関連⑮ (実習) PCPS の操作および管理 (手順書作成)	後小路 隆 増山 純二
48	循環管理関連	循環管理関連⑯ (演習) IABP からの離脱を行うときの補助の頻度の調整	後小路 隆
49	循環管理関連	循環管理関連⑰ (実習) IABP からの離脱を行うときの補助の頻度の調整 (手順書の作成)	後小路 隆 増山 純二
50	循環管理関連	動脈血液ガス分析関連① (e-learning) 動脈血液ガス分析とは？ (19:00) 動脈穿刺法に関する局所解剖と生理とフィジカルアセスメント (49:00) 超音波検査による動脈と静脈の見分け方 (15:00)	後小路 隆
51	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連② (e-learning) 動脈血採取が必要となる状況、検査 (14:52) 動脈血液ガス分析が必要となる主要疾患とその病態 (29:41) 動脈血液ガス分析の評価 (48:01)	後小路 隆
52	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連③ (e-learning) 直接動脈穿刺法による採血の目的、適応と禁忌 (21:53) 穿刺部位と穿刺に伴うリスク (22:13) 患者に適した穿刺部位の選択 (19:02) 直接動脈穿刺法による採血の手技 (20:48)	後小路 隆
53	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連④ (e-learning)	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
		動脈ラインの確保の目的、適応と禁忌（22:01）穿刺部位と穿刺及び留置に伴うリスク（18:02）患者に適した穿刺及び留置部位の選択（14:03）橈骨動脈ラインの確保の手技（18:39）	
54	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連⑤（演習） 直接動脈穿刺法による採血の手技	後小路 隆
55	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連⑥（実習） 直接動脈穿刺法による採血の手技（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
56	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連⑦（演習） 橈骨動脈ラインの確保の手技	後小路 隆
57	動脈血液ガス分析関連	動脈血液ガス分析関連⑦（実習） 橈骨動脈ラインの確保の手技（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
58	動脈血液ガス分析関連	OSCE :橈骨動脈ラインの確保	後小路 隆 増山 純二 外部講師
59	透析管理関連	透析管理関連①（e-learning） 血液透析器および血液透析濾過器のメカニズムと種類、構造（49:04） 血液浄化法の選択と適応（28:13）	後小路 隆
60	透析管理関連	透析管理関連②（e-learning） 血液透析器および血液透析濾過器の操作および管理の方法（52:37） 急性血液浄化療法の総論と局所解剖・生理（33:05）	後小路 隆
61	透析管理関連	透析管理関連③（e-learning） 急性血液浄化療法を要する主要疾患の病態生理（59:47）急性血液浄化療法を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査（49:42）	後小路 隆
62	透析管理関連	透析管理関連④（e-learning） 急性血液浄化療法における透析の目的、適応、禁忌（49:25）急性血液浄化療法に伴うリスク（有害事象とその対策など）（53:19）	後小路 隆
63	透析管理関連	透析管理関連⑤（演習） 急性血液浄化療法の導入と管理	松枝 修明
64	透析管理関連	透析管理関連⑤（演習） 急性血液浄化療法における血液透析（濾過）器の操作および管理	梅尾晋行
65	透析管理関連	透析管理関連⑤（実習） 急性血液浄化療法における血液透析（濾過）器の操作および管理（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
66	終了試験	科目終了試験	後小路 隆

評 価	
教科書	1)医療情報科学研究所編：「診察と手技が見える Vol2」,メディックメディア 2)平岡栄治他編：「重症患者管理マニュアル」,メディカル・サイエンス・インターナショナル
参考図書等	1)医療情報科学研究所編：「病気が見える Vol.1～15」,メディックメディア 2)大野博司著：「ICU/CCU の薬の考え方,使い方 Ver.2」 中外医学社
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
ドレーン管理のための実践演習	講義	4 単位 (時間)	1 年前期	角秀秋、後小路隆、増山純二、外部講師

授 業 概 要					
診療看護師には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目ではドレーン管理に係る治療管理とケアを安全に実施できるための基礎的な知識と技術を学ぶ。講義、演習（シミュレーション、手順書作成）と系統的に学修を進め、筆記試験を実施する。治療管理とケアを実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。					
到 達 目 標					
1. ドレーン管理に係る治療管理とケアを実践するための知識を説明できる。 2. ドレーン管理に係る治療管理とケアを実践するための技術を実施できる。 3. 看護学の視点を踏まえたドレーン管理に係る治療管理とケアの実践について討議ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーン管理関連①（e-learning） 心嚢ドレナージに関する解剖・画像とドレナージの種類（28:51） 心嚢ドレナージに関する主要疾患の病態生理（45:01）	後小路 隆
2	心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーン管理関連②（e-learning） 心嚢液貯留に関するフィジカルアセスメントと検査（46:16） 心嚢ドレーンの抜去の目的、適応、禁忌（51:21）	後小路 隆
3	心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーン管理関連③（e-learning） 心嚢ドレーンの抜去のリスク（26:04） 心嚢ドレーンの抜去の手技（40:47）	後小路 隆
4	ドレーン管理関連	ドレーン管理 総合演習（縫合）	後小路 隆 外部講師
5	心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーン管理関連④（実習） 心嚢ドレーンの抜去の方法と手技・縫合（糸付け 糸結び）	角 秀秋
6	心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーン管理関連⑤（実習） 心嚢ドレーンの抜去の方法と手技（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
7	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連①（e-learning） 胸腔ドレナージに関する局所解剖と生理（36:56） 胸腔ドレナージを要する主要疾患とその病態生理（47:26）	後小路 隆
8	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連②（e-learning） 胸腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント（51:49） 胸腔ドレナージの目的、適応、禁忌、リスク、合併症（41:14）	後小路 隆
9	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連③（e-learning） 特殊な胸腔ドレーンの使用方法（21:47） 胸腔ドレーンの種類と低圧胸腔内持続吸引器の構造とメカニズム（49:56）	後小路 隆
10	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連④（e-learning） 低圧胸腔内持続吸引の適応、禁忌、リスクおよび設定と変更方法（34:05） 胸腔ドレーン挿入中の管理と看護（32:15）	後小路 隆
11	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑤（e-learning） 胸腔ドレーン抜去の適応・禁忌と抜去後の管理（30:35）胸腔ドレーンの留置と抜去に伴うリスク（40:00）胸腔ドレーンの抜去の方法と手技（18:50）	後小路 隆
12	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑥（演習） 低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更方法	後小路 隆 外部講師
13	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑦（実習） 低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更方法（手順書の作成）	後小路 隆 外部講師
14	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑧（演習）	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
		胸腔ドレーンの抜去の方法と手技	外部講師
15	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑨（実習） 縫合①	後小路 隆 外部講師
16	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑩（実習） 縫合②	後小路 隆 外部講師
17	胸腔ドレーン管理関連	胸腔ドレーン管理関連⑩（実習） 胸腔ドレーン抜去（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
18	腹腔ドレナージ管理関連	腹腔ドレナージ管理関連①（e-learning） 腹腔ドレナージに関する局所解剖（19:10）腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理（16:18） 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント（19:08）腹腔ドレナージの目的、適応、禁忌（18:09）	後小路 隆
19	腹腔ドレナージ管理関連	腹腔ドレナージ管理関連②（e-learning） 腹腔ドレナージに伴うリスク（17:01）胸腔ドレーンの種類（23:20）胸腔ドレーンの管理（28:06）	後小路 隆
20	腹腔ドレナージ管理関連	腹腔ドレナージ管理関連③（e-learning） 胸腔ドレーンの抜去の適応と禁忌（15:00）胸腔ドレーンの抜去に伴うリスク・注意事項（31:46）胸腔ドレーンの抜去の方法と手技（17:18）胸腔ドレーンの抜去後の管理（17:31）	後小路 隆
21	腹腔ドレナージ管理関連	腹腔ドレナージ管理関連④（演習） 胸腔ドレーンの抜去の方法と手技	後小路 隆 外部講師
22	腹腔ドレナージ管理関連	腹腔ドレナージ管理関連④（実習） 胸腔ドレーンの抜去の方法と手技・縫合（マットレス縫合）	後小路 隆 外部講師
23	腹腔ドレナージ管理関連	腹腔ドレナージ管理関連④（実習） 胸腔ドレーンの抜去（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
24	創部ドレーン管理関連	創部ドレーン管理関連①（e-learning） 創部ドレナージに関する局所解剖（15:48）創部ドレナージを要する主要疾患の病態生理（19:16） 創部ドレナージのマネジメントのフィジカルアセスメント（40:38）	後小路 隆
25	創部ドレーン管理関連	創部ドレーン管理関連②（e-learning） 創部ドレナージの目的（21:23）創部ドレナージの適応と禁忌（15:10）創部ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等（22:35）	後小路 隆
26	創部ドレーン管理関連	創部ドレーン管理関連③（e-learning） 創部ドレーン抜去の適応と禁忌（27:56）創部ドレーン抜去中のトラブル（有害事象とその対策等（25:27）創部ドレーン抜去後の報告（21:42）	後小路 隆
27	創部ドレーン管理関連	創部ドレーン管理関連④（演習） 創部ドレーンの抜去の方法と手技	後小路 隆 外部講師
28	創部ドレーン管理関連	創部ドレーン管理関連⑤（実習） 創部ドレーンの抜去（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
29	OSCE	OSCE；縫合	後小路 隆 外部講師
30	終了試験	科目終了試験	後小路 隆

評 価	
教科書	
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
疾病と治療 カテーテル管理と創傷管理	講義	4 単位 (時間)	1 年後期	後小路 隆、増山純二

授 業 概 要					
診療看護師（NP）には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目ではカテーテル管理と創傷管理に係る治療管理とケアを安全に実施できるための基礎的な知識と技術を学ぶ。講義、演習（シミュレーション、手順書作成）と系統的に学修を進め、筆記試験、実技試験（OSCE）を実施し、治療管理とケアを実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。					
到 達 目 標					
1. カテーテル管理と創傷管理に係る治療管理とケアを実践するための知識を説明できる。 2. カテーテル管理と創傷管理に係る治療管理とケアを実践するための技術を実施できる。 3. 看護学の視点を踏まえた薬物治療に係る治療管理とケアの実践について討議ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	ろう孔管理関連	（e-learning）ろう孔管理関連① 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうに関する局所解剖と生理（42:26） 胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメント（41:32）	後小路 隆
2	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連②（e-learning） 胃ろう、腸ろうのカテーテル留置と患者のQOL（34:56） 胃ろう、腸ろう患者の管理（34:28）	後小路 隆
3	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連③（e-learning） 胃ろう、腸ろうのカテーテル留置に必要なスキンケア（35:20） 膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理とフィジカルアセスメント（29:16） 膀胱ろうのカテーテル留置と患者のQOL（15:17）	後小路 隆
4	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連④（e-learning） 膀胱ろう患者の管理～カテーテル管理とフォローアップ～（37:20） 膀胱ろう管理で起こりうるトラブルとその対応（30:30）	後小路 隆
5	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑤（e-learning） 在宅環境におけるろう孔管理（38:57） 胃ろう及び腸ろうの目的、適応、禁忌（21:33） 栄養に関する評価（28:00）	後小路 隆
6	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑥（e-learning） 胃ろう造設の意思決定ガイドラインおよび胃ろう造設術（18:03） 胃ろう造設術後管理と胃ろうに伴うリスク（19:18） 胃ろうカテーテルおよび胃ろうボタンの種類と交換（16:30） 腸ろう造設術と腸ろうに伴うリスク（21:22）	後小路 隆
7	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑦（e-learning） 腸ろうカテーテルの種類と交換（25:00） 胃ろうおよび腸ろうの地域連携（23:51） 膀胱ろうの目的、適応、禁忌（40:02）	後小路 隆
8	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑧（e-learning） 膀胱ろうに伴うリスク、有害事象とその対応、対策（32:15） 膀胱ろう造設術および意思決定・患者説明（34:51） 膀胱ろうカテーテルの種類と交換（30:25） 膀胱ろうの在宅医療と地域連携（17:13）	後小路 隆
9	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑨（演習） 胃ろうカテーテルの交換	後小路 隆
10	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑩（演習） 膀胱ろうカテーテルの交換	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
11	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑪（実習） 膀胱ろうカテーテルの交換	後小路 隆
12	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑫（実習） 胃ろう・膀胱ろうカテーテルの交換	後小路 隆
13	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑬（実習） 胃ろう・膀胱ろうカテーテルの交換	後小路 隆
14	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑭（実習） 胃ろうカテーテルの交換（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
15	ろう孔管理関連	ろう孔管理関連⑮（実習） 膀胱ろうカテーテルの交換（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
16	ろう孔管理関連	OSCE 胃ろうカテーテルもしくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	後小路 隆 増山 純二 外部講師
17	ろう孔管理関連	OSCE 膀胱ろうカテーテルの交換	後小路 隆 増山 純二 外部講師
18	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理①（e-learning） 中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理（32:58）中心静脈カテーテルを要する主要疾患の病態生理（32:58）	後小路 隆
19	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理②（e-learning） 中心静脈カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント（30:45）中心静脈カテーテルの目的、適応、禁忌（24:48）中心静脈カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策等）（32:16）	後小路 隆
20	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理③（e-learning） 中心静脈カテーテルの抜去の適応と禁忌（22:30）中心静脈カテーテルの抜去に伴うリスクと対策・対応（41:41）中心静脈カテーテルの抜去の方法と手技（30:12）	後小路 隆
21	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理④（演習） 中心静脈カテーテルの抜去の方法と主義	後小路 隆
22	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理⑤（実習） 中心静脈カテーテルの抜去（手順書の作成）	後小路 隆
23	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連①（e-learning） PICC の総論と局所解剖（16:36）PICC を要する主要疾患の病態生理（21:06）PICC を要する主要疾患のフィジカルアセスメント（24:48）PICC の目的、適応、禁忌（20:00）	後小路 隆
24	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連②（e-learning） PICC に伴うリスク(有害事象とその対策等)(18:10)PICC の挿入の適応と禁忌(28:58) PICC の挿入に伴うリスク（24:21）	後小路 隆
25	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連③（e-learning） PICC の挿入の方法と手技（28:21）PICC の挿入のトラブル対応（27:28）PICC の挿入に関する患者説明、医師への報告（25:26）PICC の挿入の前後の管理、在宅での管理（13:17）	後小路 隆
26	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連④（演習） PICC の挿入①	後小路 隆
27	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連⑤（実習） PICC の挿入②	後小路 隆
28	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連⑤（実習） PICC の挿入③	後小路 隆
29	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連⑤（実習） PICC の挿入④	後小路 隆
30	栄養に係るカテーテル管理	栄養に係るカテーテル管理関連⑤（実習） PICC の挿入（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
31	栄養に係るカテーテル管理	OSCE 末梢留置型中心静脈注射カテーテルの挿入	後小路 隆 増山 純二 外部講師
32	創傷管理関連	創傷管理関連①（e-learning）	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
		皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖（25:36）創傷治癒過程と治癒遅延の原因のアセスメント・モニタリング（25:59）褥瘡予防・管理のための全身および局所のフィジカルアセスメント（44:48）	
33	創傷管理関連	創傷管理関連②（e-learning） 創傷治癒遅延にかかわる主要な基礎疾患の管理（54:26）慢性創傷の種類と病態（32:00）	後小路 隆
34	創傷管理関連	創傷管理関連③（e-learning） 褥瘡の分類、アセスメント・評価（44:20）褥瘡のリスクアセスメント（20:05）褥瘡および創傷治癒と栄養管理（31:47）	後小路 隆
35	創傷管理関連	創傷管理関連④（e-learning） 褥瘡および創傷治癒と体圧分散（55:44）褥瘡および創傷治癒と排泄管理（28:38）	後小路 隆
36	創傷管理関連	創傷管理関連⑤（e-learning） DESIGN-R に基づいた治療指針とモニタリング、ステージ別局所療法（43:36）褥瘡および創傷の診療のアルゴリズムと感染のアセスメント（43:54）	後小路 隆
37	創傷管理関連	創傷管理関連⑥（e-learning） 下肢創傷のアセスメントと病態別治療（1:22:05）	後小路 隆
38	創傷管理関連	創傷管理関連⑦（e-learning） 哆開創のアセスメントと治療（49:49）褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的（43:36）	後小路 隆
39	創傷管理関連	創傷管理関連⑧（e-learning） 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌（48:40）褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（55:40）	後小路 隆
40	創傷管理関連	創傷管理関連⑨（e-learning） DESIGN-R に準拠した壊死組織の除去の判断（45:13）全身状態の評価と除去の適性判断（57:43）	後小路 隆
41	創傷管理関連	創傷管理関連⑩（e-learning） 壊死組織と健常組織の境界判断（25:42）創傷被覆材の使い方（52:13）	後小路 隆
42	創傷管理関連	創傷管理関連⑪（e-learning） 創傷被覆材の保険適用と創傷被覆材の種類（41:10）創傷処置～外用薬を「あと一步」深く～（27:39）	後小路 隆
43	創傷管理関連	創傷管理関連⑫（e-learning） 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法（42:49）褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法（50:27）	後小路 隆
44	創傷管理関連	創傷管理関連⑬（e-learning） 在宅における壊死組織の除去の実際（45:05）創傷に対する局所陰圧閉鎖療法の種類と目的（50:06）	後小路 隆
45	創傷管理関連	創傷管理関連⑭（e-learning） 創傷に対する局所陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、リスク（有害事象とその対策（53:30）物理的療法の原理（38:05）	後小路 隆
46	創傷管理関連	創傷管理関連⑮（e-learning） 創傷に対する局所陰圧閉鎖療法の方法（40:01）創傷に対する局所陰圧閉鎖療法に伴う出血と止血のメカニズム（26:38）	後小路 隆
47	創傷管理関連	創傷管理関連⑯（e-learning） 創傷に対する局所陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血の実際（22:42）在宅における創傷管理（56:18）	後小路 隆
48	創傷管理関連	創傷管理関連⑰（演習） 褥瘡の病態・治療アセスメント	後小路 隆
49	創傷管理関連	創傷管理関連⑱（演習） 在宅患者褥瘡管理	後小路 隆
50	創傷管理関連	創傷管理関連⑲（演習） 手術部位感染（SSI）の管理	後小路 隆
51	創傷管理関連	創傷管理関連⑳（演習） 褥瘡（黒色壊死組織や黄色期）や難治性潰瘍の評価	後小路 隆
52	創傷管理関連	創傷管理関連㉑（演習） 壊死組織のデブリードマン/電気メスの使用方法	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
53	創傷管理関連	創傷管理関連②②（実習） 血流のない壊死組織の除去（シャープデブリードマン（鋭的デブリ））	後小路 隆
54	創傷管理関連	創傷管理関連②③（実習） 創傷に対する陰圧閉鎖療法①	後小路 隆
55	創傷管理関連	創傷管理関連②④（実習） 創傷に対する陰圧閉鎖療法②	後小路 隆
56	創傷管理関連	創傷管理関連②⑤（実習） 創傷に対する陰圧閉鎖療法③	後小路 隆
57	創傷管理関連	創傷管理関連②⑥（実習） 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
58	創傷管理関連	創傷管理関連②⑦（実習） 創傷に対する陰圧閉鎖療法（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
59	創傷管理関連	OSCE：褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	後小路 隆 増山純二 外部講師
60	終了試験	科目終了試験	後小路 隆

評 価	
教科書	
参考図書等	テキスト 1)医療情報科学研究所編：「診察と手技が見える Vol2」,メディックメディア 2)平岡栄治他編：「重症患者管理マニュアル」,メディカル・サイエンス・インターナショナル 参考書 1)医療情報科学研究所編：「病気が見える Vol.1～15」,メディックメディア 2)大井田尚継監修：「経腸栄養 100 の疑問」,医師薬出版株式会社
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
疾病と治療 薬物治療Ⅰ	講義	4 単位 (時間)	1 年後期	増山 純二 後小路 隆 外部講師

授 業 概 要					
診療看護師（NP）には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目では薬剤治療に係る治療管理とケアを安全に実施するための基礎的な知識と技術を学ぶ。講義、演習（シミュレーション、手順書作成）と系統的に学修を進め、筆記試験を実施する。治療管理とケアを実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。					
到 達 目 標					
1. 薬物治療に係る治療管理とケアを実践するための知識を説明できる。 2. 薬物治療に係る治療管理とケアを実践するための技術を実施できる。 3. 看護学の視点を踏まえた薬物治療に係る治療管理とケアの実践について討議ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連①	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連①（e-learning） 循環動態に関する局所解剖（43:14）循環動態に関する主要症候（46:56）	後小路 隆 (e-learning)
2	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連②	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連②（e-learning） 脱水や低栄養状態に関する主要症候（28:28）輸液療法の目的と種類（53:04）	後小路 隆 (e-learning)
3	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連③	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連③（e-learning） 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌（1:01:03）輸液時に必要な検査（18:53）	後小路 隆 (e-learning)
4	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連④	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連④（e-learning） 輸液療法の計画（48:06）低栄養状態の局所解剖、原因と病態生理（36:39）	後小路 隆 (e-learning)
5	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑤	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑤（e-learning） 低栄養状態に関するフィジカルアセスメントと検査（31:07）高カロリー輸液の種類と臨床薬理および関連する栄養学（29:09）高カロリー輸液の適応と使用方法（32:18）	後小路 隆 (e-learning)
6	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑥	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑥（e-learning） 高カロリー輸液の副作用とリスクおよびその対策（25:10）高カロリー輸液の判断基準（30:04）脱水症状に関する局所解剖（23:30）	後小路 隆 (e-learning)
7	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑦	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑦（e-learning） 脱水症状の原因と病態生理（22:04）脱水症状に関するフィジカルアセスメントと検査（30:11）脱水症状に対する輸液による補正に必要な輸液の種類と臨床薬理（22:02）	後小路 隆 (e-learning)
8	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑧	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑧（e-learning） 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法（26:52）脱水症状に対する輸液による補正の副作用とリスクおよびその対策（41:59）脱水症状に対する輸液による補正の判断基準（35:22）	後小路 隆 (e-learning)
9	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑨	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑨（演習） 手順書に基づいた高カロリー輸液の判断	後小路 隆
10	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑩	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑩（演習） 手順書に基づいた脱水症状に対する輸液による補正の判断	後小路 隆
11	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑪	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑪（演習） 手順書に基づいた脱水症状に対する輸液による補正の判断（高齢者）	後小路 隆
12	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑫	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑫（演習） 低ナトリウム血症の輸液管理	後小路 隆
13	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑬	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑬（演習） 低カリウム血症の輸液管理	後小路 隆
14	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑭	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑭（演習） 高浸透圧性非ケトン性昏睡の輸液管理	後小路 隆
15	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑮	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑮（演習） 脱水症状を有する入院患者の輸液管理	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
16	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑯	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連（演習） 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
17	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑰	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連⑰（演習） 脱水症状に対する輸液による補正（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
18	感染に係る薬剤投与関連①	感染に係る薬剤投与関連①（e-learning） 感染症の病態生理と感染症診療を始めるにあたって（50:16）感染予防策の基本～もう一度しっかり理解しよう～（1:28:58）	後小路 隆
19	感染に係る薬剤投与関連②	感染に係る薬剤投与関連②（e-learning） 感染症の主要徴候～主要症候と主要疾患～（1:01:58）感染症の診断概論と検査（44:04）	後小路 隆
20	感染に係る薬剤投与関連③	感染に係る薬剤投与関連③（e-learning） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（呼吸器、気道）（1:05:46）主要感染症のアセスメント、管理（尿路カテーテル）（40:33）	後小路 隆
21	感染に係る薬剤投与関連④	感染に係る薬剤投与関連④（e-learning） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（消化管・食中毒・CDI）（50:34）主要感染症のアセスメント、診断、管理（皮膚軟部組織）（1:01:21）	後小路 隆
22	感染に係る薬剤投与関連⑤	感染に係る薬剤投与関連⑤（e-learning） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（感染性心内膜炎）（32:55）主要感染症のアセスメント、診断、管理（周術期）（1:00:27）	後小路 隆
23	感染に係る薬剤投与関連⑥	感染に係る薬剤投与関連⑥（e-learning） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（血管カテーテル）（52:46）感染症治療の総論（42:51）	後小路 隆
24	感染に係る薬剤投与関連⑦	感染に係る薬剤投与関連⑦（e-learning） 抗微生物薬の種類と臨床薬理（抗菌薬）（46:34）各種抗菌化学療法薬の適応と、病態別の抗菌化学療法薬使用の考え方（46:23）	後小路 隆
25	感染に係る薬剤投与関連⑧	感染に係る薬剤投与関連⑧（e-learning） 抗微生物薬の種類と臨床薬理（抗真菌薬、抗ウイルス薬、ワクチン）（1:40:44）	後小路 隆
26	感染に係る薬剤投与関連⑨	感染に係る薬剤投与関連⑨（e-learning） 各種抗菌化学療法薬の副作用と薬物相互作用（43:32） 感染徴候に対する他の薬剤～種類、薬理、適応、副作用、使用方法～（47:19）	後小路 隆
27	感染に係る薬剤投与関連⑩	感染に係る薬剤投与関連⑩（e-learning） 病態に応じた患者に対する薬剤投与の判断基準（53:32）病態に応じた抗菌薬の治療（症例検討）（44:33）	後小路 隆
28	感染に係る薬剤投与関連⑪	感染に係る薬剤投与関連⑪（e-learning） 感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスクと適正使用（33:35）特殊病態下の感染症患者に対する感染症治療の考え方（53:15）	後小路 隆
29	感染に係る薬剤投与関連⑫	感染に係る薬剤投与関連⑫（演習） グラム染色①	藤村 宗司
30	感染に係る薬剤投与関連⑬	感染に係る薬剤投与関連⑬（演習） グラム染色②	藤村 宗司
31	感染に係る薬剤投与関連⑭	感染に係る薬剤投与関連⑭（演習） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（呼吸器）	後小路 隆
32	感染に係る薬剤投与関連⑮	感染に係る薬剤投与関連⑮（演習） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（CAUTI）	後小路 隆
33	感染に係る薬剤投与関連⑯	感染に係る薬剤投与関連⑯（演習） 主要感染症のアセスメント、診断、管理（血管カテーテル）	後小路 隆
34	感染に係る薬剤投与関連⑰	感染に係る薬剤投与関連⑰（演習） 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準（気道感染症）	後小路 隆
35	感染に係る薬剤投与関連⑱	感染に係る薬剤投与関連⑱（演習） 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準（尿路感染症）	後小路 隆
36	感染に係る薬剤投与関連⑲	感染に係る薬剤投与関連⑲（演習） 発熱性好中球減少症患者に対する薬剤投与の判断基準（日和見感染症）	後小路 隆
37	感染に係る薬剤投与関連⑳	感染に係る薬剤投与関連⑲（実習） 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
38	血糖コントロールに係る薬剤	血糖コントロールに係る薬剤投与関連①（e-learning）	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
	投与関連①	糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖と病態生理 (21:59) 糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント (46:23) インスリン療法の目的と基礎知識 (26:31)	
39	血糖コントロールに係る薬剤投与関連②	血糖コントロールに係る薬剤投与関連② (e-learning) 糖尿病とインスリン療法に関する検査 (45:40) インスリン製剤の種類と臨床薬理 (30:37)	後小路 隆
40	血糖コントロールに係る薬剤投与関連③	血糖コントロールに係る薬剤投与関連③ (e-learning) 各種インスリン製剤の適応と使用方法 (45:29) 各種インスリン製剤の副作用とその対応 (32:47)	後小路 隆
41	血糖コントロールに係る薬剤投与関連④	血糖コントロールに係る薬剤投与関連④ (e-learning) 入院、外来、在宅における糖尿病管理 (37:07) 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (45:55)	後小路 隆
42	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑤	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑤ (e-learning) 患者・環境に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (45:55) 病態・患者・環境に応じたインスリン製剤の調整の判断基準 (症例検討) (53:31)	後小路 隆
43	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑥	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑥ (e-learning) 病態に応じたインスリンの投与量の調整のリスク (45:20) インスリン療法中のトラブルシミュレーション (40:08)	後小路 隆
44	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑦	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑦ (e-learning) 外来でのインスリン療法と入院の適応 (1:02:41) インスリン療法に関する患者への説明と退院支援 (24:43)	後小路 隆
45	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑧	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑧ (e-learning) インスリン療法の基本 (17:27) 在宅におけるインスリン製剤の調整の判断基準 (34:02) インスリン療法をサポートする食事療法と運動療法 (19:17)	後小路 隆
46	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑨	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑨ (e-learning) インスリン以外の糖尿病治療薬の種類と臨床薬理 (26:40) 経口血糖降下薬とインスリンの併用、切り替え (43:52)	後小路 隆
47	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑩	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑧ (演習) 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準	鬼山佳祐
48	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑪	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑨ (演習) 在宅ケア患者におけるインスリン製剤の調整	鬼山佳祐
49	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑫	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑩ (演習) インスリン療法に関する患者への説明と退院支援	石井 正夫
50	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑬	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑪ (演習) 糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメントと検査	石井 正夫
51	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑭	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑫ (演習) インスリン製剤の適応と使用方法	石井 正夫
52	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑮	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑬ (演習) インスリン製剤の副作用のアセスメントとケア	石井 正夫
53	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑯	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑭ (演習) 併存疾患を有する患者に対するインスリン製剤の調整の判断基準	鬼山佳祐
54	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑰	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑮ (演習) インスリン療法中のトラブルシミュレーション	鬼山佳祐
55	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑱	血糖コントロールに係る薬剤投与関連⑮ (実習) インスリンの投与量の調整 (手順書の作成)	後小路 隆 増山 純二
56	術後疼痛管理関連①	術後疼痛管理関連① (e-learning) 硬膜外麻酔に関する局所解剖と主要疾患の病態生理 (37:31) 硬膜外麻酔の目的、適応、禁忌 (21:31) 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査 (術前) (36:05) 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメントと検査 (術後) (34:37)	後小路 隆
57	術後疼痛管理関連②	術後疼痛管理関連② (e-learning) 硬膜外麻酔に伴うリスク (29:47) 硬膜外麻酔に用いる薬剤の選択と投与量 (27:32) 硬膜外麻酔における鎮痛剤の選択と投与量の調整方法 (28:33) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与調整の実際 (11:37)	後小路 隆
58	術後疼痛管理関連③	術後疼痛管理関連③ (演習)	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
		硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	
59	術後疼痛管理関連④	術後疼痛管理関連④（実習） 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山純二
60	終了試験	科目終了試験	後小路 隆

評 価	
教科書	1)医療情報科学研究所編：「診察と手技が見える Vol2」,メディックメディア 2)平岡栄治他編：「重症患者管理マニュアル」,メディカル・サイエンス・インターナショナル 1)医療情報科学研究所編：「病気が見える Vol.1～15」,メディックメディア 2)大井田尚継監修：「経腸栄養 100 の疑問」,医師薬出版株式会社 3)日本慢性期医療協会編：「看護師特定行為研修テキストー区分別科目編ー」,株式会社メデイス
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
疾病と治療 薬物治療Ⅱ	講義	4 単位 (時間)	1 年後期	後小路 隆 増山純二 山口 浩雄 外部講師

授 業 概 要					
診療看護師（NP）には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目では薬剤治療に係る治療管理とケアを安全に実施するための基礎的な知識と技術を学ぶ。講義、演習（シミュレーション、手順書作成）と系統的に学修を進め、筆記試験を実施する。治療管理とケアを実践するための基礎的な知識・技術・態度を修得する。					
到 達 目 標					
1. 薬物治療に係る治療管理とケアを実践するための知識を説明できる。 2. 薬物治療に係る治療管理とケアを実践するための技術を実施できる。 3. 看護学の視点を踏まえた薬物治療に係る治療管理とケアの実践について討議ができる。					
事 前 学 習 ・ 事 後 学 習					
事前学習：事前学習において、資料を通読した上で授業を受ける。 事後学習：当日の授業内容の小テストを実施し、まとめをする					
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	
DP	(DP5)	(DP6)	(DP7)		

回数	単 元	内 容	担当教員
1	循環動態に係る薬剤投与関連①	循環動態に係る薬剤投与関連①（e-learning） 循環動態に関する局所解剖と生理（32:11）循環動態に関する主要症候（25:48）循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患の病態生理（41:06）	後小路 隆
2	循環動態に係る薬剤投与関連②	循環動態に係る薬剤投与関連②（e-learning） 循環動態の薬物療法を必要とする主要疾患のフィジカルアセスメントと検査（40:10） 輸液療法の目的と種類（21:04）輸液時に必要な検査（16:32）	後小路 隆
3	循環動態に係る薬剤投与関連③	循環動態に係る薬剤投与関連③（e-learning） 病態に応じた輸液療法の適応と禁忌（40:03）輸液療法の計画（32:00）カテコラミン製剤の種類と臨床薬理（14:48）	後小路 隆
4	循環動態に係る薬剤投与関連④	循環動態に係る薬剤投与関連④（e-learning） カテコラミン製剤の適応と使用方法（39:16）病態に応じたカテコラミンの投与量の調整および副作用と調整のリスク（34:58）	後小路 隆
5	循環動態に係る薬剤投与関連⑤	循環動態に係る薬剤投与関連⑤（e-learning） 持続点滴中の Na、K、Cl の臨床薬理（22:24）持続点滴中の Na、Cl の適応、使用方法、副作用、調整の判断基準とリスク（50:07）	後小路 隆
6	循環動態に係る薬剤投与関連⑥	循環動態に係る薬剤投与関連⑥（e-learning） 持続点滴中の K の適応、使用方法、副作用、調整の判断基準とリスク（42:42）降圧薬の種類と臨床薬理（21:52）各種降圧薬の適応、使用方法、副作用（29:45）	後小路 隆
7	循環動態に係る薬剤投与関連⑦	循環動態に係る薬剤投与関連⑦（e-learning） 病態に応じた降圧薬の投与量の調整の判断基準とリスク（22:41）糖質輸液、電解質輸液の種類と臨床薬理、適応と使用方法（46:04）	後小路 隆
8	循環動態に係る薬剤投与関連⑧	循環動態に係る薬剤投与関連⑧（e-learning） 病態に応じた電解質輸液の調整（水分・電解質補給）（59:12）病態に応じた糖質輸液の調整および輸液の副作用と調整のリスク（29:13）	後小路 隆
9	循環動態に係る薬剤投与関連⑨	循環動態に係る薬剤投与関連⑨（e-learning） 各種利尿薬の適応（22:01）各種利尿薬の薬理作用と副作用、使用方法（38:12）病態に応じた利尿薬の調整の判断基準とリスク（20:03）	後小路 隆
10	循環動態に係る薬剤投与関連⑩	循環動態に係る薬剤投与関連⑩-1（演習） 病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準	後小路 隆
11	循環動態に係る薬剤投与関連⑪	循環動態に係る薬剤投与関連⑩-2（演習） 病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準	後小路 隆
12	循環動態に係る薬剤投与関連⑫	循環動態に係る薬剤投与関連⑩-3（演習） 病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準	後小路 隆
13	循環動態に係る薬剤投与関連⑬	循環動態に係る薬剤投与関連⑪-1（演習） 病態に応じた持続点滴による Na、K 又は Cl の投与の調整の判断基準	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
14	循環動態に係る薬剤投与関連⑭	循環動態に係る薬剤投与関連⑪-2（演習） 病態に応じた持続点滴による Na、K 又は Cl の投与の調整の判断基準	後小路 隆
15	循環動態に係る薬剤投与関連⑮	循環動態に係る薬剤投与関連⑪-3（演習） 病態に応じた持続点滴による Na、K 又は Cl の投与の調整の判断基準	後小路 隆
16	循環動態に係る薬剤投与関連⑯	循環動態に係る薬剤投与関連⑫-1（演習） 病態に応じた降圧薬の投与量の調整の判断基準	後小路 隆
17	循環動態に係る薬剤投与関連⑰	循環動態に係る薬剤投与関連⑫-2（演習） 病態に応じた降圧薬の投与量の調整の判断基準	後小路 隆
18	循環動態に係る薬剤投与関連⑱	循環動態に係る薬剤投与関連⑬-1（演習） 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準	後小路 隆
19	循環動態に係る薬剤投与関連⑲	循環動態に係る薬剤投与関連⑬-2（演習） 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準	後小路 隆
20	循環動態に係る薬剤投与関連⑳	循環動態に係る薬剤投与関連⑬-3（演習） 病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準	後小路 隆
21	循環動態に係る薬剤投与関連㉑	循環動態に係る薬剤投与関連⑭-1（演習） 病態に応じた利尿薬の投与量の調整の判断基準	後小路 隆
22	循環動態に係る薬剤投与関連㉒	循環動態に係る薬剤投与関連⑭-2（演習） 病態に応じた利尿薬の投与量の調整の判断基準	後小路 隆
23	循環動態に係る薬剤投与関連㉓	循環動態に係る薬剤投与関連⑳（実習） 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
24	循環動態に係る薬剤投与関連㉔	循環動態に係る薬剤投与関連㉑（実習） 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
25	循環動態に係る薬剤投与関連㉕	循環動態に係る薬剤投与関連㉒（実習） 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
26	循環動態に係る薬剤投与関連㉖	循環動態に係る薬剤投与関連㉓（実習） 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
27	循環動態に係る薬剤投与関連㉗	循環動態に係る薬剤投与関連㉔（実習） 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
28	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連①	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連①（e-learning） 精神科面接と所見の取り方・書き方（36:00）精神系の局所解剖と生理・病態生理（34:05）	後小路 隆
29	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連②	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連②（e-learning） 精神科における主要症状と状態像（31:42）神経系の局所解剖と生理（20:44）神経学的 主要症候と神経疾患の病態生理（36:42）	後小路 隆
30	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連③	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連③（e-learning） 主要な神経疾患のフィジカルアセスメント（22:07）神経学的検査（44:40）主要な精 神・神経疾患の治療薬の基礎（耐性・依存性を含む）（25:04）	後小路 隆
31	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連④	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連④（e-learning） 心理・精神機能検査（41:42）けいれんの原因・病態生理、症状・診断（49:06）	後小路 隆
32	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑤	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑤（e-learning） 主要な精神・神経疾患の治療薬の臨床薬理と副作用（15:24）抗けいれん剤の種類と臨 床薬理（14:43）各種抗けいれん剤の適応と使用方法（18:44）抗けいれん剤の副作用と リスク（15:05）	後小路 隆
33	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑥	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑥（e-learning） 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準（37:14）抗精神病薬の種類と臨床薬理 （20:06）各種抗精神病薬の適応と使用方法（20:59）	後小路 隆
34	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑦	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑦（e-learning） 統合失調症の原因・病態生理、症状・診断（1:19:48）	後小路 隆
35	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑧	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑧（e-learning） 抗精神病薬の副作用とリスク（20:44）病態に応じた抗精神病薬の投与の判断基準 （1:03:15）	後小路 隆
36	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑨	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑨（e-learning） 不安障害の原因・病態生理、症状・診断（1:22:37）	後小路 隆
37	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑩	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑩（e-learning） 抗不安薬の種類と臨床薬理（21:18）各種抗不安薬の適応と使用方法（22:22）	後小路 隆

回数	単 元	内 容	担当教員
		抗不安薬の副作用とリスク（19:16）	
38	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑪	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑪（e-learning） 不安の診断と治療および抗不安薬の投与の判断基準（1:24:13）	後小路 隆
39	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑫	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑫（e-learning） 抗不安薬の種類と臨床薬理（21:18）各種抗不安薬の適応と使用方法（22:22）不眠症と睡眠障害（54:24）	後小路 隆
40	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑬	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑬（e-learning） 精神疾患の検査と診断・治療（1:02:37）せん妄ってなんだろう？（1:04:02）	後小路 隆
41	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑭	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑭（演習） 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準①	山口 浩雄
42	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑮	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑮（演習） 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準②	山口 浩雄
43	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑯	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑯（演習） 病態に応じた抗精神病薬の投与の判断基準	西村 良二
44	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑰	"精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑰（演習） 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準①"	西村 良二
45	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑱	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑱（演習） 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準②	西村 良二
46	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑲	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑲（演習） 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準③	西村 良二
47	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑳	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑱（演習） 模擬患者症例（ペーパーペーシェント）①	西村 良二
48	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連㉑	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連⑱（演習） 模擬患者症例（ペーパーペーシェント）②	山口 浩雄
49	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連㉒	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連㉒（実習） 抗痙攣薬の臨時的投与（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
50	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連㉓	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連㉒（実習） 抗精神病薬の臨時的投与（手順書の作成）	後小路 隆 増山 純二
51	皮膚損傷に係る薬剤投与関連①	皮膚損傷に係る薬剤投与関連①（e-learning） ステロイドについて看護師に知っておいてほしいこと（43:50）抗がん剤の種類と臨床薬理（47:11）	後小路 隆
52	皮膚損傷に係る薬剤投与関連②	皮膚損傷に係る薬剤投与関連②（e-learning） がん薬物療法の適応と副作用（45:00）血管外漏出に注意すべき薬剤（48:34）	後小路 隆
53	皮膚損傷に係る薬剤投与関連③	皮膚損傷に係る薬剤投与関連③（e-learning） ステロイド薬の種類と臨床薬理、適応疾患（39:32）ステロイド薬の副作用と看護師が注意すべき点（42:50）	後小路 隆
54	皮膚損傷に係る薬剤投与関連④	皮膚損傷に係る薬剤投与関連④（e-learning） 抗がん剤その他の薬剤が血管外に漏出したときの病態生理（30:03）薬剤の血管外漏出時の症候と診断（22:12）薬剤の血管外漏出時の対応と予防方法（42:14）	後小路 隆
55	皮膚損傷に係る薬剤投与関連⑤	皮膚損傷に係る薬剤投与関連④（e-learning） 各種抗がん剤の使用方法和抗がん剤投与中の患者の管理（1:04:28）薬剤の血管外漏出時のステロイド薬の適応と使用方法と投与量の調整（22:16）	後小路 隆
56	皮膚損傷に係る薬剤投与関連⑥	皮膚損傷に係る薬剤投与関連（演習） 各種抗がん剤の使用方法和抗がん剤投与中の患者の管理	後小路 隆
57	皮膚損傷に係る薬剤投与関連⑦	皮膚損傷に係る薬剤投与関連（演習） ステロイド薬の副作用のアセスメントおよびその対応	後小路 隆
58	皮膚損傷に係る薬剤投与関連⑧	皮膚損傷に係る薬剤投与関連（演習） 薬剤の血管外漏出時の症候と診断	後小路 隆
59	皮膚損傷に係る薬剤投与関連⑨	皮膚損傷に係る薬剤投与関連（演習） 薬剤の血管外漏出時のステロイド薬の投与および投与量の調整	後小路 隆
60	終了試験	科目終了試験	後小路 隆

評 価	
教科書	テキスト

	1)医療情報科学研究所編：「診察と手技が見える Vol2」,メディックメディア 2)平岡栄治他編：「重症患者管理マニュアル」,メディカル・サイエンス・インターナショナル
参考図書等	参考書 1)医療情報科学研究所編：「病気が見える Vol.1～15」,メディックメディア 2)大井田尚継監修：「経腸栄養 100 の疑問」,医師薬出版株式会社 3)日本慢性期医療協会編：「看護師特定行為研修テキストー区分別科目編ー」,株式会社メディス
留意事項	
オフィスアワー等	

科目名	NP実習				ナンバリング		
担当者	増山純二・富永隆治・後小路隆・外部講師						
開講年次	2	開講期	通年	単位	16	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	自由科目(NP養成関係)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字(5行以内) 診療看護師(NP)には、看護学を基盤として、診療とケアを統合した高度実践看護を提供できる能力が求められ、対象の病状に合わせて特定行為を含む治療管理とケアの実践を行う役割がある。本科目では診療看護師(NP)に必要なとされる包括的アセスメント及び看護的治療マネジメントの実践を通して、診療とケアを統合した高度実践看護を行うための基礎的能力を修得する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字(10行以内) 1. 様々な対象の状況に合わせた初期診療及び継続診療において包括的健康アセスメントができる。 2. 様々な対象の状況に合わせた初期診療及び継続診療において、医療処置・管理の実践や看護実践を通して看護マネジメント能力の修得をめざす。 3. チーム医療におけるNPの位置づけと役割を理解し、多職種と協働しながらチーム医療を提供できる。 4. 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。						
学習方法	最大文字数 180文字(3行以内) 実習では、事前学習を行い、学内で技術練習を確実にを行い実践に臨む。 医師の指導のもと、同意を得られた担当する対象者への実践を学ぶ。 医療チームの一員として多職種との協働を行う。 実習施設の事前訪問、実習中の記録について指導者、教員から指導をうける。 学生はNPを目指す立場を忘れず、責任をもって実習に臨む。 実習担当教員と密に連絡を取り、実習に臨むこと。(教員：増山、富永、後小路)						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字(3行以内) 実践看護学コースやNPアドバンス科目で学習したテキストや参考書を活用する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	
	包括的健康 アセスメントに 関する能力	包括的な症状 マネジメントに 関する能力	高度な看護実 践能力	看護教育・看護 管理に関する 能力	チーム医療の 実践能力	医療に関する 研究・開発能力	倫理的意思決 定能力	合計
学修比率	20	20	20	10	10	10	10	100
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○	○	○	40
授業態度	○	○	○	○	○	○	○	10
受講者の発表	○	○	○	○	○	○	○	30
授業への参加度	○	○	○	○	○	○	○	20
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

	NP実習 I (内科的治療管理)						
	実習目標 1 初期診療・内科的治療が必要な対象に、必要な診察ができる。 2 初期診療・内科的治療が必要な対象に、必要な管理ができる。 3 初期診療・内科的治療が必要な対象に、診察と看護を統合した実践ができる。 4 各診療科領域の専門的な検査、治療について説明できる。 5 特定行為が必要な対象に、特定行為を安全・安楽に実施できる。 6 多職種と協働しながら、チーム医療を提供できる。 7 プライマリケアにおける診療看護師(NP)の役割を説明できる。 8 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。						
	実習方法 1 実習場所 福岡和白病院 内科 腎臓内科 呼吸器 9階病棟 2 実習期間 3週間 3 実習内容 初期診療・内科的治療管理について、対象に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法を修得する 実習を行う。 4 実習指導者 福岡和白病院 田原正弘医師 5 実習調整担当教員 増山純二・富永隆治・後小路隆						

NP実習Ⅱ(外科的治療管理)

実習目標

- 1 外科治療が必要な対象に、必要な診察ができる。
- 2 外科治療が必要な対象に、必要な管理ができる。
- 3 外科治療が必要な対象に、診察と看護を統合した実践ができる。
- 4 各専門領域の専門的な検査、治療について説明できる。
- 5 特定行為が必要な対象に、特定行為を安全・安楽に実施できる。
- 6 多職種と協働しながら、チーム医療を提供できる。
- 7 外科領域における診療看護師(NP)の役割を説明できる。
- 8 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。

実習方法

- 1 実習場所 福岡和白病院 外科外来
4階病棟A 6階病棟 7階病棟
- 2 実習期間 4週間
- 3 実習内容 外科的治療管理について、対象に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法を修得する実習を行う。
- 4 実習指導者 福岡和白病院 蒲池浩文
- 5 実習調整担当教員 増山純二・富永隆治・後小路隆

NP実習Ⅲ(救急医療)

実習目標

- 1 1・2次救急対象に対して、重症度・緊急度の判断(トリアージ)ができる。
- 2 1・2次救急対象に対して、必要な医療面接ができる。
- 3 1・2次救急対象に対して、必要な身体診察ができる。
- 4 1・2次救急対象に対して、必要な検査項目を選択し、結果を解釈できる。
- 5 1・2次救急対象に対して、医療面接、身体診察、検査所見から鑑別診断・除外診断ができる。
- 6 1・2次救急対象に対して、必要な管理ができる。
- 7 特定行為が必要な対象に、特定行為を安全・安楽に実施できる。
- 8 多職種と協働しながら、チーム医療を提供できる。
- 9 救急医療における診療看護師(NP)の役割を説明できる。
- 10 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。

実習方法

- 1 実習場所 福岡和白病院 救急外来
各病棟
- 2 実習期間 2週間
- 3 実習内容 救急医療を必要とする対象に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法を修得する実習を行う。
- 4 実習指導者 福岡和白病院 田原正宏医師
- 5 実習調整担当教員 増山純二・富永隆治・後小路隆

NP実習Ⅳ(周術期) ■

実習目標

- 1 術前訪問において術前評価ができる。
- 2 麻酔に関わる患者の術中の管理計画を立案し、麻酔の準備・導入・維持・覚醒に伴う患者の管理について説明できる。
- 3 術後合併症予防と急性術後疼痛管理に伴う患者の管理について説明できる。
- 4 特定行為が必要な対象に、特定行為を安全・安楽に実施できる。
- 5 多職種と協働しながら、チーム医療を提供できる。
- 6 周術期における診療看護師(NP)の役割を説明できる。
- 7 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。

実習方法

- 1 実習場所 福岡和白病院 手術室 ICU
- 2 実習期間 2週間
- 3 実習内容 周術期における対象に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法を修得する実習を行う。
- 4 実習指導者 福岡和白病院 濱田孝光医師
- 5 実習調整担当教員 増山純二・富永隆治・後小路隆

NP実習Ⅴ(集中治療)

実習目標

- 1 ICUへの入退室の基準を説明できる。
- 2 集中治療領域の対象に必要な呼吸管理の導入、維持、離脱ができる。
- 3 集中治療領域の対象に循環動態を評価し必要な管理ができる。
- 4 集中治療領域の対象に栄養・代謝を評価し必要な管理ができる。
- 5 集中治療領域の対象に感染対策を実施し、抗菌剤使用に伴う管理ができる。
- 6 集中治療領域の対象に必要な鎮静・鎮痛管理ができる。
- 7 特定行為が必要な対象に、特定行為を安全・安楽に実施できる。
- 8 多職種と協働しながら、チーム医療を提供できる。
- 9 集中治療領域における診療看護師(NP)の役割を説明できる。
- 10 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。

	実習方法 1 実習場所 長崎大学病院 福岡和白病院 ICU 2 実習期間 3週間（長崎大学病院 集中治療部(ICU):2週間 / 福岡和白病院:1週間） 3 実習内容 集中治療を必要とする対象に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法を修得する実習を行う。 4 実習指導者 長崎大学病院 特任教授 泉野浩生医師 / 福岡和白病院 元春洋輔医師 5 実習調整担当教員 増山純二・富永隆治・後小路隆
	NP実習Ⅵ(地域・在宅医療) 実習目標 1 地域の健康問題及び保健医療福祉システムの課題について説明できる。 2 医療支援が必要な利用者に対して、必要な診察ができる。 3 医療支援が必要な利用者に対して、必要な治療を説明できる。 4 医療支援が必要な利用者に対して、診察と看護を統合した実践ができる。 5 医療支援が必要な利用者に対して、保健医療システムを活用しながら、地域・在宅での生活への支援方法について説明できる。 6 特定行為が必要な利用者、特定行為を安全・安楽に実施できる。 7 多職種と協働しながら、チーム医療を提供できる。 8 地域医療における診療看護師(NP)の役割を説明できる。 9 倫理観をもって健康アセスメントやその評価ができる。 実習方法 1 実習場所 伊東内科小児科医院在宅療養支援診療所、 長崎県企業団 長崎苓岐病院 患者支援センター 2 実習期間 2週間 3 実習内容 地域治療を必要とする対象に応じた包括的健康アセスメントを行い、その治療方法を修得する実習を行う。 4 実習指導者 伊東内科小児科医院在宅療養支援診療所 院長 伊東 洋 長崎苓岐病院診療看護師 庄山由美(NP)・岩本由衣(NP) 5 実習調整担当教員 増山純二・富永隆治・後小路隆
	特定行為研修 目的 NP実習において、受け持った対象の特定行為実践の必要性の判断や評価を含め、指導医のもと特定行為技術の修得をめざす。 目標 1 特定行為の実践において対象の安全と倫理的観点から遵守すべき視点を説明できる。 2 特定行為の必要性の判断や、適応や禁忌の判断、実施時及び実施前後のアセスメントを説明し、記述できる。 3 特定行為の実施の前中後において、医療チームとの協働の重要性やチームの中での診療看護師の役割について説明できる。 4 特定行為の実習を通して、診療看護師となるための専門的知識や技術、臨床推論・判断、または倫理観や説明責任を含む態度等、自己の思考や行動を省察できる。 内容 1 実習では、医師の指導の下、特定行為を経験する診療場面に積極的に参加する。 2 看護師が行う特定行為の必要性を、実施前中後の判断、評価を含めて思考する。 3 特定行為については、医師の包括的指示がある場合でも実習生一人では行わない。必ず、指導医の指導の下に行う。 4 特定行為を実施した場合は、その内容を特定行為のレポートに記述し指導医の指導を受ける。 5 経験した特定行為については、の到達目標チェック表に記載し自己管理し20区分37行為を実習期間で経験できるようにする。
	医療安全実践演習・実習 目的 NP実習や特定行為研修の実習経験から、医療安全やチーム医療の重要性を深める。 目標 NP実習、特定行為研修終了後の実習まとめ検討会で経験した事例を通して、検討会で学びを共有し、自己の振り返りと課題を明らかにする。 方法 実習まとめの検討会(1日:4コマ)で学びを共有する。
学習方法	1)実習までに実習目標に関する事前学習に取り組む。 2)実習中は、学習内容を記録し学んだ内容を整理する。 3)実習レポート等は所定の様式に記録し整理する。
評価方法	実習目標の達成度、記録物、課題レポート、実習への参加態度等で総合的に評価する。 医療安全実践演習・実習については、実習まとめの発表会の参加度等、観察評価を行う。
テキスト 参考書	適宜紹介する。
履修上の留意点	1)履修について NPコース教育課程で履修が必要な共通科目及び専門科目を履修していること。 実習前学力試験及びOSCEを受けていること。 事前学習を行い自己研鑽に努めること。 2)出欠席について 科目ごとの実習担当教員のサイン若しくは押印により確認する。 3)科目評価について 当該科目の出席日数が5分の4以上満たしている場合に評価を行う。
備考	1)実習におけるカンファレンスや学内日では、大学院の指導教員と調整指導を受ける。 2)実習中における事故等については、実習指導の指導医に報告し対応すること、また同時に大学院指導教員へすぐに報告する。

科目名	クリティカルケア特論				ナンバリング		
担当者	増山純二・後小路隆						
開講年次	2	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	自由科目(NP養成関係)	
授業の概要及びねらい	最大文字数 300文字(5行以内) 看護学を基盤にした診療とケアを統合した高度実践看護を提供するために、クリティカルケア領域における救急医療、集中治療の治療管理とケアについて学ぶ。また、クリティカルケア領域における診療看護師の役割と責任について探求する。						
授業の到達目標	最大文字数 600文字(10行以内) 1)一次救命処置、二次救命処置の実施ができ、救急蘇生チームのリーダーの役割を担うことができる。 2)救急初療、集中治療での治療管理とケアについて説明できる。 3)クリティカルケア領域における診療看護師の役割と責任について説明できる。 4)クリティカルケア領域における診療看護師の役割と責任について探求する。						
学習方法	最大文字数 180文字(3行以内) 救急、集中治療の治療管理を中心に講義を行う。インプット学習ではあるが、アクティブラーニングをもとに授業を行うため、質問には積極的に回答し、また、協同学習として議論させながら学習する。						
テキスト及び参考書籍	最大文字数 150文字(3行以内) 日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会ICLSコース教材開発ワーキンググループ(編集),改訂第5版日本救急医学会ICLSコースガイドブック,羊土社,2022 一般社団法人 日本蘇生協議会(監修),JRC蘇生ガイドライン2020,医学書院,2021 日本救急医学会(著),日本救急医学会専門医認定委員会(著),救急診療指針,へるす出版,2018 櫻山 鉄矢、坂本 壮,ER実践ハンドブック改訂版～現場で生きる初期対応の手順と判断の指針,羊土社,2022清水敬樹(編集),ICU実践ハンドブック改訂版～病態ごとの治療・管理の進め方,羊土社,2019						

医療系健康科学専攻	到達目標							
	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	合計
	包括的健康アセスメントに関する能力	包括的な症状マネジメントに関する能力	高度な看護実践能力	看護教育・看護管理に関する能力	チーム医療の実践能力	医療に関する研究・開発能力	倫理的意思決定能力	
学修比率	30	20	20	10	10		10	100
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		○	40
授業態度	○	○	○	○	○		○	10
受講者の発表	○	○	○	○	○		○	30
授業への参加度	○	○	○	○	○		○	20
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画(学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	救急初療の治療と管理:救急初療看護とトリアージ①	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
2	事前学習(予習)	アルゴリズムの確認	増山純二 後小路 隆
	授業	救急初療の治療と管理:救急初療看護とトリアージ②	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
3	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	救急初療の治療と管理:救急初療の治療と管理②:外傷初期看護① 講義	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
4	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	救急初療の治療と管理:救急初療の治療と管理②:外傷初期看護②演習	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	

5	事前学習(予習)	資料の確認	山勢 善江
	授業	ICUにおける治療と管理:家族ケア①	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
6	事前学習(予習)	資料の確認	山勢 善江
	授業	ICUにおける治療と管理:家族ケア②	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
7	事前学習(予習)	資料の確認	田戸 朝美
	授業	ICUにおける治療と管理:ICU関連機能障害の予防①	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
8	事前学習(予習)	資料の確認	田戸 朝美
	授業	ICUにおける治療と管理:ICU関連機能障害の予防②	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
9	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	救急初療の治療と管理①:一次救命処置、二次救命処置	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
10	事前学習(予習)	資料の確認	外部講師
	授業	周術期管理に必要な麻酔の基礎と管理①	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
11	事前学習(予習)	資料の確認	外部講師
	授業	周術期管理に必要な麻酔の基礎と管理②	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
12	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	クリティカル領域における臨床判断シミュレーション(ER・ICU)①	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
13	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	クリティカル領域における臨床判断シミュレーション(ER・ICU)②	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
14	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	クリティカル領域における臨床判断シミュレーション(ER・ICU)③	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
15	事前学習(予習)	資料の確認	増山純二 後小路 隆
	授業	クリティカル領域における臨床判断シミュレーション(ER・ICU)④	
	事後学習(復習)	小テスト(e-learning)	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・1コマ当たり、90分以上の事前・事後の学習が必要である。 ・演習を行うが、院生の積極的な参加を望む。 ・終了時の小テスト(e-learning)においては、受講後に知識定着の為にを行う。 ・質疑応答を受け、細やかな指導を行う。 ・オフィスアワーについては、月曜日12時～2708研究室。	

科目名	プライマリケア特論				ナンバリング		
担当者	正野逸子・後小路隆						
開講年次	2	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	実践看護学コース				分類	自由科目(NP養成関係)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字(5行以内) 看護学を基盤にした診療とケアを統合した高度実践看護におけるプライマリケア領域の診療看護師として活動するために、必要な基礎的知識・技術・態度を修得する。そのためにプライマリケアの考え方と必要な諸理論、在宅医療システム、在宅における主な療養者の治療管理とケアについて学ぶ。また、プライマリケア領域における診療看護師(NP)の役割と責務について探求する。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字(10行以内) 1)プライマリケアの考え方と必要な諸理論について説明できる。 2)在宅医療・在宅ケアのシステムについて説明できる。 3)プライマリケアの主な療養者の治療管理とケアの特徴について説明できる。 4)プライマリケア領域における診療看護師の役割と責任について探求する。 5)看護学の視点を踏まえた在宅医療における治療管理とケアの実践について討議できる。						
学習方法	最大文字数 180文字(3行以内) プライマリケアの考え方と必要な諸理論について、および在宅医療の主な療養者の治療管理とケアについて、アクティブラーニングをもとに授業を行うため、事前学習と積極的なディスカッションを求められる。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字(3行以内) テキスト・参考書は適宜紹介する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標							
	D1	D2	D3	D4	D5	D6	D7	
	包括的健康 アセスメントに 関する能力	包括的な症状 マネジメントに 関する能力	高度な看護実 践能力	看護教育・看 護管理に関す る能力	チーム医療の 実践能力	医療に関する 研究・開発能 力	倫理的意思決 定能力	合計
学修比率	30	30			20		20	100
評価基準・方法								
定期試験								
小テスト等								
宿題・授業外レポート	○	○			○		○	60
授業態度	○	○			○		○	10
受講者の発表	○	○			○		○	20
授業への参加度	○	○			○		○	10
その他						(最大文字数 50文字)		
合計								100

授業計画(学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習(予習)	日本のプライマリケアとはについて文献をもとにレポートする	正野逸子
	授業	ガイダンス プライマリケアとは	
	事後学習(復習)	授業をもとにプライマリケアについて整理する	
2	事前学習(予習)	ヘルスプロモーション、健康行動理論について文献をもとにレポートする	正野逸子
	授業	プライマリケアに必要な諸理論Ⅰ(ヘルスプロモーション、健康行動理論等)	
	事後学習(復習)	授業をもとにヘルスプロモーションについて整理する	
3	事前学習(予習)	ナラティブアプローチについて文献をもとにレポートする	正野逸子
	授業	プライマリケアに必要な諸理論Ⅱ(ナラティブアプローチ)	
	事後学習(復習)	授業をもとにナラティブアプローチについて整理する	
4	事前学習(予習)	強化理論、セルフマネジメントモデルについて文献をもとにレポートする	正野逸子
	授業	プライマリケアに必要な諸理論Ⅲ(強化理論、セルフマネジメントモデル)	
	事後学習(復習)	授業をもとに強化理論、セルフマネジメントモデルについて整理する	

5	事前学習(予習)	在宅医療のシステムについて文献をもとにレポートする	正野逸子
	授業	在宅医療とは、在宅医療・在宅ケアの現状と課題	
	事後学習(復習)	授業をもとに在宅医療のシステムと課題を整理する	
6	事前学習(予習)	在宅医療が必要な子どもの疾患と治療について、文献をもとにレポートする	菊原美緒
	授業	在宅医療が必要な子どもと家族支援	
	事後学習(復習)	授業をもとに在宅医療が必要な子どもと家族への支援、診療看護師(NP)の役割を整理する	
7	事前学習(予習)	重度心身障害児と家族の状況について、文献をもとにレポートする	菊原美緒
	授業	重度心身障害児と家族への支援	
	事後学習(復習)	授業をもとに重度心身障害児と家族への支援、診療看護師(NP)の役割を整理する	
8	事前学習(予習)	高齢者の老年症候群の特徴と治療について文献をもとにレポートする	久木原博子
	授業	高齢者の健康問題と看護援助Ⅰ(老年症候群)	
	事後学習(復習)	授業をもとに老年症候群療養者の治療と看護の特徴、診療看護師(NP)の役割を整理する	
9	事前学習(予習)	高齢者の老年症候群の特徴と治療について文献をもとにレポートする	久木原博子
	授業	高齢者の健康問題と看護援助Ⅰ(老年症候群)	
	事後学習(復習)	授業をもとに老年症候群療養者の治療と看護の特徴、診療看護師(NP)の役割を整理する	
10	事前学習(予習)	成人の生活習慣病の特徴と治療について、文献をもとにレポートする	吉村寿郎
	授業	成人の健康問題と看護援助Ⅰ(生活習慣病の管理と悪化予防)	
	事後学習(復習)	授業をもとに生活習慣病療養者の治療と看護の特徴、診療看護師(NP)の役割を整理する	
11	事前学習(予習)	成人の慢性疾患の特徴と治療について、文献をもとにレポートする	吉村寿郎
	授業	成人の健康問題と看護援助Ⅱ(慢性疾患の管理と悪化予防)	
	事後学習(復習)	授業をもとに慢性疾患療養者の治療と看護の特徴、診療看護師(NP)の役割を整理する	
12	事前学習(予習)	人生の最終段階を迎える人の特徴とケアについて文献をもとにレポートする	正野逸子
	授業	人生の最終段階を迎える人に対する看護	
	事後学習(復習)	授業をもとに人生の最終段階を迎える人の特徴とケア、診療看護師(NP)の役割を整理する	
13	事前学習(予習)	資料を事前に読んで文献をもとにレポートする	光根美保 正野逸子 後小路隆
	授業	診療所における診療看護師(NP)の役割と責務	
	事後学習(復習)	授業をもとに診療所における診療看護師(NP)の活動内容と役割を整理する	
14	事前学習(予習)	資料を事前に読んで文献をもとにレポートする	光根美保 正野逸子 後小路隆
	授業	訪問看護ステーションにおける診療看護師(NP)の役割と責務	
	事後学習(復習)	授業をもとに訪問看護ステーションにおける診療看護師(NP)活動内容と役割を整理する	
15	事前学習(予習)	資料を事前に読んで文献をもとにレポートする	光根美保 正野逸子 後小路隆
	授業	在宅医療における診療看護師(NP)の事例検討	
	事後学習(復習)	授業をもとに在宅医療における診療看護師(NP)の活動内容と役割を整理する	
備考		最大文字数640文字(10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合等により変更が生じる場合がある。 ・1コマ当たり、90分以上の事前・事後の学習が必要である。 ・アクティブラーニングを中心に授業を行うので、院生の積極的な参加を望む。 ・事前課題のレポートは評価の対象とする。 ・オフィスアワーについては、火曜 15～19時 2906研究室	

科目名	教育原論				ナンバリング		
担当者	木村栞太						
開講年次	1	開講期	前期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	自由科目 (教育関係)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内)						
	教育という営みを原理的に理解すること等を通じて、教育学における基本的な見識を深め、「看護やケアを生業とする高度専門職業人として教育学をまなぶ意義」についての持論の形成を目指す。また、少人数制を活かし演習形式の授業を継続的に実施する中で、文献購読、情報の要約・伝達、他者との議論等を繰り返し、他者と対話する技術の情勢を図る。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内)						
	1)「看護やケアを生業とする高度専門職業人として教育学を学ぶ意義」を持論として述べられる。 2)よりよい看護実践を目指す態度を有している。 3)能動的に他者との対話を試みる態度を有している。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内)						
	主に文献購読の手法を採用する。初回で、報告箇所の確認と分担を行い、以降、報告者は担当章の要約と本科目を貫く問題意識に則した自身の考えを報告する。また、アクティブラーニングの手法として、受講者は各回ごとに自身が思考したことがらをミニッツ・ペーパーに記載し、他の受講者の共有することで学びを深める。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内)						
	・テキスト:中井俊樹・小林忠資編著『看護のための教育学 第2版』(2022年、医学書院) ・参考書籍:中原淳『話し合いの作法』(2022年、PHP研究所) 他						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		合計
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	
学修比率			20	20		30		30	100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート								○	20
授業態度									
受講者の発表				○		○			50
授業への参加度			○					○	30
その他						(最大文字数 50文字)			
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	シラバスの通読とテキストの用意を行っておく	木村葉太
	授業	ガイダンス 本科目の学習目標、計画、評価方法等	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに自己の学修計画を立案しておく	
2	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村葉太
	授業	さまざまな指導の工夫① テキスト10章「ディスカッションの技法」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
3	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村葉太
	授業	さまざまな指導の工夫② テキスト11章「リフレクションの技法」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
4	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村葉太
	授業	さまざまな指導の工夫③ テキスト8章「学習意欲を高める技法」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
5	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村葉太
	授業	さまざまな指導の工夫④ テキスト9章「コーチングの技法」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
6	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村葉太
	授業	人の発達と学習① テキスト1章「学ぶことと教えること」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	

7	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	人の発達と学習② テキスト2章「人の発達を理解する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
8	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	人の発達と学習③ テキスト3章「学習の原理を理解する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
9	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	指導の基本① テキスト4章「指導者の役割と倫理を理解する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
10	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	指導の基本② テキスト5章「指導を設計する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
11	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	指導の基本③ テキスト6章「効果的に指導する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
12	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	指導の基本④ テキスト7章「学習を評価する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
13	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	キャリア開発と学習① テキスト12章「看護師としての学習を理解する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
14	事前学習 (予習)	該当箇所の通読 (報告者は担当箇所の報告準備)	木村 菜太
	授業	キャリア開発と学習② テキスト13章「キャリア開発に向けて学習する」	
	事後学習 (復習)	ミニッツ・ペーパーの提出と他の受講者のペーパーへのコメント	
15	事前学習 (予習)	本科目における学びの振り返りとその言語化	木村 菜太
	授業	まとめの授業 本科目の振り返りと期末課題の提示	
	事後学習 (復習)	期末課題の提出	
備考		最大文字数640文字 (10行以内)	
		・本授業計画は、あくまで計画であるため、授業の進捗状況に合わせて内容が前後したり、微修正される場合がある。 ・オフィスアワーについては、メールか、事前に予約し授業の後に対応する。	

科目名	教育方法論				ナンバリング		
担当者	押井那歩						
開講年次	1	開講期	後期	単位	2	必修・選択	選択
開講コース	全コース				分類	自由科目 (教育関係)	
授業の概要 及びねらい	最大文字数 300文字 (5行以内) 本科目は、主に教職を目指す学生を対象とし、教育の方法および技術に関する基礎的・発展的内容について理解することを通して、教育活動を展開する基盤となる資質・能力を養う。具体的には、具体的には、教育方法に関する諸分野 (カリキュラム論, 教育目標・内容論, 授業論, 学習論, 学力論, 教育評価論等) を学ぶことを通して教育の方法および技術に関する基礎的知識を習得するとともに、教育方法に関する文献講読・ディスカッションを通して教育の方法および技術に関する意義や課題について理解を深める。						
授業の 到達目標	最大文字数 600文字 (10行以内) 教育方法および技術の基礎的・発展的内容を理解することを目的とする。具体的には、以下の3点である。 1)教育方法に関する諸論 (カリキュラム論, 教育目標・内容論, 学習論, 授業論, 学力論など) について、基礎的内容を説明することができる。 2)文献講読およびディスカッションを通して、教育方法に関する意義や課題について具体的に指摘することができる。 3) 1)および2)を踏まえ、実践場面を想定した教育方法および指導技術の活用について具体的に説明することができる。						
学習方法	最大文字数 180文字 (3行以内) 文献の講読とディスカッションによる演習を中心とする。教育方法に関する基礎的知識の習得については、講義による解説とディスカッションでの指導・助言による解説とを受講生の学修状況等に応じて柔軟に組み合わせる。						
テキスト及び 参考書籍	最大文字数 150文字 (3行以内) 適宜配布する。						

医療系健康科学 専攻	到達目標								
	D1		D2		D3		D4		
	健康支援が 必要な対象の理 解	医療人として の倫理観	高度な 知識と技術	マネジメント 能力	健康状態の 科学的かつ 包括的な評価	実践的な研究能 力	現場や地域の ニーズと課題 の明確化	専門職連携に基 づく 協働的方法	合計
学修比率		10	70			20			100
評価基準・方法									
定期試験									
小テスト等									
宿題・授業外レポート			○			○			40
授業態度		○	○			○			20
受講者の発表		○	○			○			40
授業への参加度									
その他	(最大文字数 50文字)								
合計									100

授業計画 (学習内容・スケジュール)			担当教員
1	事前学習 (予習)	これまでの教育活動経験 (または被教育経験) と経験を通しての気づきや疑問を整理しておく	押井那歩
	授業	ガイダンス	
	事後学習 (復習)	ガイダンスをもとに次回以降の課題作成等について計画を立てる。	
2	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	教育目標・内容論 (1) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
3	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	教育目標・内容論 (2) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
4	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	学習論 (1) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
5	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	学習論 (2) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
6	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	学力論 (1) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	

7	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	学力論 (2) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
8	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	授業論 (1) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
9	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	授業論 (2) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
10	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	教育評価論 (1) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
11	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	教育評価論 (2) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
12	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	現代教育方法学の論点・課題 (1) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
13	事前学習 (予習)	指定文献を講読し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	現代教育方法学の論点・課題 (2) (指定文献を講読し、ディスカッションを行う)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
14	事前学習 (予習)	各自で文献を選定・講読し、設定した課題についてのレポートを作成する。	押井那歩
	授業	各自の選定したテーマに基づく課題の成果発表・ディスカッション (1)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
15	事前学習 (予習)	前回のディスカッション内容を踏まえて課題を再設定し、レポートを作成する。	押井那歩
	授業	各自の選定したテーマに基づく課題の成果発表・ディスカッション (2)	
	事後学習 (復習)	ディスカッションの内容をもとにレポートの内容を再整理する。	
備考		最大文字数640文字 (10行以内) ・授業計画はあくまで予定であり、講師の都合・受講人数等により変更が生じる場合がある。 ・学生の積極的・主体的な参加を求める。 ・オフィスアワーについてはメールか、事前に予約し授業の後に対応する。	